

警察政策学会資料 第五十一号  
平成二十(二〇〇八)年七月

「警察巡閱規則」  
「註解」

警察政策学会  
警察史研究部会

# まえがき

## 「警察巡閲規則」について

警察巡閲規則は明治二十年六月（内務省訓令第三十六号）制定施行され、その解説として警察監獄学会雑誌第一号（明治二二・一一）から第二卷一二号（明治二四・一二）まで二年余一六回に亘り「警察巡閲規則註解」として連載された。

戊辰戦争を経て明治新政府が成立して二十年、西南戦争から十年を経過し、その間幾多の苦難を乗り越え漸く警察の軍事的行動に対する期待も無くなり、本来の治安維持の任務に当たるべく、組織の整備充実と警察官の資質の向上のための諸施策が打ち出されたが「警察巡閲規則」もその一環である。

今を去る百二十年余を遡る当時の時代背景と現代の社会情勢・世相との格差は到底比較にならないが爾来時代の流れに沿い幾たびか改正を重ねながらその基本に於いては現在も執行務のなかに生かされており、警察の役割りと責務に変わりりは無く、最近の警察を取り巻く厳しい環境のなか「温故知新」の例えもあり、警察草創期における先賢の叡智と見識を付度し警察史研究部会において研究課題としてとりあげ、今後の諸施策を推進するうえに於いて聊かでも参考になればと紹介する次第である。

注 本資料はその後改廃された法令規則に関する事項が多く含まれているが執筆者の意図を理解するため、できるだけ原文のまま（一部行替え及び句読点を付し）転載した。

警察巡閲規則〔註解〕目次

まえがき

○ 警察巡閲規則（内務省訓令第三十六号）……………一

○ 警察巡閲規則〔註解〕……………四

第一條 本則制定趣旨……………五

第二條 巡閲の時期及び実施者……………五

第三條 巡視査閲項目（一～二十）……………六

第四條 警察官吏に対する視察……………五九

第五條 人民の意見申告の受理……………六〇

第六條 結果報告（警視總監・知事⇨内務大臣）……………六一

あとがき

巡閲規則について……………六二

1 その背景……………六二

2 巡閲規則の変遷……………六六

参考 | 初期に於ける警視庁警察官の増員数等……………六七

六月十一日

内務省警察巡閲規則ヲ定ム

内務省訓令 警視廳 府縣

東京府ヲ除ク

第三十六號

警察巡閲規則左ノ通之ヲ定ム

二十年六月十一日

警察巡閲規則

第一條 本則ハ警察各部ニ於ケル紀律ノ張弛、服務ノ勤惰、處務ノ整否、其他法律命令實施ノ狀況ヲ視察シ警察ノ實効ヲ収メシムルカ爲メニ設クルモノトス

第二條 巡閲ハ毎年四月五月ノ間ニ於テ東京ニ在テハ警察本署長其他ノ府縣ニ在テハ警部長ヲ以テ之ヲ施行セシムヘシ

第三條 巡閲官ハ左ノ項目ニ就キ其方法ノ如何ヲ査閲スヘキモノトス

- 一 執行事務及其報告ノ方法
- 二 執行官吏ノ配置及警邏
- 三 執行事務ノ監督及警邏ノ監督
- 四 非常召集ノ方法
- 五 司法警察即チ被告人ノ捜査、逮捕、訊問及檢察官ヘノ送付ノ手續等
- 六 留置人取扱及通傳護送
- 七 諸願伺書等ニ關スル諸文書ノ取扱

- 八 違警罪及諸規則違犯者處分
  - 九 戸口調査及監視人ノ取扱
  - 十 文書統計記録ノ整理
  - 十一 服装姿勢及禮式
  - 十二 教習及訓授
  - 十三 會計經理及被服給与
  - 十四 警察署分署派出所及留置場ノ構造装置
  - 十五 火災消防及器具ノ使用
  - 十六 警察上緊要ノ器具
  - 十七 集會ニ関スル取締
  - 十八 衛生警察殊ニ傳染病壞滅ノ方法及衛生ニ關スル諸般ノ取締
  - 十九 交通取締即チ道路及舟車ノ狀況等
  - 二十 衛生風俗及公安ニ關スル營業取締殊ニ料理店貸座敷宿屋古物商質屋及危險物賣買商等
- 第四條 巡閱官ハ警察官吏ノ風儀動作其他人民ニ対スル關係若クハ過度ナル浪費ヲナスヤヲ視察スルモノトス
- 第五條 警察處務ニ関スル便否及ヒ警察官ノ處分ニ関スル意見ヲ巡閱官ニ申告スルモノアルトキハ之ヲ受理査閱スヘシ
- 第六條 巡閱官巡閱ヲ終レハ其狀況ヲ盡シ意見ヲ付シ巡閱中ニ係ル日誌ヲ添ヘ警視總監又ハ知事ニ復命シ警視總監又ハ知事ハ其概況ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

六月十六日

警察巡閲規則第二條ノ巡閲ハ本年ニ限り九月十月ノ間ニ於テ施行ス

内務省訓令 警視廳 府県

東京府ヲ除ク

第三十八號

訓令第三十六號警察巡閲規則第二條巡閲ノ儀ハ本年ニ限り九月十月ノ間ニ於テ施行スヘシ

## 〔註解〕

## 警察巡閲規則

警察巡閲規則ノ發布セラレシハ明治二十年六月ニシテ實ニ内務省訓令第三十六号ニ係レリ抑此規則ノ發布タル蓋深旨アツテ存スルモノアルヘキハ論ヲ待タスト雖皮相ヨリ推究シテ之レカ真相ヲ叩キ外觀ヨリ測量シテ其内構ヲ窺ヒ以テ本規則ノ旨趣ノ在ル所ヲ講究スルハ敢テ無益ノ業ニアラサルヘキヲ信シ茲ニ之レカ解釈一篇ヲ草スルコト、セリ其當否ハ素ヨリ保證スル所ニアラスト雖實務家ノ参考トナルアラハ亦以テ徒勞ニアラサルヲ悦ハスンハアラサルナリ

## ○警察巡閲規則

警察ノ實効ヲ舉クルハ警察官其人ヲ待テ始メテ之レヲ希凶スヘキハ論スルマテモナキコトニシテ東京ニ於テ先ニ設ケラレタル警官練習所府縣ノ巡查教習所ノ如キ亦全ク此ノ意ヲ拡充セルニ外ナラサルヘシ然レトモ人各能アリ不能アリ或ハ司法警察ニ敏達ニシテ行政警察ニ遲疑ナルアリ或ハ文書ニ巧ニシテ實務ニ粗ナルモノアリ各其長枝ノ一方ニ傾進スルハ屢々實例ヲ示ス所ナリ故ニ警察ノ各部果シテ能ク其事務ヲ整頓シ實効ノ見ルヘキモノアルヤ否、紀律廢弛シ服務怠慢ノ弊ナキヤ否、日常注意ノ点ニ於テ偏倚ノ傾ナキヤ否、等凡ソ警察官吏タル要素ノ欠備ハ實地ノ視察ニ依ルニアラサレハ之レヲ詳ニスルコト能ハサルモノアリ然リ而シテ其視察タル單ニ處務規程又

ハ服務ノ勉否等ヲ外面ヨリ視察スルノミニテハ以テ其實効ヲ収ムル能ハス必スヤ各部ノ事物ニ就テ親シク之レヲ檢閲スル所ナカルヘカラス加之警察ノ事体ハ最モ統一ヲ要シ綱擧リ目張リ以テ全般一致ノ活動ヲ發達セシメサル可カラス是レ本則ノ制定セラレタル所以ナリ

第一條 本則ハ警察各部ニ於ケル紀律ノ張弛、服務ノ勤惰、處務ノ整否、其他法律命令實施ノ狀況ヲ視察シ警察ノ實効ヲ収メシムルカ爲メニ設クルモノトス

本條ハ本則ヲ設クル所以ノモノハ何事ニ存スル歟ヲ列叙スルモノニシテ此條アリテ始メテ本則ノ要旨ヲ明ニスルヲ得ヘシ

蓋警部長ハ本部ニ在テ警察ノ機關ヲ運轉スルモノナレハ其部下ノ各署各員ニ就テハ平素ノ舉止、勉否、執行務ノ寬嚴、注意ノ粗密、人民ニ対スル感情、法律規則實施ノ狀況等ハ勿論常ニ之レヲ知り得ヘケレトモ机上ノ推究ハ實業ニ於テ大ニ齟齬ヲ生スルモノナレハ親シク各部ヲ巡閲シテ緩急便否ノ實況ヲ檢閲シ資テ以テ警察ノ活動ヲ謀リ進行ノ方針ヲ定ムヘキナリ

従来ノ事實ニ照ラスニ警部長ノ各署ヲ巡視セルハ赴任後唯一度ノミニシテ其後曾テ親臨シタルコトナク数年勤仕ノ巡査ニシテ警部長ノ面ヲ見サルモノアリ或ハ時ニ警部長ノ管内ヲ巡視スルナキニアラスト雖唯親シク警察署ニ臨ミ其執務ヲ實視シタルニ過キスシテ本條掲ケル所ノ精神ヲ實行シタルモノアルヲ聞クコト甚罕ナリ。斯クノ如クニシテ警察ノ實効ヲ収メント欲スルハ復タ難ヒ哉

第二條 巡閲ハ毎年四月五月ノ間ニ於テ東京ニ在テハ警察本署長其他ノ府縣ニ在テハ警部長ヲ以テ之ヲ施行セシムヘシ



本條ハ巡閲スヘキ時期ト其巡閲官ニハ何人ヲ以テ之レニ充ツルカヲ明ニスルモノニシテ各府縣一定ノ期節ニ於テ巡閲ヲ爲サシムルノ精神タルコトヲ推知スルニ足ルナリ

毎年四月五月ノ間ト規定セラレタルハ警察ノ事タル活動變化極リナキモノニシテ數年間一二度ノ實地視察ニテハ連モ警察機關ノ運轉ヲ圓滑敏捷ナラシムルコト能ハス故ニ毎年ト定メ即チ一度ハ必ス巡回檢閲ヲ行ハシムルノ旨趣ナリ其特ニ四月五月ノ間ト云フハ、時期ノ最良ヲ撰ミタルモノニシテ甚適當ナリトス蓋會計年度ノ更始ハ四月ニシテ其月ヨリ本年度ニ屬スル百般ノ事業モ創始スヘク前年度ノ狀況モ詳悉スルヲ得ヘシ之レヲ換言スレハ本年度ニ於ケル警察上ノ行務方針ヲ指示シ前年度ニ於ケル事務ノ總括會計整理ノ狀況等ヲ監察スルノ便益アルヲ以テナリ

然リ而シテ爰ニ云フ所ノ四月五月ノ間トアルヲ四月若クハ五月ノ中ニ於テ巡閲ニ着手セハ其終リハ何月ニ了スルモ可ナリト解釈スルハ不可ナリ既ニ前段ニ述ヘタル如ク四月ハ會計年度ノ始ニ方ルヲ以テ成ルヘク四月ニ着手シ五月中ニハ必ス之レヲ終ルヘキモノトス。何トナレハ條文ニハ巡閲ハ四月五月ノ間ニ於テ施行セシムヘシトアリテ着手スヘシト云ハス故ニ巡閲ハコノ間ニ於テ之レヲ爲シ遂クヘシトノ意義タルコト論ヲ俟タサレハナリ

其巡閲官ヲ警視庁ニ在テハ警察本署長他ノ府縣ニ在テハ警部長トシタルハ至當ノ撰定ニシテ他ノ官吏ヲ以テ之レニ充ツルトキハ竟ニ巡閲ノ實効ヲ奏スルコト能ハサルナリ

### 第三條 巡閲官ハ左ノ項目ニ就キ其方法ノ如何ヲ査閲スヘキモノトス

巡閲ヲ行ハシムルノ要領ハ既ニ第一條ニ記載アリテ精神ノ在ル所ハ明知シ得タリ然レトモ浩汎ナル警察事務ニ對シ實地査閲ヲ施スヘキ項目ヲ示サ、ルトキハ徒ラニ勞力ト時日トヲ費ヤスノミニシテ其効ヲ収ムルコトハ却テ少ナキモノアリ故ニ本條ニ於テ査閲スヘキ項目ヲ列記シ巡閲官ヲシテ據ル所アラシメタリ又本條列記スル所ノ二十項目ハ警察事務上重要ナルモノ、ミヲ擧ケタルモノニシテ巡閲官ノ眼力ヲ以テ此他ノ事項ニ付キ査閲ヲ行ヒ又

ハ其戒飭スヘキ事件ハ之レヲ戒飭スルカ如キハ素ヨリ其所ナリトス

一 執行事務及其報告ノ方法

執行事務トハ文書計算治罪等ノ如キ内事ニアラサル他ノ都テノ外事警察ニ属スル事務ヲ總稱シタルモノニシテ即チ行政警察及司法警察ノ實務ヲ包括シテ執行事務トハ云フナリ故ニ此名目ノ内ニハ警察諸般ノ事務ヲ網羅シタルヲ以テ本條第五項、第六項、第九項、第十七項、第十八項、第十九項、第二十項ノ事項モ勿論含蓄スルハ疑ナシ然ルニ斯ク別項ニ記載シアルモノハ同一ノ事務中ニ就キ特別ニ注意ヲ要スヘキ事柄ナルヲ以テ殊更ラニ之レヲ別掲シタルモノナリ而シテ此ノ第一項ニ於ケル査閲ノ要領ハ諸般ノ執行事務ニ關シ如何ナル順序方法ニ依テ之レヲ爲スヤ、其順序方法ハ果シテ正鵠ヲ得タルモノナルヤ、法律規則命令ニ背反スル所ナキヤ、寬嚴適度ニ應シ各其宜ヲ得ルヤ、緩慢ニ流レ時機ヲ誤マツノ虞ナキヤ、注意視察周到ナルヤ、及ヒ人民ノ感情ノ如何等ヲ以テ最モ重ナルモノトス此ノ數箇ノモノハ執行警察ニ於テ實ニ忽諸ニ付スヘカラサル最大要件ニシテ之レヲ監査スルニハ巡閱ヲ除テ他ニ其途ヲ求メントスト雖得ヘケンヤ是レ本條項目ノ冒頭ニ置カレタル所以ナラン歟」執行事務報告ノ事タル之レヲ冷淡ニ看過スレハ左迄重要ナラサルカ如シ然レトモ老練ナル警察官ハ必ス其重要ナルヲ了得セラ、ナラン夫レ警察ノ活動タルヤ一部局一二官吏ノ敏捷熟達ナルヲ以テ之レヲ希圖スヘキニアラス必スヤ全般一致ノ貫通發作ニ依ラスンハ得テ實効ヲ収ムルコト難カルヘシ此貫通發作ノ作用ヲ爲スモノハ確實敏捷ナル報告ヨリ善ナルハナシ譬ヘハ警察ノ報告ハ機械ノ油ノ如シ

運転手如何ニ熟練ナルモ油ヲ欠ケハ以テ機關ノ円滑ナル運転ヲ爲シ得サルヘシ警察署長及ヒ警部長ハ此ノ報告油ノ作用ニ依テ警察機關ノ円滑機敏ナル運転ヲ發作スルモノナレハ報告ノコト豈輕視スヘケンヤ抑報告ノ種類ヲ分テ事故報、注意報ノ二トス而シテ其報告ノ區別ヲ概舉スレハ機密即報・普通即報・事變即報・探偵報告・毎日報・三日報・週報・旬報・半月報・月報・半年報等ナリトス之ヲ査閲スルニハ如何ナル注意ヲ以テ報告ヲ爲スヤ錯雜誤謬ノ記載ナキヤ、及報告ノ粗密等ヲ檢スルヲ第一トス若シ夫レ機密報ニ入ルヘキモノヲ普通報ノ部分ニ記

載シ即日報告スヘキ事件ヲ週報ニ入レ又ハ粗漏杜選ノ報告ヲ爲スカ如キハ遇々以テ警察ノ活動ヲ沮碍シ運轉ノ方針ヲ過マラシムルニ過キサルノミ

## 二 執行官吏ノ配置及警邏

執行官吏トハ實務ニ従事セル綜テノ官吏ヲ云フモノニシテ警察署分署ニ配置シアル所ノ警部巡查即チ是ナリ扱此官吏ノ配置ノ如何ヲ査閲スルハ巡閲ニアラサルモ本部ニ坐シテ一表ノ下ニ明瞭ナルヘキヲ以テ茲ニ第二項ノ目ヲ掲クルハ無益ナルカ如シト雖此項ノ旨趣ハ決シテ斯クノ如キ單純ナル監察ヲ行フヘキモノニアラス蓋警察署分署管轄区域ノ廣袤、人口ノ多寡、土地ノ冷熱、交通ノ繁閑等ヲ参酌シ更ニ人口ノ比準ヲ取り以テ巡查ヲ配當スルハ殆ント警察官吏配置法ノ原則ナルカ如シ故ニ各署ニ配當セル巡查ノ此法ニ適合スルヤ否ハ一表ノ下ニ監査シ得ルコト勿論ナレトモ實地ノ視察ハ大ニ之レニ異ナリ曾テ各署ニ配當シタル巡查ハ如何ナル形状ニ配置シアルカ、其受持人口ノ多寡ハ果シテ適實ノモノナルカ巡回線路ノ長短道路ノ險夷等不当ノ割付ハナキカ、巡查人員ノ比例熱鬧ノ地ト僻遠ノ地トノ間ニ格段ナル厚薄ナキカ、派出所駐在所ノ位置偏在スルコトナキカ其他受持組合区ノ關係、組合長駐在所ノ位置、組合区内、補勤及組合内互ニ通報救援ノ方法、等實際ノ狀況ヲ査閲シ其適否ヲ監シ甚シキ庭巡ナカラシムルコトヲ務ムヘキナリ」

執行官吏ノ警邏ハ執行務上第一位ヲ占ムル所ニシテ之レヲ欠ケハ警察ナシト云フモ諷言ニアラサルヘシ此日中包含スル所ヲ概舉スレハ巡回線路ノ長短、巡回時間、巡回度数、巡行区ノ廣狹、宿泊日歸ノ別、定時不定時ノ制、昼巡夜行ノ法等ナリ又勤務時間ノ規定、巡行区内勤務法、交替時限、巡回線出ノ順序、当直非番ノ割当法等ノ如キモ亦此項ニ於テ査閲スヘキモノトス

而シテ受持日誌ニ巡行ノ線路、発程ノ時刻、重ナル部落ニ到達スヘキ予定時等ヲ記載シ置カシムルハ最モ必要ノコトナルカ故ニ巡閲官ハ此記事ニ就テ其當否ヲ檢シ猶規定ノ巡回法ト實地ノ警邏ト矛盾スルコトナキヤ否ヲ考査スヘキナリ

執行務上警邏ノ必要欠クヘカラサルコトハ論ヲ待タス然レトモ往々警邏ノ要領ヲ得サルモノアルハ甚遺憾ナリトス僻遠ノ地ハ姑ク之レヲ措キ繁榮熱鬧ノ地ニ於ケル巡查ノ巡回ハ唯巡回時間ニ其線路ヲ履行スルニ過キサレモノ少シトセス是レ所謂儀式上ノ巡回ニシテ警邏ノ眞味ヲ解シタルモノト云フヘカラス

巡閲官ノ查閲ニ当テハ是等ノコトハ無論注目セラル、所ナルヘケレトモ執行官吏ニ於テモ常ニ深ク注意アリタキコトナリ

### 三 執行事務ノ監督及警邏ノ監督

本條第一項ニ於テ執行事務及第二項ニ於テ警邏ノコトヲ規定シ巡閲官ノ監査スヘキ日ヲ示サレ其ノ解モ亦各條下ニ之レヲ詳悉シタリ茲ニ第三項ニ至テ再ヒ執行事務及警邏ノコトヲ掲クルハ重出ノ觀アルカ如シト雖退テ之レヲ考フレハ此項ヲ設ケラレタル至當ノ理由アルヲ發見スルニ難カラサルナリ

蓋第一項ハ諸般ノ執行事務ハ如何ナル方法ニ依テ其實ヲ擧ケ得ルカ即チ執行務ノ方法ノ如何又第二項ハ各受持巡查ノ其ノ区内ヲ警邏スル實際ノ狀況ノ如何ヲ查閲スルノ目ニシテ本項ト大ニ其ノ旨趣ヲ異ニセリ本項ハ則巡查ノ實務ヲ執行シ若クハ其受持区内ヲ警邏查察スルニ當リ其上官タル者如何ナル方法ニ依リテ之レヲ監督スルカヲ查閲スルモノナリ言ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ第一項第二項ハ實務吏員即チ巡查ノ行務上ニ付テ查閲シ第三項ハ署長若クハ監督補助員ニ於テ履行セル監督上ニ付テ查閲スルナリ

二三年以來警察ノ制度一変シ従前巡查ヲ各署ニ集合シタルモノヲ分散シテ各地ニ駐在セシメシヨリ頗ル民情ニ適シ人意ニ投シ官民ノ間調和シテ警察ノ機動ヲ円滑ナラシメ直接ト間接トヲ問ハス警務上ノ利益實ニ少尠ナラサルナリ然ルニ一利アレハ一弊ノ從テ生スルハ免レ難キモノニシテ警察モ亦此ノ範圍ヲ脱シ得サルモノアリ他ナシ巡查ハ上官ノ羈絆ヲ脱シテ獨立獨行ノ身トナリ身体及行務トモ警察署ニ集合セラレタルトキニ比スレハ大ニ自由ヲ得嚴格ナル規律アルニモ關ハラズ懈怠ノ心ヲ生シ随意姑息ノ執行ヲ爲ス等上官ノ意志ニ違ヒ法律命令ノ精神ニ背馳スルモノナキヲ保シ難シ故ニ今日各地方ニ於テ警務上難シトスル所ノモノハ監督ヲ以テ第一トス監督周密ニ



要ナルヲ見ルヘキナリ

夫レ監督ハ監督其人ノ多カラシヨリハ寧口適當ナル人物ヲ得ルヲ貴フ監督員ニシテ其人ヲ得サレハ監督ノ實効得テ収ムヘカラサルナリ

内務省雇前ノ警官練習所教師独逸警察大尉ウイヘルム・ヘーン氏曾テ言ヘルコトアリ「抑監督ナルモノハ警官ノ行爲ニ付テ候察シ又之レヲ報告スルニ止マラス亦之レニ教訓シ若クハ必要ナル時ハ命令ヲモ授クヘキモノトス」ト實ニ然リ故ニ監督員ヲ撰ムハ最重要ノ事タル疑ナシ

地方官官制第三十一條ニ云ク「警察署ハ警部ヲ以テ其長ニ充テ警察分署ハ便宜警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充テ部内ノ高等警察、行政警察及司法警察ヲ掌リ、法律命令ノ勵行ヲ監督ス云々」又行政警察規則第二章警部ノ項第三條ニ云ク「時々区内ヲ巡視シ其景況並ニ巡查ノ勤怠正否ヲ察スヘシ云々」ト監督ノ任ノ重キコト此クノ如シ然ルニ間々巡查ヲ以テ監督ノ任ニ當ツルモノアリ警部警部補ノ人少ナルヨリ一時不得已上席ノ巡查ヲ以テ監督ノ補助タラシムルナルヘシト雖同等ノ吏員ヲシテ同等ノ吏員ヲ監督セシムルハ頗ル其當ヲ得サルナリ故ニ監督員ハ少クトモ警部補若クハ警部見習ヲ以テ之ニ任シ巡查ヲシテ各自ノ上官ナリト見做サシメサルヘカラス。斯ク監督員ト巡查トノ置位ヲ殊別セサレハ巡查ト監督員トノ間ニ親密ナル情誼ヲ生シ忸昵ノ弊ニ陥リ遂ニハ監督ハ其利アルヨリハ却テ害アルニ至ランコトヲ恐ル此レヲ是レ顧ミスシテ警部警部補ノ外猶監督専務ノ巡查ヲ置キ徒ニ監督ノ度數ヲ頻繁ニシ外面ノ視察ヲ行フヲ以テ監督ノ能事足レリトスルモノアリ誤謬モ亦甚シト言フヘキノミ

監督員、巡查勤務上ノ監督ヲ行フニ當テハ概ネ左ノ各項ヲ嚴正ニ視察スルヲ要ス

- (一) 警邏ノ度數
- (二) 諸取締規則ノ實地執行
- (三) 戸口調査ノ精粗
- (四) 執行務ノ成績
- (五) 受持日誌記載方

(六) 注意ノ厚薄

(七) 勤怠及品行ノ正否

(八) 人民ニ対スル所爲

(二) 警邏ノ度數ヲ監査スルハ外勤巡査殊ニ駐在巡査ニ在テ最必要ナル事ニシテ警邏度數稀少ナレハ警察ヲ周到ナラシムルコト能ハス之レヲ檢スル方法ハ種々ノ手段ニ依ルヘシト雖先ツ各署管内毎ニ警邏規定ヲ設ケ受持区ノ広狭、道路ノ險夷ヲ量リ巡査ノ体力ト里程ノ遠近トニ應シ一ヶ月若クハ一週間ノ巡回度數ト一巡回ニ対スル時間ト又普通巡回ノ外ニ夜警巡回ノ程度ヲ定メ置キ巡査ヲシテ之レヲ嚴守セシメ又別ニ受持区内枢要ナル場所又ハ路程ノ便宜ニ由リ巡回ヲ欠クノ虞アル地若クハ特ニ注意視察ヲ要スヘキ家或ハ土地ノ名望家等ニシテ間接ニ巡査ヲ監督シ得ル者ノ家宅等ニ巡回表ヲ配付シ巡査ヲシテ一回毎ニ必ス之レニ捺印セシメ以テ其巡回ノ度數ヲ檢スルコト、日誌ニ普通巡回及夜警巡回発着ノ日時ヲ記載セシメ置キ其日誌ト巡回表捺印ノ日時トヲ照合スルコト等ハ重ナル方法ト信ス

(二) 諸取締規則ノ實地執行ヲ視察スルハ則立會監督ニシテ巡査ノ警邏途上不意ノ出来事ヲ處理スル状態及其處理ノ適當ナルヤ否或ハ特ニ巡査ノ出張シテ法律規則ノ實施ヲ督励スル状況等ヲ日撃シ其寬嚴ヲ考量シテ偏倚ノ執行ヲ視察スルコトヲ怠ルヘカラス

(三) 戸口調査ノ警察上關係ヲ有スル大ナルコトハ第九項ニ於テ之ヲ解説スレハ茲ニハ之ヲ省略ス。其精粗ハ一ニ巡査其人ノ注意及勉否ニ關スル所ナレハ宜シク嚴密ニ之レヲ監査スヘシ

(四) 執行務ノ成績ハ巡査ノ執行上ニ対シ人民之ヲ遵奉シテ生スル所ノモノナレハ諸般ノ事件ニ付其良否ヲ知ルハ焉ヨリ善ナルハナシ。而シテ此ノ成績ハ實ニ警察ノ体面ニ重大ナル關係ヲ保ツモノナレハ縱令過去ノ事ニ属スルトモ其監督ヲ忽ニスヘケンヤ若シ違法又ハ不適當ナル成績ヲ顯ハスモノアルトキハ巡査ヲ戒飭スルカ又ハ直ニ人民ニ令達シテ之ヲ改メシムルヲ要ス

(五) 受持日誌記載方ハ巡査既往ノ行爲上ニ付之ヲ監督スルノミナラス其服務ノ冷熱、事件ノ多少、及事件

ノ性質状態等ヲ察スルニハ最能ク日記ニ記載シアル事實ヲ檢諦スルニ在リ故ニ日誌ニシテ若シ杜撰粗漏ノ記載アラシキ更ニ寸効ナキノミナラス適々上官ヲシテ警察機關ノ運轉ヲ過マリ進行ノ方針ヲ失ハシムルノ危険アリ故ニ監督ノ際之レヲ警戒訓示シテ巡査ノ心得違ナカランコトヲ期スヘシ

(六) 注意ノ厚薄、注意ハ則警察上自然ニ生スル所ノ必要事ニシテ百般ノ事項注意ヨリ擧ラサルモノ幾ント罕ナリ巡査ノ注意厚ケレハ警務ノ實効著々其歩ヲ進メ其注意薄ケレハ警察頓ニ睡眠シテ其機能ヲ失ヒ竟ニ無警察ノ域ニ陥ラントス

(七) 勤怠及品行ノ正否ニ至テハ喋々列叙スルヲ要セス諸君ノ既ニ了得セラル、所ナリ

(八) 人民ニ対スル所爲トハ執行務ヲ除キタル他ノ所爲ニ付テ云フ所ニシテ此日中ニハ人民ノ待遇、禮式、應接、言語、命令等ヲモ含蓄セルナリ巡査ハ其言語ヲ温和ニシ其禮式ヲ恪守シ其体度ヲ寛容ニシ其待遇ヲ厚フスヘシ(尤モ威嚴ヲ隕サ、ルコトニ注意スヘシ) 嚴格以テ人民ニ臨ムヘカラス漫ニ干涉シ若クハ命令スヘカラス人民ヲ愚蒙ニシ若クハ狎昵スヘカラス巡査ハ宜シク信以テ之ヲ親シミ義以テ之ヲ懷ケ徳以テ之ヲ服シ道以テ之ヲ誘フコトヲ忘ルヘカラス是レ監督員ノ注目スヘキ所トス

以上數項ノ外猶注意スヘキ事アリ巡査瀆職ノ所爲是レナリ近時警察ノ周到シタルカ爲メ惡漢奸徒手足ヲ置クノ余地ナク動スレハ巡査ニ利ヲ啗ハシテ罪惡發覺ノ予防ヲ爲サントスルノ状ヲ呈シ或ハ又駐在巡査ノ孤独ナルニ乘シ之ヲ蔑如シテ有レトモ無キカ如キ舉動ヲ爲スノ兇党アリ勇敢ナル巡査ノ之ヲ捕縛セントスルアレハ却テ衆兇ノ爲メニ瀕死ノ苦楚ヲ嘗メ若クハ甚シキ恐喝ニ遭ヒ而後彼等利ヲ啗ハシテ巡査ヲ誘ヒ其捕ヲ逃レント謀ルモノアリト聞ケリ巡査ノ廉潔ナル未タ幸ニ此ニ陥ルモノアラスト雖利ニ迷フハ人情ノ恒ナレハ監督ノ任ニ在ル者平素傾意アラシキコトヲ要ス

監督ノ方法タル千差万別ニシテ未タ前數項ヲ以テ足レリトセス然レトモ監督ノ主要ハ略之ヲ説ケリ因テ是レヨリ巡査官ノ査閱スヘキ方法順序ヲ述フヘキナレトモ其ハ監督ノ事項ヲ列叙シタル上ニ於テ既ニ其意ヲ會得セラレタラント信スルカ故ニ最早ヤ詳説ヲ要セス短簡ニ之ヲ述フヘシ



巡閲官ハ署長其他監督員ノ申告スル所ヲ聞キ其適意ナルモノハ善トシ不適意ノモノハ不善トシテ監督ノ良否ヲ定ムヘキニアラス必スヤ前數項ニ述ヘタル如ク能ク監督ノ任ヲ竭クシ居ルヤ否規定ノ監督法ハ實際ニ適スルヤ否ヲ檢按シ及署長ノ管内巡回、監督員ノ巡回度數、監督員ノ復命書ヲ監査シ又巡查ニ就テ間接ニ監督員ノ行爲ヲ質ス等ノ事ナカルヘカラス若シ夫レ外面ノ美麗ニ眩感シテ實相ノ醜汚ナルヲ看破スルコトナクンハ巡閲ノ効果將タ何クニアランヤ要之巡閲官ハ監督員ノ監督者タリ故ニ巡閲官ニシテ監督ヲ忽ニセハ監督員ハ從テ監督ノ責任ヲ空フセン。監督ノ闕如ハ竟ニ巡查ノ怠惰トナリ流職トナラン

#### 四 非常召集ノ方法

非常召集トハ何ソ事變アルニ當リ不時ニ巡查ヲ一處ニ召集スルヲ云フナリ。蓋警察官吏配置法ヲ改メ撤在法トナシ一警察区域ヲ數区ニ別チ一区ヲ巡查一人ノ受持トナシ警察署分署遠隔ノ地ニハ巡查派出所又ハ巡查駐在所ヲ設ケ日々警察署分署ニ出頭スルコトナク各其受持区内ノ事務ヲ担任シ其責任ヲ尽サシムルコト、ナリシヨリ警察署分署ニ直屬スル巡查ノ人員減少シ急劇ノ事故ニ應スルノ場合ニ於テハ常ニ欠乏ノ歎アラシム而シテ一方警察ノ周到シタル上ニ付テハ満足ノ好況アルニモ拘ハラズ一方撤在ノ爲メニ緊急ノ機變ニ應スルノ準備全カラサルコトアリテハ未タ以テ其道ヲ得タリト云フヘカラス人事ノ活動ハ旦夕ヲ謀ラス警察ノ施設周密完備ナリト雖事變ノ發生ヲ防制スルコト能ハサルハ事例ニ徴シテ顯然タリ。而シテ又事變既ニ生起シタルトキハ之レヲ驗制スル一ニ警察官吏ノ公力ニ依ラサルヲ得ス此場合ニ於テハ僅少ノ吏員ヲ以テ之ニ臨ムモ其効ヲ収ムルコト難カルヘシ是レ撤在法行ハレテ非常召集法ノ必要ナル所以ナリ

非常召集法ハ未タ其筋ヨリ一般ニ發布シタルモノアルヲ聞カス多分各地方ノ便宜適意ノ規定ニ一任サレタルナリ故ニ各地方ニ於テハ其管内一般ニ大綱ヲ示シ其細目ハ各署ゴトニ規定セシムルモノアリ又ハ大綱ヲモ示サステ渾テ各署ゴトニ之ヲ規定セシメ警察本部ノ認可ヲ得テ施行スルモノアリ。該法ニ付テハ此ノ如ク区々ニシテ殆ント一定ノモノナシ然レトモ非常ノ場合ニ際シ警察官吏ヲ召集スル方法ノ備ハラサル地方ハ未タ之アラサルナ

り。既ニ一般ニ發布サレタル規則ナク又一地方ニ於テスル各署コトニ区々ノ規定ナリトスレハ巡閲官ニ於テ非常召集ノ方法ヲ査閲スルハ極メテ必要ナルヲ見ルヘキナリ

今左ニ査閲ノ標準ヲ擧ケント欲ス

(一) 非常召集牌ノ調製法

(二) 非常召集牌ノ配達法

(三) 非常召集ノ種別

(四) 非常召集ニ應スル巡査ノ速力

孰レノ地方ニ於ケルモ非常召集ヲ行フニハ召集牌ナルモノヲ用フルヲ例トス。此牌ハ木製ナルアリ紙製ナルアリテ一様ナラス各簡便ト思料スル所ノモノニ隨テ之ヲ調製セリ而シテ概ネ其牌ノ表面ニハ非常召集牌ト記シ裏面ニ召集ノ場所並巡査ノ氏名ヲ書ス。尤モ召集場所ハ其期ニ臨ミ召集スヘキ地名ヲ書入スヘキモノトス。此牌ハ常ニ巡査ノ人員ニ應シテ其數ヲ備フヘシ、此牌ヲ配布スルハ極メテ迅速ナラサルヘカラス故ニ召集ヲ行フニ方リ署詰巡査ヲシテ二人輓ノ人力車ニ乘リ所定ノ巡査ニ配布セシムルアリ或ハ常時脚夫ニ特約ヲ結ヒ置キ之ヲシテ配達セシムルアリ其他輕易ニシテ迅速ナル種々ノ方法ヲ採用シテ之ヲ配達セリ唯專一ニ迅速ヲ要スヘキノミ。而シテ其配布法ハ秘密ヲ要シ嚴ニ漏洩ヲ防クヘシ然ラサレハ兇徒嘯聚等ノ場合ニ際シ大ニ不都合ヲ生スルノ虞アリ

非常召集ヲ別テ大召集小召集トス。大召集ハ全県管内ノ警察官吏ヲ召集スルモノニシテ此場合ニ於テハ各署ニ必要ナル官吏ヲ殘シ其他ノ総員ヲ纏メ署長之ヲ引率シ警察本部又ハ其他指定ノ場所ニ到リ警部長ノ指揮ノ下ニ糾合スルモノ又小召集ハ警察署長若クハ分署長ニ於テ所轄ノ巡査ヲ召集スルモノ是ナリ。大召集ノ場合ニ於テハ召集牌ノ調製法前者ニ異ナリ大召集牌ハ警察本部ニ備ヘアルモノニシテ表面ニ大召集ト記シ裏面ニ召集ニ應スヘキ警察署ノ名及到達スヘキ場所ヲ記入ス。故ニ此牌ハ單ニ警察署ノミニ配布シ之ヲ受ケタル警察署ニ直ニ小召集法ニ拠リ分署及直管ノ巡査ヲ其署ニ召集スヘキモノトス。各地方ニ於テ規定セラル、所ノ巡査ノ速力ハ区々ニシテ一定ノ速度アラサス他ナシ山川險夷ノ差アリテ平道坦ナルコト砥ノ如キ場所ト蜀道險難ニシテ棧路ヲ跋涉スルカ如

キモノト均一ノ速力ヲ保ツヘカラサルヲ以テナリ。然レトモ之レカ準則ヲ立ツルニハ三里以内ノ場所ナレハ一里ニ付二十五分乃至三十分間、又五里以内ナレハ一里ニ付三十分乃至四十分間ヲ以テ到達ノ時限トセハ脚力ニ應シテ適當ナラン。此時限ハ召集牌ヲ受ケタル時（召集牌受領ノ時ヲ云フ）ヨリ十分乃至十五分間ノ猶予ヲ与ヘ之ヲ除去シタル残數ト知ルヘシ

右は真ニ一斑ノ大要ニ過キサレハ之ヲ以テ全豹トスヘカラサルハ勿論ニシテ茲ニハ唯非常召集法ニ欠クヘカサル要領ヲ述ヘタルノミ巡閱官ハ宜シク之ヲ實際ニ推及シテ其利弊ヲ鑒別シ事變ニ臨ンテ應機ノ準備缺クル所ナキヤ否ヲ査閲セラルヘキナリ

##### 五 司法警察即チ被告人ノ捜査、逮捕訊問及檢察官ヘ送付ノ手續等

司法警察ノ定義ヲ叙述スルハ幾ント無要ナリ故ニ單ニ被告人以下ノ各事項ノミニ就テ解説セン。本項ノ意義ハ一モ疑フ所ナク殊更ニ讀法ヲ示スニ及ハスト雖誤解ナカラシコトヲ期スル爲メ一言セント欲スルモノアリ他ナシ後項ニ於ケル叙述ノ地歩ヲ占ムルノ便利ニ供スルナリ

警察官ニ於テ擔任スヘキ司法警察事務ハ治罪法ノ規定スル所若クハ其他ノ法律勅令等ニ散見スル所ノモノニシテ本項記載ノ外尙數多ノ事務アリ然レトモ本則ニ於テハ本項記載ノ外ニ進入スルヲ要セス。此事實ニ就キ査閲ヲ遂クレハ則チ可ナルモノトス故ニ冒頭ニ司法警察ト記シ即チト受ケテ其必要ナル事項ノミヲ明記セリ是レ司法警察一般ニ關スルニアラサルノ証左トス。本項ノ「被告人」ノ四字ハ捜査逮捕訊問送付ノ四件ニ冠ムレル文字ニシテ之ヲ讀換ユレハ、被告人ヲ捜査、被告人ヲ逮捕、被告人ヲ訊問、被告人ヲ檢察官ヘ送付スルノ手續トナル其讀法斯ノ如シ。然ハ則チ本項ハ被告人ニ關スル司法警察ノ一部分ニ屬スル事務ノ手續ニ止マルモノトシテ可ナリ

被告人ヲ捜査スルハ警察事務中最難件ノ一ニシテ其行爲ハ動モスレハ人權ヲ侵害スルノ獎アリ。治罪法捜査ノコトヲ規定シテ云ク檢察官ハ後ニ記載シタル告訴發現行犯其他ノ原由ニ因リ犯罪アル事ヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル時ハ其証憑及ヒ犯人ヲ捜査シ云々（第九十二條）ト而シテ同法第六十條ハ捜査官タル者ヲ規定セリ

即チ警視本署長（警察本署長）府縣長官（府縣知事但東京府知事ヲ除ク）ハ檢事ト同一ノ權ヲ有シ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査シ、警視警部（警部長警部補）區長郡長（市長）治安判事警部（警部補）ノ在ラサル地ノ戸長（町村長）ハ檢事ノ補佐トナリ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査ス可シト故ニ犯罪ヲ捜査スルハ檢察官即チ檢事ノ職務ニシテ警部警部補ハ其補佐タルニ過キス而シテ是等ノ官吏ハ如何ナル方法手續ヲ以テ實際捜査ヲ爲シ得ルカト云フニ皆巡査ト探偵吏トノ二者ヲ使用セサルハナシ蓋治罪法ハ別ニ捜査ノ方法及之レニ使用スヘキ者ヲ規定セス唯捜査ヲ爲スヘキ職權ヲ有スル者ノミヲ規定セリ。此職權者ハ其權内ニ於テ何人ヲ使用スルモ捜査ノ事務ヲ全フセハ敢テ支障アルコトナシ。然レトモ巡査ハ司法警察ノ補佐ヲ爲スモノナレハ純然巡査ヲ以テ捜査事務ニ當ラシムルハ當然ノコトタリ。地方ニ由リテハ今猶探偵雇ヲ使用シテ捜査ヲ爲サシムルモノアリ其事強チ非ナルニアラサルヘシト雖探偵雇ナル者ハ他ニ職務ナク專一ニ探偵捜査ノ事ノミヲ擔任シ所謂鵜眼鷹眼其効ヲ奏セント欲シ竟二人ノ陰事ヲ訐キ秘密ヲ暴露シ甚シキハ人權ヲ侵害スルニ至ルモノアリ。巡査ニ於ケルモ全ク此弊ナシト断言シ難シト雖今日ノ制度ニ依レハ探偵捜査ノ事ハ外勤巡査ノ職任ニシテ別ニ探偵雇吏ヲ置カサルニ在リ。外勤巡査ニ在テハ前ニモ既ニ説キタル如ク其責任甚重ク且擔當ノ事務甚多キヲ以テ何ノ違アリテカ捜査事件ニ關係ナキ人ノ陰事秘密ヲ訐發スルカ如キ不徳義ノ行ヲ爲サンヤ。況ヤ警察署分署ニハ雇吏ヲ置カサルノ制度アルニ於テオヤ探偵捜査ノ事務ハ宜シク巡査殊ニ外勤巡査ヲ使用スヘキナリ

普国警察大尉ヘーシ氏嘗テ探偵巡査ヲ使用スルコトニ付論シテ云ク各署ニ多數ノ探偵巡査ヲ置キ探偵専務ニ使用スルハ不必要ナルカ如シ通常ノ探偵事務ハ外勤巡査即チ受持巡査ヲシテ取扱ハシムルモ充分其効ヲ奏スルヲ得ヘシ凡テ特別ニ探偵巡査ヲ要スルハ専ラ高等警察ニ属スル事件又ハ複雑煩難ナル重軽罪犯ヲ探知スル場合ニ限り其他ハ却テ土地ノ情況等ニ通曉セル受持巡査ニ於テ從事スル方遙ニ優ルモノアラント其説ク所適切ニシテ能ク探偵巡査ノ状ヲ知ルモノト言フヘシ記シテ当局者ノ参考ニ供ス

捜査ノ方法ハ茲ニ列舉スルヲ得ス好シ之ヲ列舉シ得ルトスルモ千種万別實際ニ莅ムニアラサレハ得テ言フヘカラス故ニ左ニ巡閲官ニ於テ傾意注目スヘキ要件ヲ列記スヘシ

## 一 探偵捜査ノ種類

## 二 探偵捜査スヘキ場合

## 三 探偵捜査ニ使用スル吏員

## 四 探偵捜査ノ方法

## 五 犯罪ヲ認知セシヨリ捜査ニ着手セシマテノ時間

## 六 探偵捜査ノ機敏ナルヤ否

## 七 捜査ノ不備及抛棄ノ有無

## 八 某事件ニ關セシ探偵捜査ノ効果

## 九 某事件ニ關セシ探偵捜査ノ不成功

## 十 巡査ト探偵雇吏ト成功ノ比較

## 十一 探偵上ヨリ生シタル利弊

## 十二 探偵捜査ノ報告書

捜査ハ單ニ犯人ヲ偵知シ其所在ヲ搜得スルノミヲ以テ足レリトスヘカラス。犯罪ノ証憑ヲ集ムルコトヲ怠ルヘカラス犯人ヲ得ルモ証憑ヲ得サレハ無罪ノ人ナリ証憑ヲ集ムルハ實ニ難事ニシテ屢闕如スルモノアリ先ツ犯人ヲ逮捕シ來テ後チ証憑ヲ收集スルモノアリ或ハ証憑ヲ捜査収集スルモ不完全ナルカ爲メ犯人ヲ解放スルアリ是レ皆捜査ノ不整備ト言ハサルヘカラス

高等警察ニ關スル探偵ニ至テハ最慎重ニ最秘密ニセサルヲ得ス政治上ヨリ生出スル事件ハ其害國家ノ上ニ被ムルモノニシテ他ノ重軽罪ノ如ク一部分ノ被害ニアラス世利公益ヲ攪擾シ秩序安寧ヲ紊乱シ流毒ノ及フ所底止スルヲ知ラサルモノアリ。若シ探偵ニシテ其道ヲ失ヘハ實ニ國家ノ大事ニ關ス故ニ高等警察ノ事務ハ警部長親ヲ取扱フモノトシ本部ニ於ケルモ別ニ其掛ヲ設ケス又各署ニ於テハ署長之ヲ取扱ヒ漫ニ次席ノ警部其他ノ署員ニ扱ハシメサルナリ。然レトモ警部長若クハ署長ニ於テ親ヲ探偵ヲ爲スヘキニアラサルヲ以テ特ニ其信任スル所ノ巡査又

ハ別ニ其人ヲ選ンテ之ヲ使用スルカ故ニ之ニ當ル者ハ勤勅精意以テ従事スルヲ要ス

探偵捜査ハ事件ノ生シタルヨリ猶予ナク速ニ着手シ且敏捷ナラサルヘカラス一步ヲ遅フスレハ百歩ノ損アリ一時間ヲ猶予スレハ一日ノ失ヲ生ス又探偵ノ方法ヲ吟味スヘシ其方法ニシテ法律命令ニ抵触シ若クハ憲法ニ矛盾スルノ行爲アレハ後來ヲ戒飭シ或ハ懲罰スヘキナリ。其捜査スヘカラサル者ヲ捜査シ捜査ヲ要セサル場合ニ於テ捜査スルカ如キ徒勞ノ所業ヲ爲ス者アリテハ是レ亦警察事務上ノ瑕瑾タルノミ

被告人逮捕ハ治罪法ノ規定ニ從ヒ現行犯ノ場合ヲ除クノ外ハ總テ勾引狀ヲ執行スルノミニシテ此事項ニ就テハ別ニ査閲ノ要ナキカ如クナレトモ實際ニ於テハ法文ノ外ニ奔逸シテ随意ノ行爲アリ。逮捕ト引致トノ区域ヲ限定セシテ之レニ従事スル者アリ令狀ヲ携帯セシテ非現行犯ヲ逮捕スルコトアリ。巡查ノ代リニ探偵雇ヲシテ逮捕セシムルモノアリ。抑治罪法ノ精神ハ人民ノ權利ヲ保護シ擅ニ人ノ自由ヲ檢束セサルニ在リ然ルヲ實際ニ従事スル者ハ唯其功ヲ奏スルニ汲々トシテ他ヲ顧ルコトナク進ンテ功ヲ貪ルノ情アリテ輒モスレハ無罪ノ人ヲ逮捕スルコトアリ又雇員（雇員ハ無責任ニシテ法律上資格ナク一般人民ト同様ナリ）ヲシテ非現行犯ヲ逮捕セシムルハ實ニ言語同斷ト謂ハサルヘカラス。舊慣ニ從ヘハ罪人ヲ逮捕スルニハ其職ニ專務ナル雇員ヲ使用シタレトモ治罪法ニ勾引狀ハ巡查ヲシテ之ヲ執行セシムトアルニヨリ如何ナル場合ト雖無資格ナル雇員ヲシテ逮捕ニ従事セシムヘキモノニアラス。治罪法實施以來今猶雇員ヲシテ従事セシムルモノアレトモ此ハ是レ錯誤ノ甚シキモノニシテ被告人ノ告訴ヲ受ケサルハ僥倖ノミ

被告人訊問ハ最モ慎重ニ最モ充分ニ注意シテ従事スルヲ要ス。蓋官衙ハ人民ニ於テ既ニ畏懼ノ念ヲ生シ易キモノニシテ就中警察署ハ更ニ甚シキモノアリ故ニ被告人ヲ訊問スルニ當テハ特ニ威嚴ヲ逞フシテ任意自由ノ供述ヲ妨クルカ如キコトアルヘカラス

被告人ヲ訊問スルニハ極メテ其言語ヲ穩和ニシ可成平易卑近ノ語ヲ用キ簡明ニシテ肯綮ヲ得ルヲ主トシ決シテ疑似ニ涉ルコトアルヘカラス。又被告人ノ年齢、身分、性質等ニ因リ其言語ヲ斟酌スヘシ夫ノ老幼男女貴賤貧富智愚ヲ別タス一様ノ訊問ヲ爲スカ如キハ勉メテ之ヲ避クルヲ要ス

人権ノ貴重ナルハ憲法ヲ待テ始メテ之ヲ知ラサルナリ然ルニ從來警察ニ於テ被告人ニ對スル取扱等ヲ監察スルニ往々其意ヲ得サルモノアリ或ハ殆ント獨立ノ臣民ニアラサルヤノ感ヲ生セシムルモノアリ。本年ヨリハ帝國憲法モ實施セラレ臣民ノ權利義務ヲ明ニシ人権ノ保證モ確然樹立スル上ハ苟モ人権ヲ侵害スルノ所爲アルヘカラス被告人ト雖刑ノ宣告ヲ受ケ其確定ニ至ルマテハ尚無罪ノ人ナリ故ニ縱令其者禁固以上ノ刑ニ当ルヘキノ見込アリト雖決シテ之ヲ罪人視シテ取扱フヘカラス訊問ハ犯罪ノ事實ヲ発見スルニ止マリ被告人ノ心裏ニ立入りテ之ヲ訊問スヘカラス罪ヲ構成スルカ如キ仕方ヲ以テ訊問ヲ爲スヘカラス都テ警察署ニ於テ訊問ヲ行フハ司法警察官ノ職務上其事件ヲ檢事ニ送致スルノ意見ヲ定ムルニ外ナラサレハ事實上犯罪人タルニ相違ナク其証憑モ亦明白ナルヲ確認スルニ於テハ司法警察官ノ能事足レリトシ速ニ之ヲ送致スルヲ要ス

凡ソ被告人ヲ訊問スルニ方テ愛憎ノ念ヲ生スヘカラス少シニテモ愛憎ノ念生スルトキハ被告人ニ不利益ヲ來タシ被告事件ヲシテ悪シク結果セシムルコトアリ。又騙詐、恐喝、欺罔ノ言語ヲ以テ陷罪ニ誘導スルカ如キ所爲アルヘカラス被告人ニ對シテハ一般人民ト同一ノ感情ヲ以テ之ヲ遇スルノ念慮アルヲ要ス之ヲ罪人視シテ輕侮スルカ如キコトアルヘカラス

被告人訊問ハ之ヲ巡查ニ委スヘカラス可成署長及次席ノ警部警部補ニ於テ之ヲ爲スヘシ。實際ニ於テハ重モニ巡查ヲシテ爲サシムルモノ往々之レアリト雖一時事務ノ幅濶シテ署長等ノ訊問ニ從事スルコト能ハサル場合ヲ除クノ外ハ巡查ヲシテ訊問ニ從事セシムルコトヲ避ケサルヘカラス。地方ニヨリテハ全ク之ヲ巡查ニ委ネ甚シキハ書記又ハ主計巡查ヲシテ治罪ヲ担当セシムルモノアリ亦誤レリト謂ツヘシ

被告事件ヲ檢事ニ送付スルノ手續ハ夫々規定アリテ爰ニ喋々スルヲ要セスト雖巡閲官ニ於テ査閲上其欠点トシテ注目スヘキ重ナル事項ヲ擧クレハ司法警察官（此ニハ警察官ノミヲ指称ス）ニ於テ被告事件ヲ発見シタルトキハ速ニ之ヲ捜査ニ着手シ其要領ヲ得ルニ於テハ直ニ檢事ニ交付スルヲ怠ルヘカラスコト。捜査延滞ノ爲メ徒ニ被告人ヲ稽留スヘカラスコト。証憑不充分ナル者ト認メナカラ故意ニ收監シテ自由ヲ束縛スルノ弊ナキヤ否、煩雜ナル事件ニモアラス又重大ナル犯罪ニモアラスシテ無益ニ被告人ヲ留置シ令狀ヲ改發スルカ如キ不都合ナキ

ヤ否等是レナリ

錯雜煩多ナル司法警察事務ニ就キ理論的解説ヲ施スハ所謂島水練ノ批評ヲ免レス故ニ其大略ノ要領ヲ擧クルノミ實務ニ當ルノ官吏ハ宜ク諸法令ニ依テ執行ヲ誤マルコトナカラシムコトニ注意アルヘキナリ

前數項ニ列叙スル所ノモノハ警察官吏一般ニ服膺セラルヘキ要件及釐正セラルヘキ缺點等ヲ擧ケタルモノニ係リ本義トスヘキ巡閱官査閲ノ要項ヲ説キ及フモノ甚尠シ。然レトモ此ノ數項ノ欠点ニ付巡閱官ハ宜シク之ヲ斟酌考量シ尚實際ノ事情ヲ鈎距シテ其適法不適法ヲ銓諦シ以テ査閲ノ事務ヲ完成セラルヘシ大凡ソ警察事務上成功ノ顯著ナルハ司法警察ニ若クハナシ然リ而シテ錯誤煩難ヲ免レサルモ亦司法警察事務ニ在リ。事ニ此ニ從フ者ハ徒ラニ成功ヲ貪リテ被告人ヲ弄スル如キ所爲ナカラシムコトヲ期スヘキナリ

#### 六 留置人取扱及遞傳護送

本項ハ警察官吏ニ於テ留意ノ日タリ。蓋之ヲ等閑ニ觀過セハ平々凡々タル事項ナレトモ人權貴重ノ上ヨリ監察セハ忽諸ニ付スヘカラサルヲ認ムルニ難カラサルナリ且又其取扱方ニ至テハ經驗上困難ノ点少シトセス加之弊害百出苦情簇生シテ事務上一ノ妨碍物タリ

留置ニ二種アリ一ハ行政警察ノ範圍ニ於テ一時人民ヲ留置スルモノニハ司法警察ノ部内ニシテ被告人ヲ留置スルモノ是ナリ。行政警察ノ部分ニ屬スルモノハ被告事件ト其性質ヲ異ニスルヲ以テ其取扱ハ寛厚ナラサルヘカラス且長ク之ヲ留置シテ徒ニ人民ノ怨恨ヲ招クヘカラス。其食物ノ如キハ成規ノ許ス限りハ充分ニ之ヲ給與シ価値ヲ減シテ粗悪ナル食物ヲ供給スヘカラス聊カニテモ懲戒ノ意ヲ含ンテ留置スヘキモノニアラサルヲ以テ留置中ニ之ヲ虐待スルカ如キ所業ヲ慎ムヘシ。臥具ハ可成清潔ヲ旨トシ寒暑ニ應シテ相当ノ物ヲ貸給スヘシ

行政警察ノ範圍ニ於テ人ヲ留置スルハ事理ニ於テ宜シキヲ得サルモノタリ。必竟スルニ此種ノ留置ハ未タ司法部内ニ移ラサル前即チ被告事件トナラサル前ニ於テ嫌疑ノ爲メ取調ヲ要スルトキ一時留置ヲ要スル者ナリト雖疑心元ト是レ暗鬼ヲ生シ易シ。嫌疑アリトテ濫ニ人ヲ留置シテ之ヲ窘ムルカ如キハ勉メテ避ケサルヘカラス又或ル



場合ニ於テハ剛愎ナル者ニ對シ説諭ヲ名トシテ之ヲ留置スルモノアリ行政警察上實ニ便法タリ然レトモ人智進ミ法理明ナルニ從テ如此手段ヲ施シテ人ノ自由ヲ束縛スルヲ許サ、ルナリ。巡閱官ノ查閱ニ方テハ行政警察ノ範圍ニ於テ留置シタル者アレハ其留置ノ原由留置日數時間留置中取調ヘタル事体ノ要領等ヲ質問審査アルヲ要ス

司法警察ノ範圍ニ屬スル留置人ニ對シテハ其取扱方都テ監獄則同施行細則及看守及監獄傭人分掌例ニ據ルヘキハ勿論ノコトニシテ決シテ等閑ナル取扱ヲ爲スヘカラス警察ノ監獄ニ於ケル各其主掌ノ事務ヲ異ニスルヲ以テ警察署ノ留置場ニ在ル被告人ヲ視ルコト拘置監ニ在ルモノト別異ナキ能ハス。要スルニ警察ハ白ラ警察自身ノ主務アリテ監獄事務ハ其傍務タルカ故ニ自然之ヲ疎ンスルノ情アリ

監獄則ヲ按スルニ第一條第五項ニ曰ク留置場、刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得ト故ニ警察署ニ於ケル留置場ハ取りモ直サス小監獄タリ既ニ小監獄タルモノトスレハ是レニ從事スル官吏ハ司獄官ノ性質ヲ帶ヒサルヲ得ス焉ソ留置場ニ關スル事務ヲ疎ンシテ可ナランヤ。然レトモ之ヲ實際ニ徴スルニ警察官吏ニ監獄思想ナキヲ以テ此弊ニ陥リ易キナカランカ備ハラシテ君子ニ望ムノ嘲ヲ求ムルニ似タレドモ上官ニ於テ宜シク警察官吏ノ監獄思想ヲ養成スルノ方法ヲ講究アラシコトヲ希望ス

爰ニ囚人ノコトニ就キ一言セント欲スル要件アリ聊查閱ノ範圍外ニ奔逸スルノ嫌ナキニアラスト雖讀者參考ノ一助ニモナランカト警筆ヲ走スルコト爾カリ

凡ソ警察署ノ留置場ハ前項ニ於テ述ヘタル如ク小監獄ノ性質ヲ帶フルカ故ニ之ニ留置スル者ハ在監人即チ囚人トシテ視ルニ害ナシ其囚人ハ如何ナル場合ニ於ケルモ署長或ハ署長ノ代理トシテ其責任ヲ負フ者ノ命アルニアラサレハ決テ留置場ニ拘收スルヲ得サルモノトス

違警罪犯ニシテ一時拘留スルモノハ成ルヘク輕罪以上ノ未決囚人ト混居セサルヲ要ス。如何ナル場合ト雖男女囚ヲ一房室ニ同置スヘカラス一事件ニ關シ共犯人ヲ拘置スルトキハ其談話ヲ防ク爲メ各別ノ監房ニ離居セシムヘシ 若シ監房不足スルカ又ハ其構造全ク隔離スルニ適セサルモノハ恰當ノ方法ニ依テ其隔離ヲ圖ルヘシ

囚人ハ都テ留置場ニ入ル、前巡査（女囚ナルトキハ相当ノ婦人）ヲシテ其身体ヲ搜檢セシムヘシ。危険ナル物品其他房内不必要ナル物品ハ悉ク取上ケ領置スヘシ之ヲ領置スルニハ囚人ノ面前ニ於テ物品目錄ヲ作り物品ト點合ノ上囚人ノ拇印ヲ要シ主任官之レニ檢印スヘシ此ノ物品ハ放免ノトキハ直ニ之レヲ還付ス或ハ其囚人他ノ官署ニ引渡サル、トキハ物品目錄ト共ニ領置ノ物品ヲ其官署ニ送付スヘシ

囚人携帶ノ物品中殊ニ危険ニ属スル物件ハ小刀、細引ノ類、若クハ貨幣等トス」其領置シタル物品ハ一ト纏メトナシ散逸セサル様相当ノ包装ヲ施シ一々符標ヲ付シテ他ノ領置品トノ混同ヲ防クヘシ

如何ナル場合ト雖火鉢其他火氣ハ一切監房内ニ入ルヘカラス其發火性ノ物品若クハ引火シ易キ物品ヲ遠サクヘシ

囚人大小便ニ出ルトキハ必ス看守人附添フヘシ未決囚ニ對シテハ特ニ注意シテ看守ノ間隙ヲ得セシムルヘカラス看守人ハ便所ノ戸ヲ開放シテ其前面ニ於テ看守スヘシ囚人ノ逃走ハ過半便所ヨリスルノ傾アリ故ニ夜分ハ便器ヲ監房ニ入レテ外出ヲ許サ、ル等ノ方法ヲ用ユルモ亦可ナリ

囚人ハ在監中謹直温順ナラサルヘカラス故ニ看守ノ巡査若クハ他ノ看守人ニ於テハ厚ク此点ニ注意シ其靜謐及ヒ安寧ニ關シテハ責任ヲ有スヘキモノトス尤モ囚人ノ罵詈若クハ暴行等最モ甚シキニ至ラサレハ之レニ抵抗スヘカラサルハ勿論ナリ

食物ハ美ヲ撰ムヲ要セス麦飯蔬菜ニテ足レリトス。然レトモ其量ノ少フシテ囚人ノ衰弱ヲ來タスカ如キハ避ケサルヘカラス。地方ニ依リテハ一食一錢五厘ヲ以テ賄ハスモノアリ又ハ二錢五厘ノモノアリ。物価ノ高低ニ從テ其差異ヲ生スナルヘシト雖甚シキ差異ハ不可ナリ、囚人ノ在監時間六時間内ト見認ムルトキハ食物ヲ給セスシテ可ナリ尤モ署長又ハ其代理者ニ於テ囚人ノ健康上必要ト見認ムルトキハ此限ニアラス」飲料水ハ絶ヘス監房内ニ備ヘ置クヘシ

警察署分署ニ於テハ囚人名籍ヲ製シ囚人ノ住所、姓名、年齢及嫌疑罪名ヲ記載スヘシ此名籍ニハ其領置品及下渡或ハ傳送ノ時日ヲ記載スヘキ欄ヲ設ケ置クヘシ。又領置品ヲ下渡シタルトキハ其受領證ヲ徴シ或ハ他ノ官署ニ

傳送シタル場合ニ於テハ其領収證ヲ求メ共ニ之ヲ囚人名籍ニ貼付シ置クヘシ

以上ハ囚人取扱上ニ付常ニ心得アルニ於テハ或ハ大過ナキニ庶幾カラシカ

在監人ニ接見ヲ請フ者アルトキハ其事由ヲ質シ、要領ヲ聞キ然ル後之ヲ許否スヘシ。其事ニ害ナキニ於テハ成ルヘク速ニ接見ヲ許スヲ要ス。接見ノ際ニハ巡査ヲシテ之ヲ監守セシメ署長若クハ次席署員又ハ監督補助ノ巡査之レニ立会フヘシ其接見ノ場所ハ署内適宜ノ室ヲ撰ヒ囚人ト接見者ト手ヲ触レ得サル位置ニ其隔ヲ保ツヘシ、在監人接見ニ付テハ監獄則施行細則第六章第八十六條第八十七條ニ照準シ之ヲ嚴行スヘシ。其書信ヲ通スル場合ニ於テハ同章第八十三條乃至第八十五條ノ規定ニ遵フコト勿論ナリトス

在監人ニ物品ヲ差入レンコトヲ請フ者アルトキハ監獄則施行細則第七章第八十九條乃至第九十一條ニ照準シ署長若クハ次席署員又ハ監督補助巡査立会巡査ニ於テ之ヲ検査スヘシ。其食物ハ差入人ヲシテ其一部分ヲ試食セシムルヲ要ス凡テ差入人物ニ對シテハ懇切ニ之ヲ取扱ヒ差入人ヲシテ畏懼ノ念ヲ生セシメ若クハ徒ラニ時間ヲ消費セシメテ之ヲ嫌忌スルノ心ヲ發セシムルコトナキヲ要ス

署長ハ少クトモ一日ニ一回若クハ二回留置場ヲ巡見シ在監人ヲ監視スヘシ在監人ニ於テ面陳ヲ請フ者アルトキハ直ニ就テ之ヲ聞クヘシ犯罪事件ニ關スル外ハ濫リニ訊問所ニ引出サ、ルヲ可トス。在監人ノ衛生保健ニ注意シ、若シ疾病ニ罹ル者アルトキハ時々之ヲ慰問スヘシ

在監人ノ看守人（巡査若クハ其他ノ雇員）ニ在テハ看守所ニ於テ濫リニ交話スヘカラス又嚴ニ喫煙ヲ禁スヘシ交話及喫煙ハ大ニ囚情ニ害ヲ及ホスコトアリ

巡閲官ハ上來叙述シタル所ニ就キ注意スヘシ窃ニ聞ク所ニ據レハ或ル地方ニ於テハ在監人ニ與フル食物ハ粗悪ニシテ且其量不足ナルカ爲メ囚人ノ苦情常ニ断ヘサルモノアリト此ノ如キハ宜シク注意ヲ與ヘラレンコトヲ希望ス。又証憑ノ湮滅ヲ防クノ手段トシテ在監人ノ面會ヲ許サス巡査ヲシテ之ヲ取次カシメ留置人ヨリ發スル信書ハ巡査之ヲ代書シテ發信スルモノアリト聞ク斯クテハ余リ檢束ニ過キ適當ノ措置ト言フヘカラス巡閲官ノ最モ注意セラルヘキ所トス

逋傳護送ハ明治十五年二月太政官達第十号ヲ以テ規定セラレタルモノアリテ当局者既ニ之ヲ詳知セリ然レトモ實地護送上ニ關スル注意ノ要件ハ規則中一モ掲出スルコトナシ依テ其要領ヲ述ヘ以テ巡閱官ノ參考ニ供セント欲ス

逋傳護送ニ附隨セル所ノモノニシテ最モ錯雜ヲ極ムルモノハ費用ノ点ナリ。是ヨリシテ規則ノ解釈上ニ議論ヲ生スルコトアリ故ニ此点ニ於テ詳細ナル解説ヲ作ラント欲スレトモ巡閱上ニハ關係ナキニ似タルヲ以テ茲ニ之ヲ説カス單ニ囚人取扱及ヒ護送途中ノ注意ニ關スル條件ノミヲ叙述シ以テ査閲ノ材料ニ供ス

交通頻繁ナル街道ニ沿フタル警察署ニ於テハ囚人ノ逋傳護送ヲ受クルコト甚多ク一日ニ數回ノ受授ヲ爲スモノアリテ随分困却スルコトアリ。此際ニ於テ往々免レサルモノハ囚人受授ノ粗略ナル身体搜檢ノ不行屈、携帶品点檢ノ粗漏等ニヨリ物議ヲ起スコトアリ又囚人ノ逃走モ此ニ原因シ来ルコトアリ

凡テ囚人ヲ受授スルニハ最初送出ノ府県ニ於テ已決囚ナレハ其囚籍及處刑宣告書並ニ囚人ノ所持品ヲ詳細ニ記載シ其罪重キカ又ハ輕罪ナルモ逃走ノ虞アリト見認ムルモノハ手錠若クハ腰繩ヲ施シ逃走ノ虞ナキト見認ムルモノハ隱繩ヲ施シテ發送スヘシ又未決囚ナレハ其捕縛ノ基因若クハ裁判所ノ移轉（譬へハ輕罪裁判所ヨリ重罪裁判所ニ移ルモノ又ハ裁判所ノ管轄違ヒ等ノ場合）令狀ノ執行ナレハ其事由ヲ明瞭ニ記載シ（其所持ノ物品ヲ記載スルコト已決囚ト同シ）然ル後逋傳ニ付スヘシ而シテ此記載ノ粗漏ナルトキハ長途ニ在テハ終リニ至ルマテニ種々ノ間違ヲ生シ易シ。之ヲ受取ルモノハ綿密ニ調査シ苟モ不明不審ノ廉アレハ護送者ニ質問シ其答辯ノ確實ヲ見認メタルトキハ之ヲ送付簿ニ記載シテ逋傳シ其答弁ノ不確實ナルモノハ一面之ヲ記載シテ發送シ一面直接送付ノ警察署ニ照会シ中途護送者ノ過失ナキヤ否ヤヲ吟味スヘシ又護送者ハ其携帶品ト送付簿トニ照合シテ受取者ノ檢印ヲ受ケ其受授ヲ明ニスヘシ

囚人ノ所持品ニシテ紛失若クハ遺失スルトキハ官損ニ歸スルモノナレハ護送者ニ於テハ充分注意ヲ要スヘキモノトス

護送者ノ行爲ニ付テ深ク注意スヘキモノアリ。根強キ囚人ニ在テハ既ニ囚狀ニ慣レ苟モ間ノ乗スヘキアレハ

途中ニ於テ無理ナル請求ヲ爲シ護送者ヲ困シメ逃走ヲ謀ルコトアリ。護送者ニ在テハ唯一ニ逃走ヲ恐ル、カ故ニ請求ノ如何ナル種類ヲ問ハス之ニ應スルコトアリ。其請求タル病ヲ糢フテ車馬ヲ求ムルハ普通ノ事ニシテ怪シムニ足ラスト雖故意ニ車馬ナキ山中海浜ニ於テ之ヲ請求シ空シク日ヲ消シテ夜ニ入ルヲ蹊チ逃走ヲ企ント圖ルアリ。或ハ佳食美飲ヲ強請シテ口腹ヲ慰セント謀ルアリ其費用ハ勿論囚人ノ自弁タルヘキモノナレトモ事實疾病ノ有無ヲ検査シ可成医師ノ診断ヲ受ケ歩行ニ差支アルノ外決シテ之レニ車馬ヲ給スヘカラス。又囚人ノ賄ハ既ニ法條ノ定ムル所ニシテ濫ニ他ノ飲食物与フヘキモノニアラス若シ之レニ反シテ車馬飲食ヲ供給セハ護送者其責ヲ免レサルナリ。曾テ某地方ニ於テ数名ノ囚人（最モ根強キ）ヲ護送スル途中囚人ノ機嫌ヲ取ル爲メ其請求ニ應シ昼食ノ節相困欒シテ酒肴ヲ喫シ護送者ハ囚人ノ饜應ニ預リタルコトアリ是ノ如キハ弊ノ最モ甚シキモノニシテ極メテ稀有ノコトナルヘシト雖監督者ノ宜シク注意アルヘキ所トス

身体搜檢ニ就テハ無論油断ナカルヘケレトモ曾テ某ノ所ニ於テハ逋傳ノ途中汽車ノ内ニ於テ一囚ノ短刀ヲ懷ニスルヲ發見シタルコトアリ幸ニシテ汽車内ニテ發見シタリ若シ之ヲ發見セスシテ山中若クハ人煙遠隔ノ地ニ至ラハ如何ナル危害ヲ發生セシヤ知ルヘカラス搜檢ノコト豈慎マサルヘケンヤ

逋傳護送中囚人所持金ノ不足スルコト往々アリ。是レ途中護送者ニ於テ使用セルコトアルニ由ラスンハアラス而シテ此所持金ノ受授ハ其粗漏ノ点アルヲ免レサルノ致ス所ナリ。蓋所持金發送ハ他ノ物品ト違ヒ現金ヲ封緘シ其表面ニ金額ヲ記載シテ逋傳ニ付ス。之ヲ受取ル警察署ニ於テハ開封シテ之ヲ改ムルコトナク前ノ封印ノ儘領収シテ金額ノ果シテ適合スルヤ否ヲ知ラス封印ノ異状ナケレハ更ニ之ヲ恠シマス直ニ之ヲ送付ス。斯クノ如ク順次逋傳シテ最終ニ至リ開改スルニ及ンテ表記ノ額ト現金ト適合セス其那所ニ於テ不足ヲ生シタルヤヲ詳ニスルコト能ハス竟ニ官ノ損失ニ歸シ之ヲ賠償スルノ不都合ヲ生スルニ至ルナリ依之自今此習慣ヲ改メ逋傳受授ノ際聊手数ニ渉ルヘケレトモ一々之ヲ開封シ金額ヲ改メ更ニ之ヲ封緘シ契印シテ送付セハ此不都合ヲ免ルヲ得ヘシ

七 諸願伺書等ニ關スル諸文書ノ取扱

署長ハ受付口ニ其席ヲ構ヘ人民ヨリ直接ニ文書ヲ受取り直ニ其可否ヲ決シテ指令スヘキハ之ヲ指令シ指令ヲ要セサルモノハ要セサルノ手續ヲ爲シ萬事即決ノ取扱ヲ爲スハ現今警察ノ通況ナリ

顧テ従前ノ狀況如何ヲ回想スレハ幾ント別境ニ在ルカ如シ。従前ハ文書ノ取扱ヲ鄭重ニ失シ却テ緩慢ニ流ル、ノ風アリシ是レ他ナシ文書ノ受授ハ総テ巡查ニ一任シ署長ハ奥深キ一室ニ屏居シ僅ニ回議ニ認印スルヲ以テ其職務トシ人民ニ直接交語スル等ノ如キハ殆ント稀ナリ。従テ文書ノ取扱モ自ラ鄭重ニナリ事務ノ渋滞ヲ来スハ自然ノ數ナリトス。近来ニ至テハ大ニ之ヲ改良シ一般ニ即決法ヲ採リ空シク人民ヲ待タセ置ク等ノ事ナキニ至レリ然レトモ警察署分署ノ多キ末タ必スシモ改良ノ途ニ就キ其取扱方整備セリト云フヘカラサルモノナキヲ保セス

要之人民ヨリ差出ス文書ハ其事件ノ何タルヲ問ハス敏速ニシテ且簡便ナルヲ貴フ。言辞ノ足ラサル文字ノ誤謬アル等ハ其事ノ辨シ得ルヲ度トシ強テ之ヲ改正セス若シ又言辞足ラス若クハ誤謬ノ文字アルカ爲メ意義通セス又ハ事實ニ害アルトキ之レカ補正ヲ必要トスルニ於テハ署長又ハ主任者ニ於テ人民ノ面前ニ於テ之ヲ補正シ若クハ人民ヲシテ補正セシムル等ノ手数ヲ爲シ徒ニ文書ヲ却下スル等ノコトナク勤メテ人民ノ便利ヲ計ルヘシ無益ノ手数ニ人民ノ嫌疑ヲ招クカ如キコトアルヘカラス

警察署ノ内外ニ代書人ヲ業トスルモノアリ此代書人ニ就テハ宜シク注意スヘキモノアリ眼一丁字ナキ田舎漢ヲ弄シテ代書料ヲ貪リ或ハ虚喝ノ手段ヲ用キテ謝金ヲ要求スル等ノ弊アリテ警察署ノ便利トナラス却テ手数ヲ煩ハスコトアリ。畢竟文書取扱上親切ナルルノ致ス所タルヲ免レス故ニ警察署ニ在テハ代書人ノ舉動及頼書人ノ状況ヲ稽考シ是等ノ弊ヲ矯ムルニ注意アランコトヲ要ス

凡人民ヨリ差出シタル願届等ハ之ヲ回議ニ付スルハ無益ノ手数タリ。其處分スヘキ要領ハ之ヲ欄外余白ニ書記シテ處分ノ目的ヲ定メ後日ノ考證ニ備フレハ可ナリ若シ一枚ノ願書ニ指令ヲ要スルモノハ別紙ニ指令ヲ書シ與フヘシ又營業ニ關スル願届等ハ極メテ迅速ニ處分スルヲ要ス従前ハ分署所轄内ノ營業願ニシテ警察署ノ認可ヲ待ツ爲メ數日ヲ空フシタル等ノ事アリ斯ノ如キハ恐ラク今日ノ警察ニハ絶テアラサルヘケレトモ巡閱官ハ宜シク茲ニ

注目アラシキコトヲ希望ス

文書は成ルヘク署長ニ於テ之ヲ取扱フヘシ之ヲ内勤巡査ニ委スルハ甚悪シ事ノ軽重ヲ鑒別シ其例アルモノ若クハ輕易ニシテ權義ニ關係ナキモノハ之ヲ巡査ニ移シテ處理セシムルモ又可ナレトモ之ヲ鑑別スルコトナク悉皆巡査雇員ヲシテ處理セシムルハ竟ニ不都合ヲ生スルヲ免レシキニ至テハ機密ノ文書ヲ取扱ハシムルモノサヘアリト聞ケリ又駐在所ニ於テ輕易ナル願届ヲ受理セシムルモノアリ駐在所ハ官署ニアラス巡査ハ受理ノ職權ナキモノナリ。人民ノ差出ス文書ヲ所屬署ニ取次スルハ無論可ナレトモ如何ニ輕易ナル事件ナリトモ駐在所ニ於テ之ヲ可否スルハ甚不可ナリトス巡閲官ハ以上ノ事項ヲ參酌シテ査閲セラル、ニ於テハ本項ノ旨趣ニ適合スルニ庶幾カラシキ乎

#### 八 違警罪及諸規則違反者處分

違警罪處分ノ權ハ違警罪即決例ニ規定セラル、如ク警察署長及分署長又ハ其代理官ニ委任セラレタル所ニシテ此資格ナキモノハ無論該處分ヲ爲シ能ハサルナリ。然ルニ往々巡査ヲシテ其處分ヲ專斷セシムルモノアリ違警罪即決例ノ旨趣ニ背キ人民ヲ輕蔑スルノ譏ヲ免レサルヘキナリ

署長ハ其事務多端ナリ常ニ内外ニ鞅掌シテ屢署外ニ出張シ其内部ノ事務ヲ巡査ニ委スルハ殆ント普通一般ノ事タリ故ニ署長不在ノトキニ於テ生起シタル違警罪犯人ハ勢巡査ニ於テ處分セサルヲ得サルナリ是レ巡査ノ違警罪處分ヲ專斷スルモノ多キ所以ナランカ。然レトモ少シク意ヲ用イタランニハ巡査專斷ノ處分ヲ減少スルヲ得ヘキナリ尤モ此ノ如キ場合即チ署長不在等ノ場合ニ於ケルカ如キ萬不得已モノハ姑ク巡査ノ專斷ヲ容ルストスルモ是等ノ場合ニアラスシテ漫ニ巡査ノ專斷ニ委スルモノハ殆ント其理由ヲ解スル能ハス。或ル地方ニ於ケル違警罪處分ノ狀況ヲ聞クニ署長若クハ其代理者ニ於テ處分セシモノト巡査ニ於テ處分セシモノトヲ比スルニ署長等ノ處分セシハ巡査ノ五分ノ一二モ及ハサルモノアリト違警罪ハ微罪ニシテ人權ヲ傷ルコトナキヲ以テ稍輕忽ノ取扱ヲ爲スノ傾アリ然レトモ人ニ刑ヲ科スル点ハ一ナリ豈之ヲ輕忽ニ看過シテ可ナランヤ

違警罪處分上巡閲官ニ於テ最モ注意ヲ要スヘキモノアリ擬律ノ權衡如何ヲ稽考スル是ナリ同一ノ罪ニ對シ甲ハ最上額ヲ科シ乙ハ最下額ヲ科スル等ノコトナク能ク其權衡ヲ保チ異同ナカラシム事ヲ期スヘキナリ

欠席裁判ノ言渡書ハ之ヲ郵便ニ付スルアリ巡査ノ巡回途次之ヲ届クルアリ又ハ直ニ態夫ニ托シテ之ヲ配布スルアリ固ヨリ便宜ニ從フヘキモノニシテ是非ヲ論スルヲ要セスト雖態夫ヲ使用スルハ徒ニ費用ヲ増加スルヲ以テ可成好便ニ托スルヲ可トス。費用ヲ要セスシテ官民共ニ便益ヲ得ルノ方法ヲ設クルハ当局者ノ任務ナリトス

諸規則違犯トハ尚違警罪犯ナリ府県ニ於テ定メタル規則及中央官衙ヨリ發布シタル規則ニシテ違警罪ノ刑ヲ設ケタルモノニ違犯シタル者ヲ處分スルヲ以テ諸規則違犯ト云フ

巡閲官ニ於テハ處分取扱ノ良否、件数ノ増減、最多數ノ罪種、罪種ト民情トノ關係多犯ノ原因等ヲ調査スルコト及執行官吏ノ苛察ニシテ加罰ヲ主トスルノ弊ナキヤ否等ヲ查察スルヲ要ス

## 九 戸口調査及監視人ノ取扱

戸口調査ノコトタル警察事務上最大緊要ナルハ言ヲ跋タサル所ナリ。巡査ハ實地ニ調査スルニ因テ人民ノ多寡、其種類、職業、生活ノ狀況及平素ノ舉動人爲等ヲ知ルヲ得ヘク警察署長分署長等ニ在テハ居ナカラニシテ管内ノ戸口住民ノ狀況ヲ机上ニ彙集詳知スルヲ得ヘシ而シテ之レニ由テ一層ノ利益ヲ得ルハ犯罪人ノ摘發令狀ノ執行上ニ屬スル諸般ノ便捷是ナリ

今爰ニ巡閲官ノ参考ニ供シ併テ警察上戸口調査ニ就キ一ニノ希望ヲ述ント欲ス

### (一) 戸口調査ノ普及

戸口調査ハ東京ニ於テハ早く已ニ之ヲ行ハレ一時ハ転住寄留ヲ扱所ニ届出ルト與ニ警察署へ届出サシメタルコトアリト覺ユソノ後届出ノ脱漏多キヲ知り之ヲ廢シ巡査ヲシテ毎戸ニ就テ戸口調査ヲ爲サシメ之ヲ戸籍掛ト称シ專任ノ受持ト爲シ爾來引続キ之ヲ行フ故ニ東京ノ戸口ノ警察上ニ於テ詳悉ナルハ疑モナキ事實ナリ

其ノ他ノ府県ニ於テハ三四年以來或ルモノ、刺激ト實際ノ必要トニ因テ戸口調査ニ着手シタレトモ事素ヨリ幼



釋ニシテ經驗ニ乏シク實際調査ノ便否及利害サヘモ辨ヘスシテ只外形上戸口調査簿ヲ製シ各處ニ備ヘ置キ巡查ヲシテ時々之ヲ携ヘテ調査ニ従事セシメタリ。是レサヘ廳下若クハ繁華ノ地或ハ各署所在地ノ市街ノミニ止リテ広ク管内一般ニハ及ハサリシ近來殊ニ巡閲規則ノ出テシ時ヨリ俄カニ一般ニ之レニ着手シタレトモ未タ普及セサル所ナキニアラス中ニハ其意義ヲ誤解シ單ニ署所在地ニ限り戸口調査ニ従事セシメ管内一般ニ調査スルハ戸口調査ノ目的ニアラスト思考シ遇所轄内一般ニ調査セシメタル署長ニ対シ戒飭ヲ与エタル向モアルヤニテ区々ノ状態ヲ呈シ未タ一般ニ残ル隈ナク調査ヲ遂ケタリト云フヘカラス

警部長諸君ハ巡閲ニ際シ査閲上最モ容易ニ着目シ得ラル、モノハ戸口調査ノ整否及其精粗ナリ宜シク銳意シテ之ヲ一般ニ普及シ速ニ整頓セシメラレンコトヲ希望ス

## (二) 戸口調査ノ方法

戸口調査ハ東京ヲ除ク外ハ受持(駐在) 巡查ニ於テ其受持区内ニ住居スル家屋ノ数及人口ノ多寡ヲ實地ニ就キ調査セシムルモノニシテ之レカ調査ノ方法順序ハ千種萬様之ヲ詳論スレハ多数ノ紙面ヲ填充シ徒ラニ讀者諸君ノ欠伸ヲ差シ招クニ至ランコトヲ恐ル故ニ特ニ之ヲ詳論スルヲ止メ務メテ簡短ニ之レヲ述フヘシ

各地方ニ於テ實際施行セラル、所ノ調査方法ハ其順序二種アリ。其一ハ受持巡查ニ於テ調査簿ヲ携ヘ市町村役場ニ就キ戸籍ヲ写シ取り然ル後實地戸々ニ就キ現住ノ人員ヲ調査シ其生年月職業等ヲ尋問シ戸籍ト照合スルモノニシテ他ノ一種ハ先ツ戸々ニ就キ調査シタル後市町村役場ニ就キ其戸籍ニ照合シテ誤ナキヤ否ヲ判明スルモノ是ナリ

其方法ノ良否ハ之ヲ判別スルヲ得スト雖先ツ戸々ニ就キ調査シタル後戸籍ニ照合スルハ手数少ナケレトモ再三役場ニ就クノ煩アリ先ツ戸籍ヲ写スハ第一ニ據處ヲ造リテ戸々ニ就クコト故調査ノ際ハ一目瞭然タルモノアリト雖戸籍ヲ写スノ煩ハ遙カニ前者ニ勝ラン

警察上戸口ヲ調査スルハ極メテ重要ナル問題ニ属シ其何ノ爲メニ此ノ手数ヲ要セサルヲ得サルヤハ別ニ解説ヲ要セスシテ明ナリ。既ニ其重要ナル所以ヲ了知スルニ於テハ極メテ詳密ニ戸口ヲ調査スヘキコト勿論ナリ。蓋資

力アリ恒産アリ定職アル者ニ対シテハ其調査ヲ頻繁ニスルノ必要ナク唯ソノ家族ノ増減ヲ知り得ルノミニテ足レリトスルモ下等社会無職無産ノ者ニ至テハ警察ノ視察ヲ要スルコト少カラス。是等ノ家ニ巡査ノ数々臨檢スルハ大ニ取締ノ効力ヲ有スルモノニシテ白ラ惡漢無頼者ヲシテ内ニ顧ミル所アリテ自然其非ヲ改メ其惡心ヲ翻シ間接ニ警察ノ目的ヲ達スルコトヲ得ルモノアリ。故ニ戸口ヲ調査スルニハ住民ノ種類ヲ區別シ資力恒産定職アル者、雇人ヲ使用スル家、出入者ノ多キ家、多ク職人ヲ使用スル家、職工場、機械場、警察ノ取締ニ属スル營業者、土方、日傭稼、無定職者、浮浪ノ徒若クハ惡漢ノ聞アル者等ノ如キ警察ノ視察ヲ要スヘキ度ノ卑キ者ハ調査ヲ疎ニシ視察ヲ要スヘキ度ノ高キ者ハ其度ニ從テ調査ヲ頻繁ニシ其種類ニ依テ調査ノ程度ヲ定ムルヲ要ス而シテ各地方ニ於テ此程度ヲ甲乙丙ノ三種ニ別ツアリ尚丁戊ヲ加ヘテ五種ニ別ツアリ其權利ノ多少ハ各地方ニ於ケル實際ノ便宜ニ從フヲ以テ敢テ輕重ナシト雖其種類ヲ細別スレハ白ラ視察上ノ便利ヲ得ルハ亦疑ナキ所トス

善良ナル家ニ就キ数々戸口ヲ調査スレハ厭忌ノ心ヲ生セシメ徒ラニ恨ヲ招クノ手段タルニ過キスシテ實益ナカルヘシ之レニ反シ惡漢無頼ノ徒ニ就キ数々戸口調査ヲ行ヘハ其内部ノ事情ヲ察知スルノ便ヲ得彼等ヲシテ恐懼ノ念ヲ生セシメ竟ニ自新ノ途ニ導クノ一方便トナルコトアリ。此戸口調査ニ依テ得タル實益ニシテ好例アリ某地方ニハ嬰兒壓殺或ハ墮胎ノ弊アリ昨日ハ腹部膨張便々トシテ今ニモ出産スルノ状アリシ婦女モ今日ハ縮小シテ平常ト異ナルコトナク而シ出産シタルニハ相違ナキモ産児ヲ見ス隣佑之ヲ見テ怪シマス郷人之ヲ知ルモ敢テ意トセス夫妻亦之レニ慣レテ恬然タリ是此ノ地方ノ慣習ニシテ村長之ヲ論シ郡長之ヲ戒メ警察官之ヲ禁スルモ因襲ノ久シキ却テ其言フ者ヲ怪ムノ狀況アリ。警官已ニ其慣習ナルヲ知ルト雖罪ハ則罪ナリ忍テ告発スルノ場合少ナカラサリシ然ルニ戸口調査ヲ嚴ニシテ妊婦ノアル家ニハ殊更注意シテ調査ノ度数ヲ増シ兼テ墮胎壓殺ノ大理ニ背キ其罪ノ重キ所以等ヲ説キ之ヲ戒諭スルヨリ自然其習俗ヲ破壊シ此惡弊ノ痕ヲ絶ツニ至リシモノアリ又或ハ戸口調査ニ因テ風俗ヲ矯正セシモノアリ博奕ノ会場タリシヲ止メタルモノアリ實地調査ノ方法ニシテ其宜ヲ得ハ行務上ノ實益ヲ収ムルコト更ニ大ナルモノアラン

之ヲ調査スルハ巡査ノ任ナリ巡査諸氏ハ既ニ其利益ヲ了解シ居レリ故ニ斷ヘス之レニ從事セラル、ハ論ヲ俟タ

ス。東京ヲ除キ他ノ地方ニ於テハ巡査ノ受持区ヲ定メ其区内ノ事故ニ付テハ一切其責ヲ負担セシメアルヲ以テ戸口調査ノ如キハ責任巡査ニ於テ之ヲ爲シ別ニ戸籍専務ノ巡査ナシ。然レトモ其實地調査ノ方法ハ亦異ナルナキ能ハス駐在巡査ニ在テハ多ク一定ノ非番ナキヲ以テ其調査ハ巡回勤務ノ傍之ヲ爲シ署所在地ノ受持巡査ハ非番ノ日之二従事セリ故ニ署所在地ハ常ニ精密ニシテ臨檢モ亦周到ナリト雖駐在所受持区ニ在テハ自ら粗雑ナルヲ免レス今之ヲ一定シテ精粗ナカラシムコトヲ欲セハ別ニ戸籍専務ノ巡査ヲ置クヲ要スレトモ配置規則ノ許サ、ルアリテ之ヲ爲シ得サルヲ以テ已ムヲ得ス其力ノ及フ限り精密周到ナラシムルニハ駐在巡査ヲシテ巡回毎ニ必ス調査簿ヲ携帶セシメ断ヘス之ヲ行ハシムルニアリ

警察ノ戸口調査ヲ始メシ以來著シキ實効ヲ見タルハ生年月ノ相違ト通称ニ兩名アルコト並自ら其姓名ヲ詳知セサル者アルヲ發見シタルコト是ナリ

生年月ハ随分錯雜シ易キヲ以テ問々相違ヲ生スルモノナレトモ實際邊隅ノ住民ニ在テハ村長へ届漏ノ者多ク或ハ人ニ依托シテ届出ヲ爲スノ際其人ノ爲スニ任セテ自ら之ヲ檢セサルカ故ニ他人ノ想像ヨリ年月ヲ誤ルモノアリ或ハ戸籍法布告ノ刷新ニ届出ヲ爲スニ当テ兒女ノ年齢ヲ當歲トシテ届ケタルアリ諸々斯クノ如キ次第ヨリシテ今日ニ至リ其不都合ヲ發見スルナリ畢竟村長ハ是迄届ヲ受取ルノミニテ調査ヲ爲スコトナカリシヲ以テ其差異アルヤ否ヲ知ラサリシニ巡査ノ實地戸々ニ就キ調査スルニ當リ戸籍ト實物ト大ニ異ナルモノアルヲ知レルナリ 其通称ニ兩様アルハ甚疑訝ニ堪ヘサルカ如クナレトモ文字ナキ人民ニ於テ往々是レアル事實ニシテ其理由ハ既ニ諸君ノ知ル所ナレハ茲ニ贅セス

此ノ兩件ハ調査ノ際慎重ナル注意アラシムコトヲ要ス而シテ若シ此ノ如キ錯誤アルコトヲ發見シタルトキ爲シ得ル丈ケ其生年月ヲ確メ之ヲ戸籍面ノ生年月ノ傍ニ副書スヘシ其通称ノ戸籍名ト異ナルモノ亦然リ斯ク兩様ノ事柄ヲ調査シ置ケハ他日必要ノ生シタルトキ大ニ便利ヲ得ヘキナリ

又巡査ノ調査シタル戸数人口ト役場帳簿ノ戸口数ト差異アルモノ少シトセス而シテ巡査ノ調査シタル数常ニ多キニ居ルハ甚異シムヘキカ如シト雖之ハ役場ニ届漏アルヲ以テノ故ニシテ警察ノ調査アル効果ト謂ツヘキノミ

(三) 戸籍調製ノ方法

戸口ヲ調査スルニハ必ス調査簿ヲ欠クヘカラス而シテ別ニ戸口原簿ヲ備フルヲ要ス今爰ニ調査簿ト戸口原簿トノ區別及其調製ノ方法ヲ列叙セント欲ス

〔戸口調査簿〕 此調冊ハ巡查ニ於テ其調査シタル戸口ヲ書載スル所ノモノニシテ巡查ノ常ニ携帯セル帳簿トス故ニ之ヲ調製スルニハ携帯ニ便利ナル様小形ニスルヲ要ス多クノ地方ニ於テ調製スル所ノ帳簿ハ横帳ニシテ厚紙ノ短冊ヲ挿入スルノ方法ヲ取レリ又経費ノ許サ、ル地方ハ通常ノ罫紙ヲ以テ調製スルアリ或ハ警察署ニ於テ特ニ横帳ニ適當ナル罫紙ヲ製シ受持巡查ニ配付スルアリ未タ嘗テ一定ノ方法ニ拠ルモノアルヲ見ス。固ヨリ一定ノ方法ヲ以テ調製スルノ必要ハナケレトモ簡便ニシテ錯雜セサランコトヲ要スルハ勿論ナリトス

某地方ニ於テ實用スル所ノ調査簿ハ挿入法ニ拠ラス亦通常ノ罫紙ヲ用イス別ニ調査簿ニ適當ナル一種ノ罫紙ヲ用フルヲ見ル 其罫ハ半紙半枚摺ニシテ豎紙ナリ家主ノ氏名年齢職業等宿所ヲ第一第二ノ罫ニ記載スヘキ爲メ適宜ニ罫界シ其次ハ空欄トシ妻子父母兄弟等自在ニ記入スルヲ得セシム此調査簿ハ至極簡便ニシテ實用ニ適シ其上格別経費ニ差支ヲ生スル程ノ費用ヲ要セス故ニ調査簿ハ此方法ニ倣ヒ調製スヘシ又別ニ索引簿ヲ製シ氏名ヲイロハ順ニ記載シ之レニ番号ヲ付ス、右ノ調査簿ハ厚紙短冊ノ挿入法ニ拠ラサルカ故ニ家人ニシテ他ニ移住シタル場合ハ之ニ朱抹ヲ施シ其名ノ上ニ事由ヲ記シ置クヘシ故ニ他日調査ヲ要スル場合ニ於テ其異動ノ事由一日瞭然タリ其家族多クシテ一葉ニテ足ラサルモノハ幾枚ニテモ補綴スルヲ得ルモノトス。若シ全家移住ノ場合ニ於テハ其部分ヲ抜取り別ニ保存シ置キ他日ノ参照ニ供スヘシ

〔戸口原簿〕 此簿冊ハ警察署ニ備ヘ置クヘキモノニシテ其調製方ハ極メテ保存ニ堪フルノ方法ヲ採フヘシ尤トヨリ携帯スヘキモノニアラサレハ小形ナル必要ナク寧ロ大形ニ製スルヲ可トス美濃板ノ紙一枚摺トシ調査簿ト略同一ノ罫欄ヲ設ケ家族一人コトニ詳細ニ事故ヲ記載スルヲ得ヘキ余地ヲ存スルヲ要ス此原簿ニモ亦索引簿ヲ付スヘシ

原簿ハ警察署管轄区内ノ総戸口ヲ記載スヘキモノニ付其簿冊ハ甚浩瀚ナルモノトナルヘシ。然レトモ之レニ由

テ以テ人口戸数ヲ調査シ住民ノ職業、貧富、性情、年齢等ヲ知ルヲ得行政司法兩警察ノ執行上大ナル便益ヲ得ルヲ以テ成シ得ヘキ丈ケ之ヲ精密ニシ決テ之ヲ省略スヘカラス。此簿冊ハ兼テ亦前科索引簿ニ充ツルヲ得ヘシ

分署管轄区内ノ戸口原簿ハ某地方ニ於テハ之ヲ分署ニ委託シ警察署ニ於テ保管セサル所アリ。經費節減ノ点ヨリ論スレハ可ハ則チ可ナレトモ時トシテハ警察ノ統一ヲ欠キ調査ヲ要スルニ際シ繁雜ナル手数ヲ費スノ感ナキ能ハス。又之ヲ警察署ニ總括シ分署ニ備ヘ置カサル地方アリ。統一上至極便利ナリト雖分署ノ事務ニ不便ヲ来シ調査ヲ要スルニ當テ之ヲ本属署ニ照会スルノ手数ヲ免レス殊ニ一郡一分署ヲ置ク場所ニ在テハ其不便更ニ甚シキモノアリ要之一利一害ハ数ノ免レサル所ニシテ孰ヲ可トシ孰レヲ否トセン然レトモ其間自ラ利害ノ判定ヲ下スヲ得ヘキ所ナキニアラス

一郡ヲ管轄スル分署ニ於テハ其原簿ヲ本属署ニ附セス自ラ之ヲ保管シテ獨立ノ原簿トシ其戸口ノ増減ハ本属署ニ即報スルコトトシ警察署ニ於テハ分署ノ管轄ニ属スル区内ノ戸口ヲ記載スヘキ仮簿ヲ製シ之レニ家主ノ氏名年齢職業等ノ要件ヲ記載シ其家族ハ別ニ詳記セス家族何人、内男何人女何人トシ戸口調査ノ便ニ供スルノ方法ヲ設クヘシ、又一郡一警察署ノ下ニ在ル分署ニ於テハ前者ト相反シ其原簿ハ警察署ニ備ヘ置キ一ヶ月一二回分署ノ報告ヲ受ケテ之ヲ増減スルコトトシ分署ハ前者警察署ニ備ヘアル仮簿ト同様ナル帳簿ヲ製シ以テ時々ノ増減ヲ記入スヘシ

斯クスルトキハ其所轄ニ属スル一郡区ノ戸口ヲ一日ノ下ニ諒知スルコトヲ得テ戸籍簿ヲ備ヘ置クノ要旨ニ適セシ。然リト雖實事ノ便否ハ署長其人ノ考按及上地ノ狀況如何ニ依テ相異ナルモノナレハ強チ爰ニ論定スルヲ要セス唯記シテ常務者ノ参考ニ供ス

本邦未タ前科索引簿ノ製法ヲ規定セス。警視庁ニ於テハ夙ニ之ヲ調製シテ實行セルヲ以テ各地方ニ於テモ往々之レニ倣ヒ調製スルモノナキニアラスト雖一般ノ規定ナキヲ以テ区々錯綜未タ以テ全然整備セリト云フヘカラス加之處刑通知法ノ定ナキカ故ニ悉ク索引簿ニ記入スルノ途ヲ得ス。往年戸長ノ職務トシテ戸籍ニ處刑ヲ記入セシコトアリシモ今ハ全ク此事ナク前科ヲ知ルノ便ナシ故ニ前科索引簿ノ製法ハ一般ニ規定セラル、ノ急務ナルヲ信

ス然レトモ警察署ニ於テハ其自己ノ管轄スル人民ニ就テハ出来得ヘキ丈ケハ前科ヲ記入シ置クヲ要ス 故ニ仮ニ戸口原簿ヲ以テ此索引簿ニ代用スルノ方法ヲ採リ其處刑ノ人アルコトヲ知りタルトキハ之レカ記入ヲ怠ラス以テ他日索引簿調製ノ備ヲ爲シ置クヘシ又各府県ニ於テハ協賛一致ノ上互ニ本籍ノ警察署ニ處刑ノ人名刑名等ヲ通報スルノ途ヲ開クヲ要ス某縣ニ於テハ其縣内ノ各裁判所檢事ト申合セ其本籍人民ノ刑ニ處セラレタルトキハ檢事ヨリ直ニ之ヲ警察署ニ通報スルコトニ定メアリト是レ亦一ノ便法ナリトス

(四) 戸籍簿記載例

戸口調査ハ小形ノ帳簿ナルヲ以テ事故ヲ詳細ニ記入スルコトハ困難ナルヘシ故ニ特別ノ事故アルモノハ之ヲ日誌ニ書留メ調査簿ニハ簡單ニ之ヲ記入シ置クヘシ其日誌ニ書留メ置キタル事故ハ詳細之ヲ本屬署ニ報告シ本屬署ハ之ヲ原簿ニ記入スヘキモノトス、總テ調査簿記入方ハ一町村コトニ一番地ヨリ順次ニ記入スルヲ可トス然ラサレハ戸籍ノ紛乱ヲ生シ易キ恐アリ。某地方ニハ番地順ニ由ラス受持区ノ便宜ニ依リ警察番号ヲ各戸ニ附シ以テ調査ノ順序ヲ定ムルモノアレトモ元ト番地順ヲ定メタルハ其町村ノ地所家屋ノ秩序ヲ整理スル爲メニ外ナラサレハ警察上殊更ニ順序ヲ変更スルノ必要モナカルヘシ故ニ断然固有ノ順序ヲ以テ帳簿ニ順次記載スヘシ。尤モ同番地内ニ数戸アルモノハ其番地内ニ於ケル警察番号ヲ定メ之ヲ各戸ニ附シ調査簿ニモ亦同様之ヲ記スヘシ譬ヘハ何町何番地警第一号警第二号トスルカ如シ

調査簿ニハ每葉番号ヲ附スルヲ要ス此番号ハ氏名索引簿ニ要用ナルヲ以テ秩序正シク之ヲ附スヘシ其番号ハ紙面左部ノ上端ニ記スルヲ可トス是レ檢閲ノ際綜索ニ便ナルカ爲メナリ故ニ此罫板ニ番号記入ノ位置ヲ画シ置クヘシ

調査簿ニハ第一欄ニ国郡市町村番地ヲ記シ第二欄ニ家主ノ職業生年月日氏名ヲ記スヘシ第三ノ大欄ニ家族ノ氏名生年月日ヲ記シ其上部ニ各自ノ職業若シ他ニ住居スルモノハ其住地及他住ノ事由其他事故要領ヲ記入スヘシ家主ニシテ一時他ニ單獨出寓スル等ノ場合アレハ是亦其氏名ノ欄外ニ記載スルヲ要ス。又前々項ニモ述ヘタル如ク僻村鄙地ニ在テハ呼称ニ兩名ヲ有スル者少ナカラス(書上ケ名若クハ役場名ト称スルモノト自家呼称ニ用キ

ル名唱是ナリ)此ノ如キハ役場ノ戸籍ニ記載シアルモノヲ以テ正当トシ其傍ニ通名ヲ記シ置クヘシ。生年月ニ於ケルモ亦然リ是レ司法警察上最有要ナルモノナリ

戸口原簿ノ記載方ハ調査簿ト大体ニ於テ異ナル所ナシト雖調査簿ヨリハ一層詳密ナル記載ヲ爲シ且前科索引ノ用ニ供スヘキ方法ヲ以テ處刑ヲ記載シ置クヲ要ス凡ソ家主ニ属スル事故異動ヨリ家族各自ニ属スル事故異動ニ至ルマテ詳細洩ラサス細記スヘシ總テ身事ニ關スル事件ハ原簿ヲ繙ケハ一日瞭然タル様ニ爲スヲ以テ主要トスヘシ(此記載例ヲ示スハ爰ニ要用ナキヲ以テ之ヲ略ス)

氏名索引簿ハ町村番地順ニ捫ラス總テ氏名ノ「イロハ」順ニ從テ順次ニ記入シ其上ニ調査簿若クハ原簿ノ番地ヲ記シテ綜索ノ便ニ供スヘシ此索引簿ニハ單ニ家主ノ氏名ノミヲ記載シテ家族ニ及ハス故ニ一躰一家主ヲ記シテ可ナリ

「イロハ」順ハ之ヲ字書的ニ記スルヲ可トスレトモ「イロハ」ノ數ハ四十七字ニシテ、秦西ノ「アルハベツト」ノ如ク二十六字ヲ以テスルカ如ク短簡ニアラサルカ故ニ却テ編成ニ困難ニシテ實際索引スルトキ格別其便ヲ見ス假令ヘハ今川義元(イマカワヨシモト)ト泉親衡(イツミチカヒラ)トヲ索ムル場合ニ於テ一目ノ下其孰レカ先ナルヲ知ルヲ得ス。必ラス「イロハニ」ト順次ニ繰リ初メテ泉ノ方先ナルヲ知ラン。氏ニ於テ既ニ然リ其名ニ至テハ更ニ甚シキ不便ヲ感セン因テ悉皆字書的ニ記入セス氏稱ノ頭ナルニ語即チ今(イマ)泉(イツ)丈ケヲ字書的ニ順次ニ記入シ其余ハ順序ヲ要セサルヲ以テ簡便ナルモノト思考ス

以上ハ警察上戸口調査ノ等閑ニ流レ或ハ余リ調査ヲ主要トセサル向並ニ帳簿ノ整備ヲ欠ク地方ノ參考トナリ巡閱官ニ於テ査閱ノ標準ノ一端ニ供センカ爲メ梗概ヲ叙述スルノミ

#### (五) 監視人ノ取扱

監視人ノ取扱ノコトハ既ニ刑法附則ニ規定シアル所ニシテ別段茲ニ注意ヲ促ス程ノ事柄モナキカ如シ併シナカラ警察社会ニ於テ往々説ク所ノモノハ監視ノ際實ニ益ナキコト是レナリ勿論監視ハ刑罰以外ニ於テ行政上或ル範圍内ニ於ケル行爲不行爲ヲ監督視察スルニ止マルモノナレハ之レヲ益ナシトシテ見レハ愈其益ナキヲ見ルヘシト

雖然レトモ亦無ニ勝レルモノアルハ疑モナキ事實ナリ。畢竟之ヲ無益ナリト論スルモノハ規則ノ手續煩雜ニシテ彼此ノ間手数ヲ費スニ過キス而シテ此手数タルヤ被監視人ヲ犯則ニ誘引スルノ指道トナルモノ往々ニシテ皆然リ是レ徒ラニ罪人ヲ製造スル法則タルノミ。之レカ實効ニ至テハ何ノ見ル所ナシト云フニ外ナラス蓋監視ノ精神ヲ知ラサルモノトシテ見ルヘキノミ

近來駐在所ノ設置周ク巡査ニ受持ノ責任ヲ負ハセ且戸口調査ノ整理セシヨリ被監視者ヲ視察スルノ度一步ヲ進メ幾分カ監視上ノ有効ヲ認ムルニ至レリ。従前ニ在テハ單ニ儀式上ノ取扱ニ過キスシテ形而上ノ監視ヲ執行スルマテナリシ斯クテハ刑法ハ何ノ必要アリテ此ノ徒法ヲ規定セシカ。是レ他ナシ刑法ノ罪ニアラスシテ執行官ノ失タルニ歸セサルヲ得サラントス蓋刑法特ニ之ヲ規定シタルモノハ刑余ノ行狀ヲ視察シ兼テ犯罪者ヲシテ滿刑ノ後ト雖猶其行跡ヲ慎ミ自ラ刑余ノ人タルコトヲ思ハシメ悔懲ノ念ヲ發起シテ再犯ノ意ヲ絶チ以テ純粹善良ノ民ニ化セシメント欲スルノ旨趣タラスンハアラス然ルニ惡徒兇棍ハ刑期中既ニ改悛ノ情ニ乏シク況ヤ監視ニ附セラル、ニ於テオヤ。規則違犯ノ者十中ノ八九ヲ占メ甚シキ者ハ旅券ヲ附与シタルノミニテ其行衛ヲ失ナフアリ支障ナク監視ノ執行ヲ遂クル者稀ニシテ告發捜査ノ煩ヲ招クコト一ニシテ足ラス監視ノ實際ニ益ナシト云フハ是アルカ爲メナリ

今ヤ地方村落到ル處ニ駐在巡査アリテ其受持ニ係ル監視人ハ一ヶ月ニ幾回トナク實地ニ視察シ時々戒諭ヲ下シテ悔懲ノ念ヲ誘發シ職業ニ勉勵シテ再ヒ罪人トナルコト勿カラントニ教導スルヲ以テ被監視人ニ於テモ迷夢ヲ打破シ再犯ニ陥イルコトナカラントニ汲々スルニ至レルハ實ニ現時ノ狀況ナリ且近年ハ監視表認印ヲ警察署分署遠隔ノ地ニ在ルモノニハ其受持駐在巡査ニ受ケシムルノ便宜法開ケタルヲ以テ被監視人ノ便宜一方ナラス是レカ爲メ犯則者數稍減少スルニ到レリ。何トナレハ先ニハ一ノ認印ヲ受クル爲メ一日若クハ二日ヲ空費セシモ今ハ數時間若クハ半日ヲ以テ認印ヲ受クルヲ得往復ノ間別ニ費用ヲ要セス又職業ノ妨害トナラス規則ニ服従シ不知不識犯則ニ陥イルノ弊ヲ防遏シタリ是レ監視規則違犯ヲ以テ論セラル、者ノ減少ヲ見ル所以ナリ

警察署分署遠隔ノ地ニ在ル被監視人ハ駐在巡査ノ認印ヲ受クルコトヲ得セシメタルニ由リ其遠隔ノ地トハ幾里



程ヲ隔ツルヲ云フヤ。之レニ就テハ各地方コトニ其意見ヲ異ニシ或ハ五里以上ヲ以テ境界トスルアリ或ハ三里以上ヲ以テ境界トスルアリ又ハ往復一日ヲ要スル里程ヲ以テ限レルアリ。是等ハ遠隔ノ字義ヨリ云ヘハ孰レモ至當ノ意見ト云ハサルヲ得ス中ニハ此變則ヲ利用シテ甚シキ便法ヲ構成シ遠隔ナラサル地即チ署所在地ニ於ケル被監視人ヲ出頭セシムルコトナク其地ノ派出所若クハ受持巡查ヲシテ認印ヲ爲サシムルモノアリ其主持スル所ノ説ハ蓋遠隔ナル地ノ監視表認印ヲ巡查ニ許シタル以上ハ法律上巡查ノ認印ヲ有効トスレハナリ。既ニ之ヲ以テ有効トスレハ何ソ地ノ遠近ヲ問ハンヤ且被監視人平素ノ行狀ハ受持巡查ノ熟知スル所ナリ故ニ認印ヲ与フル際ニ能ク平素ノ不都合ヲ譴責シ得ルノ便アリ警察署分署等ニ來リ署長等ノ面前ニ於テ形而上ノ謹慎ヲ表スルモノニ勝ルコト萬々ナリ故ニ殊更ニ之ヲ派出所等ノ巡查ニ委任シ署ニ出頭スルノ煩ヲ省ケルナリト云フニ外ナラス。然レトモ此變則ノ發生ハ監督官庁ニ於テ執法上ノ便宜ヲ計リ特ニ遠隔ナル地ニ限り巡查ノ認印ヲ許シタルモノナレハ地方官ハ白專ニ此便法ヲ擴張シテ接近ノ地ニ於ケルモノニ及ホスコトヲ得サルハ明白ナル理由ナリ今猶此ノ如キ誤解ノ便法即チ署在地ノ認印ヲ巡查ニ委任スルモノアラハ速ニ之ヲ廢止セラレンコトヲ要ス

警察署分署ヨリ遠隔ナル地ト云フニ就テハ前述ノ如ク見解区々ニシテ或ハ被監視人ノ不利益タルモノアリ因テ爰ニ鄙見ヲ述ヘテ参考ニ供セント欲ス。此遠隔ノ定義ハ坦道片道三里難路往復半日程トスレハ宜ニ適セン歟何ヲ以テ斯ク等差ヲ附スルヤト云フニ羊腸ヲ跋ヘ谿澗ヲ涉ルカ如キ難路ヲ歩スルト坦道砥ノ如キヲ行クトハ其迅速殆ト三ト五トノ比較ヲ爲スヘシ故ニ之ヲ同一ノ境界ニ置クハ宜ヲ得タルモノト謂フヘカラス

此場合ニ於テハ前者ハ里程ヲ量ラス其發足ヨリ警察署ニ至リ認印ヲ受ケ得テ帰宅スル迄半日即チ凡ソ六時間ニテ事足ルモノヲ以テ限トシ其里程ノ二里ナルト二里半ナルトヲ問ハス其半日以上ヲ要スルモノハ受持巡查ニ委任ス。後者ハ片道三里ヲ以テ界トシ其以上ノ地ニ住居スルモノハ巡查ノ認印ヲ受ケシム。斯クスレハ被監視人ニ於テ不便ヲ感スルコトナク又監督官庁ノ之ヲ許シタル旨趣ニモ庭逕スルコトナカラシム

監視執行ノ要ハ間接ニ被監視人ノ行狀ヲ視察スルニ在リ。規則ノ表面ハ彼來テ謹慎ヲ表スルヲ以テ足レリトスレトモ是ハ唯形式上ノ規定ノミニシテ被監視人ニ對スルノ檢束ノミ監視規則ハ決シテ執行官ニ向テ應爲ノ義務ヲ

負ハサス故ニ執行官ニ於テ遵守スヘキ條目アルコトナシ此ニ於テカ間接視察ノ要ヲ生スルナリ然レトモ直接臨監モ亦必要ナリ故ニ間直併行シテ初メテ其全ヲ得ン

被監視人ノ實況ヲ查覈スルハ實際甚必要ナル件トス今爰ニ視察ノ一斑ヲ述ヘントス凡監視ノ視察ハ一ヶ月ニ一回位ノ臨監ヲ爲シ其他ハ全ク間接ノ視察ニ止ムヘシ。此ニ一回ノ臨監モ一回ハ戸口調査ノ際ニ之ヲ爲シ他ノ一回ハ特ニ巡回ノ際直接ノ視察ヲ行フヘシ屢臨監サヘスレハ監視執行ノ能事足レリトスルモノアレトモ大ナル誤見ナリト云ハサルヲ得ス蓋臨監ヲ屢スレハ被監視人職業ノ妨碍トナリ警察ニ対スル厭忌トナリ隣佑郷閭ノ恠訝トナリ監視人ヲ疑フ意思ヲ生シ之レト伍スルコトヲ屑トセサルニ至リ、被監視人ニ自棄心ヲ發セシムルカ如キ不良ノ結果ヲ見ルニ至ラン

故ニ一回ノ臨監ハ戸口調査ノ際ニ於テシ他人ハ勿論被監視人自身ニサヘ臨監ヲ心付カスシテ經過セシムルカ如キ方法ヲ採リ他一回コソ真ニ視察ノ爲メ臨監シタルコトヲ記憶セシメ陰翹相待テ監視執行ノ目的ヲ達スヘシ。直接視察即チ臨監ノ場合ニ於テハ其平素ノ心得行状等ヲ戒諭シ兼テ悔過遷善ノ道ヲ講シ彼ヲシテ真心悔悟ノ念ヲ發セシメ其天真ノ良性ニ復帰セシムルヲ務ムヘシ。又他ノ間接視察ハ巡回ノ際一ヶ月五六回位隣佑郷閭ノ風評ヲ聞キ其他交渉ノ事柄職業ニ依テ生スル事實等ヲ參酌シ以テ其良否ヲ推知スヘシ被監視人ニ対シテ之ヲ待ツコト刑罰中ノ者ト同一ノ感情ヲ以テ之ヲ待ツヘカラス可成寛ニ從ヒ唯其ヲシテ監視規則違反ノ罪ニ觸ル、コトナカラシムルコトニ注意アレハ可ナリ

微罪解放者ヲ監視ト同シク行政ノ監視ニ附スルモノアリ其法、罪ノ成立輕微ニシテ惡意トスルニ足ラサルモノハ後來ヲ戒膺シテ直ニ之ヲ解放ス然レトモ犯罪ノ人タルヲ免レサルヲ以テ其行状ヲ視察シテ再犯ヲ防遏シ善良ノ民ニ化セシメントスルナリ。此解放者ハ警察署分署ニ解放者台帳ナルモノアリテ一々之レニ記載シ置キ或ハ三ヶ月或ハ六ヶ月間受持巡查ヲシテ間接ニ視察セシムルナリ。此事外形上ヨリ評下スレハ甚善良ナル方法ト云ハンカナレトモ既ニ無罪トシテ解放シタル者ヲ疑フテ視察スルハ求メテ煩ヲ買フノ愚ヲ見ルニ近シ寧口之ヲ爲サ、ル純潔ナルニ若カスト思考ス

巡閲官ハ以上ノ諸項ニ就テ参考シ實地査閲ヲ行フニ當テハ巡查ノ被監視人ニ對スル行爲及其待遇ハ如何ナル程度ニ在ルカ其直接間接ノ視察ハ一ヶ月幾回ナルヤ其間接ノ視察ハ重ニ如何ナル方法ヲ採リシヤ等ヲ査覈シ苟モ監視執行ノ精神ヲ誤ルカ如キモノアレハ縦容ナク之ヲ訓戒セラルヘシ徒ニ監視無益論ニ沈醉シテ監視執行ヲ輕視スルコト勿レ

#### 十 文書統計記録ノ整理

警察ハ活動ナリ故ニ警務取扱ハ最モ敏捷ナラサルヘカラス警務取扱ヲ敏捷ニスルニハ官吏ノ慣練習熟ヲ要スルハ言フ迄モナキコトナガラ既往完結ノ文書及所屬事務ノ統計ヲ整理シ置クハ甚必要ナルヲ見ル  
書類ヲ適正ニ處理シ若クハ新任ノ署長及其他ノ官吏ヲシテ前例ニ依遵シテ事務ヲ扱ヒ且同一事件ニ就テ互ニ相抵牾矛盾スル所ノ處分ヲナスカ如キ不都合ナカラシメンカ爲メ能ク整頓シタル記録保存所ヲ設クルハ殊ニ必要ナルコトニシテ既ニ能ク整頓シタル記録保存所ヲ有スル上新事件ヲ調理スルニ當テ容易ニ前例ヲ參酌シ得ルノ便益アルハ論ヲ俟タス」トハ、獨國警察大尉ヘーン氏ノ曾テ言ヘル所ニシテ泰西諸國ノ官署ニ於ケル書類ノ秩序整然タルト保存方ノ簡便ニシテ且行届キタルハ實ニ贊歎ノ至ニ堪ヘス」トハ某洋行婦リノ紳士ノ言ナリ

歐洲人ノ事務ヲ取扱フニ寡員ニシテ能ク夥多ノ事件ヲ調理シ敢テ渋滞ノ弊ナキ者ハ書類整理ノ完全ニシテ且秩序ノ整備シタルモノニ由ラズンハアラス

統計ノ調製ハ機務ノ活動ヲ助クル要具ニシテ警察ノ事務ニ付テハ甚必要ナリトス蓋既往ニ徴シテ今來ヲ推知シ以テ將來ノ方向目的ヲ定メ進路ノ機關ノ運轉ヲ掌リ緩急相應シ寬嚴互ニ制シテ適正ナル警察運営ヲ布キ周到無欠ノ事務執行ヲ爲サント欲スルハ必ス依テ以テ料理スルノ材料ナクンハアラス而シテ此材料中統計ヲ以テ第一トセ

統計ハ一日ノ下戸數人口ノ多寡増減、土地ノ廣袤、官吏ノ人員、警察事故ノ數其前年ニ比シ増減ノ狀況、警察署若クハ分署ニ於テ扱ヒタル文書ノ數、官吏ト人口トノ比較、官吏ト文書取扱トノ比較、人口ト警察事故トノ比

較、諸般ノ事項ニ就テ前年ト今年トニ比シ増進若クハ減退ノ狀況等ヲ見其顯象或ハ結果ヲ推究シテ可否ヲ判定シ以テ施行ノ緩急ヲ計ルハ一ニ統計ニ由ラスンハ能ハス統計ノ事タル實ニ大哉

政府モ既ニ統計ノ必要ヲ見先キニ統計ヲ密ニスルコトヲ達シ又統計事務ヲ處理スル爲メニ別ニ其局ヲ置ケリ。内務省ハ内務報告例ナルモノヲ發布シテ以テ地方ノ統計ヲ徵集セリ。總テノ事務ヲ調理スルニ方テヤ其緩急適度ヲ計リ法律規則ヲ制定スルニ其場合ヲ鑑ミルハ統計ノ確實ナル原料ニ依ラスンハアラス而シテ警察上ノ統計ハ他ノ統計ヨリモ適切ナルモノアリ

第一盜難ノ多少ニ因テ民度ノ寬窄ヲ考ヘ第二犯罪ノ種類ヲ檢舉シテ法律規則ノ施行ノ度ヲ測リ第三既往現在ヲ比較シテ其原因ヲ探究シ以テ將來ノ策ヲ講スル等統計ノ用殆ント枚擧スルニ違アラサルヘシ故ニ統計ヲ整理スルハ警察署ニ於ケル一ノ要務ニシテ決シテ之ヲ忽諸ニ付スヘカラサルモノトス

記録ハ之ヲ大ニ云ヘハ書契アツテヨリ以來實ニ重要ナルモノトス記録ハ則チ歴史ニシテ沿革ヲ徵シ先例ヲ逐ヒ過去ノ事態ヲ檢シ或ハ証拠ヲ取り或ハ前規ヲ履ム等悉ク記録ニ拠ラサルハナシ。故ニ地方ニ於テモ記録保存及整理ノコトハ常ニ注意ヲ欠カス着々之レカ秩序ヲ爲ス所ナリ從來各警察署分署ハ外部ニ屬スル事務多端ナル爲メ其内部ノ事務ハ往々不整備ノ感アリシモノ甚多數ナリシ

明治十八九年ノ頃ヨリ記録及文書ノ整理方警察社会ノ問題ニ入り頻リニ改良ノ説ヲ唱ヘタルヨリ大ニ舊觀ヲ一新シ各署内部ニ於ケル秩序稍其緒ニ就キ明治廿一二年ニ至テハ全ク整理ノ功ヲ収ムルノ好況ヲ呈セリ。蓋警察官タルモノハ執行警察サヘ程能ク行ケハ可ナリ文筆帳簿ノ瑣事ハ俗吏ノ事ノミ苟モ法律規則ヲ執行スル者ノ能クスヘキモノニアラスト高ク構ヘテ更ニ頓着セサルノ風アリシヲ或者ノ刺戟ニ由テ大ニ其非ヲ悟リ終ニ今日ノ整理ヲ見ルニ至リシナリ

帳簿ヲ編製スルニ可成簡便ナル方法ヲ撰フヲ要ス。所ニ由リテハ一事目コトニ帳簿一冊ヲ製シ置クアリ故ニ帳簿ノ冊數二十余种ニ至レルアリ。斯クテハ折角簡便ヲ貴フノ精神ニ反シアル事件ヲ捜査スルニ際シ何ノ帳簿ヲ繙閱セハ可ナルヤ之ニサヘ既ニ惑ヲ生シ終ニ綜索上ニ無益ノ手数ヲ要スルコトアリ。今此綜索ヲ使ニスルノ目的ヲ

以テ帳簿ヲ編製スルニハ宜シク事件ヲ大別スヘシ即チ

第一 行政警察事務ニ關スル事項

第二 司法警察事務ニ關スル事項

第三 主計事務ニ關スル件

第一ノ種類ニ屬スル帳簿ハ其表紙ヲ白ニシ、第二ニ屬スル帳簿ハ其表紙ヲ茶ニシ、第三ニ屬スル帳簿ハ其表紙ヲ青ニスルカ如キ各種ニ由テ其表紙ヲ區別シ置クトキハ書棚中ニ於テ一見之ヲ識別スルノ便アリテ綜索ノ際之ヲ物色スルニ甚便捷ナリ而シテ又此三種ノ中ニ就テ目ヲ別ツヲ要ス。危險、風俗、衛生、營業ノ如キヲ以テ之ヲ別ツトキハ帳簿ノ冊數ヲ減スルヲ得ヘシ帳簿ヲ編製スルニハ索引ヲ正確ニスルヲ要ス。索引正確ナラサレハ綜索上亦大ニ不便ヲ感スヘシ故ニ索引簿ナルモノハ別ニ之ヲ製シ、他ノ帳簿ト混淆セサル様別ニ表色ヲ爲スヘシ

編綴上注意ヲ要スルコトアリ。則チ未完結ノ事件ヲ完結書類ト与ニ編了スルコト及一事件ヲ分別シテ編了スルコト是ナリ。未完ノ事件ヲ編綴スルトキハ誤テ完結事件ト見認メテ他日大ナル錯誤ヲ生スルコトアリ又同一ノ事件ヲ分別シテ別所ニ編綴スルトキハ誤テ二事件トシテ前規ヲ履ム場合ニ過謬ヲ生スヘシ。尚ホ編綴上ニ就テハ仔細ニ注意シ其秩序ヲシテ整然タラシメ一件コトニ分界ヲ明ニシテ綜索ノ利便ヲ計ル等ノコトハ瑣事ニ似テ瑣事ニアラス文書ヲ整理スルノ一部分ナリトス

帳簿中最注意ヲ要スヘキハ主計ニ屬スルモノトス。主計ノ事タル理論ヲ以テ勝タス場合ヲ以テ推サス唯金錢物品ノ出納及受授ヲ明瞭ニシ其員數ヲ正シ其決算ヲ証スルハ唯帳簿ニ掲記スル所ノモノニ依リ之ヲ調査スルノ外他ニ道ナキナリ。故ニ主計事務ニ屬スル帳簿ノ整理ハ特ニ注意シ半葉片紙ト雖之ヲ遺棄スルカ如キコト勿ラシムヘシ

巡閲官ハ曾テ警察部ニ於テ文書ノ整理規則ノ發布スルニ當リ潜心仔細ニ之ヲ考慮シタルコトナレハ警察署分署ニ臨ミ査閲ノ場合ニ於テハ一見シテ其整否ヲ鑒別スルヲ得ヘシ能ク之ヲ注意シテ其違法ノ者ヲ看破シ以テ文書ノ散帙ヲ防クヘシ

統計ヲ誤テ製表ト認ムルノ輩アリ何ノ意思モナク表ヲ製シテ統計ノ能事足レリトスル者アリ。素ヨリ製表トテモナキニ勝ルコト萬々ナレトモ統計ノ要ハ比照ニアリ比照ヲ爲シ得サルトキハ統計ニアラサルヘシ。比照トハ何ソ物ト物ト相比シ数ト数ト相照ラスヲ云フ。統計学ニ就テハ本会別科講義録ニ於テ呉文聰君ノ講述ヲ載セタリ故ニ茲ニハ之ヲ説カス唯恐ル巡閱官ニ於テモ表数サヘ多クアレハ統計ノ上乘トナシ統計ノ精神ヲ外ニ看過セラレンコトヲ

### 十一 服装姿勢及禮式

服装ハ態度ヲ嚴肅ニシ職務上ノ威嚴ヲ保維スルニ付テ其關係スル所少ナカラサルヲ以テ之ヲ整理シテ苟モスヘカラス警部以上ニ在テハ客年七月内務省訓令第二十七号ヲ以テ之ヲ定メラレタレハ既ニ其齊肅ナルヲ見ルヘシ。巡查ニ於ケル服装規則ハ未タ定レルモノアルコトナシ故ニ往々不体裁ナル服装ヲ爲スモノアルヲ免レス。總テ服装上心得ヘキハ鈕釦ノ外脱シタル破綻アル若クハ汚染アル等ニ在リ巡查ニハ其服一種類ニシテ正略ノ別ヲ有セス故ニ装着ノ場合ニ當リ彼是ト紛雜ヲ生スルコトナク常ニ一定不変ナレハ何々ノ場合ニハ如何ニスヘシ斯々ノ席場ニ臨ムニハ何々ノ服装ヲ爲スヘシト云フカ如キ面倒ナル區別ヲ要セサルヲ以テ服装上之ヲ戒ムヘキハ前陳ノ項目ニ在ルナリ

冬期ニ在テハ甚シキ不体裁ナル服装ヲ爲シタルモノハ余リ見サル所ナレトモ夏期炎暑ノ際ニハ往々不体裁極マルモノアリ。村道林蹊ヲ巡回スルニ際シ上衣ノ鈕釦ヲ除脱シ胸襟ヲ開披シ殆ト皮膚ヲ頭ハシ又ハ袴ヲ高ク蹇ケテ殆ト股脚ヲ表出スル等惰弱怠慢ノ装ヲ爲シ恬トシテ白ラ怪シマス。炎暑ヲ凌クノ上ニ於テハ是当然ナリト思惟シ其失態ナルヲ顧ミス其他破綻ヨリ裏切レヲ露出シ長キ袴ノ筒口ヲ折り返シテ歩行スル等極メテ外觀ノ醜惡ナルモノアリ

服装ノ整理セサルハ警察ノ体面上其關スル所僅カニ外形ノ儀式ノミニ止マラス其及ホス所ノモノハ警察ノ秩序及紀律ノ寬嚴ニ延引スルヲ以テ点檢ヲ行フニ當リ仔細ニ之ヲ注意シ決シテ輕忽ニ附スヘカラス。服装其宜キヲ得

ルハ以テ其人ノ威嚴ヲ増シ且公衆ノ敬重ヲ受クルノ利益アルヘキナリ

姿勢モ亦然リ。曾テ純正嚴格ナル兵式体操ヲ修練シタルモノハ措テ言ハス一般ニ體質ヨリ言下セハ本邦人ハ大概背骨彎曲肩尖前斜シテ直立ノ姿勢ヲ採ルコト甚困難ナリ。然レトモ習慣ハ第二ノ天性トナリテ平素姿勢ニ注意セハ決シテ矯正シ得サルノ憂アルコトナシ姿勢端正ナレハ運動活発トナリテ自然生氣ヲ起シ敏捷ナル事務執行ノ衝ニ當リテ狼狽猶予アルコトナカルヘシ

姿勢ハ獨リ多数整列シタル場合ノミニ於テ之ヲ矯正スヘキモノニアラス單獨ニ就テモ亦之レカ端正ヲ欠クヘカラス。巡閱ノ際ハ最モ之レニ注意シ公衆ノ輕侮ヲ受クルコトナカルヘシ寒風ノ中ニ立テ両手ヲ「ポケット」ニ突込ミ首ヲ外套ノ襟ニ収縮シ茫然トシテ巡行スルカ如キ又ハ鷲ノ鱗ヲ狙フカ如ク思案投首シテ時々低回シ或ハ野狐ノ食餌ヲ索ムルカ如ク左右顧眄シテ「キョロ々々々」然タル其狀精神ナキ傀儡ノ如キアリ又ハ樹木柱屨ニ倚懸リ或ハ手ヲ背後ニ拱シテ佇立スル等ノ如キ姿勢壞顔ノ甚シキモノアリ。監督官ノ目ヲ掠メ儉安ノ所業ニ出ツルナルヘシト雖平素ノ教習ノ緩疎ナルヲ見ルヘキナリ

禮式ハ職務ノ内外ヲ問ハス人ニ敬意ヲ致ス所以ニシテ決テ之ヲ忽カセニスヘカラサルハ論ヲ待タス。内務省ハ曩ニ警察官吏禮式(明治十九年九月二十七日内務省令第十八号)及警察官吏禮式心得(全日内務省訓令第十九号)ヲ定メテ其標準ヲ示シ以テ敬禮ノ秩序ヲ整ヘリ。今地方ニ於テ敬禮ヲ行フハ此標準ニ則リ兼テ警官練習所ニ於テ習練シタル所ノ實形トヲ以テ之ヲ普及ス故ニ問々行禮ノ際失体ノ舉動ナキ能ハス

思フニ禮式ナルモノハ形而上ノ働ノミヲ以テ満足スヘキモノニアラス。必スヤ形而下即チ精神ノ働ヲ以テ之ヲ行ハサレハ禮式ノ法ニ適シタリト云フヲ得サルヘシ。舉手注目ハ禮ノ用ニシテ誠意精神ヲ以テ敬禮ヲ施スモノ足レ禮ノ實ナリ禮ニシテ實ナケレハ虚禮ナリ虚禮ハ警察官吏禮式ノ旨趣ニアラサルナリ

敬禮ヲ行フニハ姿勢ヲ正サ、レハ不可ナリ姿勢整ハサレハ失体ニ陥キリ易シ。又最敬禮ヲ行フヘキ場合ニ尋常ノ敬禮ヲ行ヒ尋常ノ敬禮シテ可ナル場合ニ最敬禮ヲ行フカ如キハ禮ノ秩序ヲ乱シ敬意ヲ失フタル虚禮ニ近キモノナリ平素ノ習熟ハ固ヨリ欠クヘカラサルコトナレトモ敬禮ヲ行フニ當テハ誠意謹直ニシテ受禮者ヲ敬スルノ心充

分ナラサレハ不可ナリ。故ニ假令路傍街頭行人ノ禮儀ニ對シ答禮スル場合ニ於ケルモ先ツ敬意ヲ生シ而後舉手注目ヲナスヘシ。然ルトキハ決シテ失体ノ憂ナクシテ禮式ノ旨趣ニ適合セン。夫ノ人態衣服ニ由テ行禮ノ正略アル若クハ老嫗野夫ニ對シ欠禮スルカ如キハ禮式ノ精神ヲ失ヘルモノト云フヘキノミ

警部長ハ其廳下ノ警察署ニ在勤スル巡査ノ行禮ハ常ニ之ヲ見テ其精粗適否ヲ知レルナラン。然レトモ村落在勤ノ巡査ニ在テハ巡閱ノ際親シク之ヲ試ミルノミナレハ之ヲ以テ其精粗熟否ヲ悉ス能ハサルハ論ヲ待タス。又試験ノ場合ニ於テ遇々失行ノモノアリタリトテ平素此ノ如シト断定スヘキニアラスト雖數人齊列ノ上一号令ノ下ニ於テ之ヲ行フトキニ當テハ平素練習ノ如何ヲ推察シ得ヘキヲ以テ其未タ練習ノ至ラサルモノニ對シテハ署長ニ注意ヲ加ヘテ之ヲ矯正スヘシ而シテ前述ノ三件即チ服裝姿勢及禮式ニ對スル欠点失体ヲ正シ注意ヲ与フヘシ儀式ノ視察ヲ以テ之ヲ輕々看過スル勿レ

## 十二 教習及訓授

爰ニ教習トアルハ巡査教習所ニ入り教習ヲ受クル者即チ教習所受業生ニ就テノミ云ヘルニアラス。一般ニ巡査ノ教育上ニ於ケル方法及状態等ヲ視察スヘキコトヲ定メラレタルナリ

巡閱官ハ凡テ此教習ノ頃ニ於テ査閱スルモノハ教習所及其受業生ノ上ニ限ルカ如キ觀念ヲ抱キ居ルモノ多キカ如キ現況アルハ掩フヘカラサル事實ナリ。成程教習トアルカラハ教習所ノコトニ關シタル事柄ニ限ルヤノ様ニ見ユレトモ教習所ハ廳下ニ在リ其實況及成績ヲ見ント欲スレハ毎日之ヲ見ルヲ得ヘシ何ソ一年一回ノ巡閱ノトキニ限り之レカ査閱ヲ爲スヲ要センヤ。殊ニ受業生ノ卒業期ハ大概ニヶ月ナレハ巡閱期ニ際シ在所スルモノノ外ハ警部長ハ其状態成績ヲ知ラスシテ經過シ巡閱ノ際在所スル受業生ノミ之ヲ査閱スルノ不都合ヲ生スヘキナリ。斯クテハ教習所ヲ廳下ニ置クノ利益モナク受業生ニ於テモ警部長ノ面ヲ見サルノ不幸ヲ感スヘシ

元來巡閱規則ノ精神ハ一年間ノ事務成績ヲ査閱シ其当否ヲ了諦シ或ハ矯正訓諭シ或ハ改良創設ノ意見ヲ定ムル等諸般ノ事務上ニ便益ヲ与フルニ職由セスンハアルヘカラス。然ルヲニヶ月ニシテ卒業スル受業生ノ居ル教習所



ニ就テ教習ノ方法及其状態ヲ一年一回ノ巡閲ニ於テ詳悉セント欲スルハ實ニ見當違ノ甚シキモノニアラスヤ。此レ此頃ノ教習トハ教習所受業生ニ限レルニアラスト云フ所以ナリ

故ニ此ノ項ニ於テ査閲スルハ専ラ署若クハ駐在所ニ在勤セル巡査ニ就テ之ヲ爲スヘシ斯克云ヘハ或ハ疑ヲ起シテ之ヲ訝ル人モアラン何トナレハ教習所トテモ警察事務ヲ訓習スル所ナリ其受業生タルモノ、中ニハ既ニ巡査ノ命ヲ拝シタルモノモアリ且警部長ニ於テハ常ニ其實際ハ見聞シ居ルト雖其見聞ノ實況ヲ報告スルコトハ絶テアルコトナシ。故ニ巡閲ヲ行フノ際之ヲ査閲シテ其得タル實況ヲ報告スルニ於テ何ノ妨ケカ之レアラント此疑甚理アリ勿論教習所ヲ巡閲スルハ不可ナリトハ云ハサルナリ。其査閲ノ實況ヲ報告スルハ素ヨリ同感ナリ釋者ノ爰ニ杞憂ヲ抱テ喋々スルモノハ往々教習所ノミノ査閲巡視ニ止メ一般巡査ノ教習如何ヲ顧ミルモノ殊ニ尠キヲ見テ巡閲官或ハ此ノ規則ノ主旨ヲ誤テ此見當違ヲ爲スニアラサルヤヲ慮リテ爾ク之ヲ論去セシナリ

教習トハ巡査一般ノ教習ニシテ恰モ兵卒ニ於ケル教育ト云フカ如シ。兵卒ヲ教育スルニハ下上官及將校ノ任ニシテ巡査ヲ教習スルハ署長ノ職タリ。兵卒ハ兵事ノ外ニ普通ノ教育ヲ授ク故ニ教育ト云フテ適當スレトモ巡査ハ普通ノ教育ヲ授クル必要ナシ。故ニ單ニ職務ニ關スル教習ヲ爲スノミ教習ノ方法ニ就テハ茲ニ之ヲ詳論スヘキ場合ニアラスト雖如何ナル事柄ヲ以テ巡査ノ教習トナスヤヲ疑フ人モアルヘシ因テ大要ヲ舉クレハ

- 一 法律命令ノ讀法及義解
- 二 警察官吏ノ心得
- 三 行政警察司法警察ノ差別
- 四 警察官吏ノ職權及權限
- 五 執行警察
- 六 注意警察
- 七 服務及責任
- 八 警察志想ノ發達

九 探偵檢証ノ報告文

十 探偵捜査ノ要点

右ノ如キ項目ニ就キ或ハ之ヲ解釈シ或ハ之ヲ教授シ訓導スル等是レ皆教習ナラサルハナシ。而シテ之ヲ誤テ訓授ノ項ニ入ル、モノアリ訓授ハ教習ト其質ヲ異ニス。是ヲ以テ彼レト混同スルハ適々誤レルノミ而シテ此教習ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ爲スヘキ乎素ヨリ之レカ定則ハナケレトモ重ニ訓授ノ際其時間ヲ繰合セテ之ヲ爲サハ不都合ナカラシ

職ニ巡閲ニ當ルノ官吏ハ勿論署長タル人々ニ在テモ宜シク本項ノ意義ヲ了解シテ巡査ノ教習ヲ怠ルコトナク査閲ノ際ニ於テ不都合ノコトナク好成绩ヲ擧クルコトニ注意セラルヘシ。巡閲官ハ亦巡査教習所ノ受業生ニ就テ査閲スルハ当然ナレトモ本項ノ教習トハ單ニ教習所ニ就テノミ掲出シタルモノト誤ルコトナク一般ノ巡査ニ於ケル教習ノ方法及其實況成績等ニ就テモ亦視察アランコトヲ要ス

訓授ハ教習ト其義異ナリ其義ノ異ナルニモ拘ハラス之ヲ同一視シ訓授ノ名ノ下ニ法律規則ノ講義ヲ爲シ若クハ題ヲ設ケテ之ヲ討論論議ニ付シ訓授者ハ会頭ノ位置ニ居テ之レカ決ヲ採ル等ノ所爲ヲ行フ者アリ而シテ何事ヲ訓授セシカト問ハ、終ニ一ノ訓授ナクシテ之ヲ訓授セリト云フニ過キス何ソ其ノ誤レルノ甚シキヤ

講義會讀ハ一ノ教習ニシテ訓授ニハアラス。尤モ各地方ニ於テ訓授ノ日ヲ定メタル中ニ訓授日程ヲ定メ擊劍ヲ始トシテ刑法治罪法其他重ナル法律規則ノ名目ヲ掲出シタルアリ。是レ或ハ擲ル所アツテ然ルヤ否ヲ知ラスト雖内務省訓令ヲ以テ定メラレタル公然タル巡閲規則ニ於テ教習及訓授ト掲ケタル所ニ由テ見レハ教習ハ則教習ニシテ訓授ハ則訓授ナリ。之ヲ混同シ得サルハ既ニ明了ナル所ニシテ何ソ刑法治罪法等ノ講義ヲ爲スヲ以テ訓授ノ主要トスルヲ得ンヤ

訓授ハ巡査ノ職務ヲ行フニ方リ其準拠スヘキ事項ヲ訓令指揮スルノ旨意ニシテ實事實物ニ付テ之ニ訓導指授スルナリ例セハ

人相書ノ交付

盜難品触ノ通知

戸口調査

道路橋梁破損所ノ視察

乞丐放逐

馬車人力車ニ対スル注意

某規則實施上ノ景況視察

風俗取締ニ關スル注意

衛生警察上ノ注意

田野警察上ノ注意

旅舎取締ニ關スル注意

行旅保安ニ關スル注意

等ノ如キ事柄ニ付キ其日ニ於テ行フヘキ第一主要ナル事項ヲ訓授シ其成績ヲ報告セシムルナリ。故ニ甲ノ日ニ於テハ巡査二人相書ヲ示シテ之ニ附随スル要件ヲ訓授シ且戸口調査、旅舎検査、風俗ニ關スル取締ヲ爲スヘキコトヲ命ス而シテ各項コトニ注意スヘキ事柄ヲ訓授スルナリ。又乙ノ日ニ於テハ乞丐者ヲ放逐スルコト、衛生警察ニ關スル注意視察ノコト、道路若クハ橋梁ノ破損危険ノ有無ヲ視察スルコト等ヲ訓授シ、丙ノ日ニ於テハ何々ノ規則ハ如何ナル有様ニ實施サレ得ルカ人民ニ於テ此ノ規則ヲ會得シ居ルカ否及行旅人ハ其県下ニ於テ不利ナル所爲ヲ受ケハセヌカ車夫馬丁ノ爲メニ凌辱屈窘ヲ被ムリハセヌカ等ヲ視察スルコトヲ訓授スルカ如キ毎日其日當番ノ巡査ニ普通視察ノ外特ニ視察シテ有無トモ之ヲ報告セシムル事柄ヲ訓授スルヲ要ス

其他執行スヘキ事柄ニ対シ其方法順序ヲ指示シ又ハ其巡査ノ報告ニ対シ可否得失ヲ擧ケ或ハ注意ノ足ラサル所ヲ指摘シ之ヲ訓導スル等ノ事コソ訓授ノ精神ニシテ巡査ニ教育ヲ與フルヲ以テ訓授トスルハ誤レリト謂ツヘシ

茲ニ注意ヲ請フコトアリ他ニアラス上來述ヘタル如クニスレハ新發ノ法律規則ハ巡査ニ訓授スルヲ得ス從テ巡

查ハ其疑ヲ闕クコトヲ得ス執行上ニ不都合ヲ生セント難スル人アランソハ尤ノ次第ニシテ是レ注意ヲ請フ所以ナリ勿論訓授ノ席ニ於テ教習スルヲ不可ナリトハ云ハス且新発ノ法律規則ニ對シ其意義ヲ解説シ因テ以テ執行上必要ナル事件ヲ訓授スルハ毫モ妨ケアルコトナク至極便利ナル方法ナリト思考ス

多クノ地方ニ於テハ訓授ノ材料ナク不得巳書籍ヲ繕キ逐條之ヲ講義シ若クハ問題ヲ設ケテ巡查ヲシテ交々之レニ答ヘシメ其誤謬アル点ヲ指摘シテ解説シ以テ一日ノ訓授ニ充ツルモノアリト聞ク。斯ノ如キ地方ハ教育ト指導トヲ混同シタルモノニシテ本則ノ精神ヲ誤マレルヲ免レス

巡閱官諸君ハ警察署若クハ分署ニ臨ミ順次査閲ヲ行ヒ本則第十二項ニ至リ教習及訓授ノ狀況ヲ視察スルニ方リ上來叙述シタル事項ヲ参考シ署長ニ於テ意義ヲ誤リ教習ト訓授トヲ混同セサルヤ教習トハ唯教習所受業生ニ限ルコトニテ在勤巡查ニハ關係ナシトノ意念アリテ其部下ノ巡查ニ向テ教習ヲ与ヘサルノ状アルヤ否等ニ注意シ署長ニ就キ其所思ヲ叩キ斯クノ如キ誤解ナカラシムコトヲ訓令セラレンコトヲ希望ス

### 十三 會計経理及被服給與

會計ノ事タル其法例ハ繁雜ニシテ警察官吏タルモノニハ其事務ヲ執ルニ適セサルノ感アリ 殊ニ會計法ナル錯雜繁冗ナル條例アリテ實際之レニ當ルモノニ於テスラ時ニ或ハ誤謬ヲ免レス況ヤ巡閱官ナル警部長ニ於テ之レカ整理ノ如何ヲ査閲スルハ頗ル困難ナルヘシ

客年十月地方官官制ノ改正ニ依リ警部長ハ警察費ニ關スル會計上ノ事務ヲ削除セラレタレハ巡閱官トシテ臨署シタル場合ニ於テモ無論會計上ノ事務ハ査閲スルヲ要セス之ヲ巡閱外ニ置クモ差支ヘナキヤニ考フル人モアランカナレトモ決シテ去ル訳ニアラス警部長トシテ警察部ニ在テ事務ヲ執ル上ニ就テハ官制ニ於テ削ラレ又主計課ヲ廢スル等ノ爲メ之レカ責務ナシト雖巡閱官トシテ部下ヲ巡視スルニ於テハ其資格既ニ異ナリテ巡閱官タルノ職務ハ之ヲ行ハサルヲ得ス。故ニ警察巡閱規則ノ改正ナキ以上ハ該規則第三條ニ列記サレタル項目ノ事務ハ仔細ニ之ヲ査閲スヘキモノトス且又警部長ノ職掌上會計ノ事務ニ關スルコトナシトハ云ヘトモ警察署分署ニ於ケル金銭出

納ノ監督ヲ欠クヘキモノニアラス。或ハ誤テ警察署分署ニ於ケル會計ニ關スル事務ノ監督ハ警部長ノ關スル所ニアラストスル向キモアルヘキカ是レ誤謬ノ見解ト云ハサルヲ得ス其身直接ノ責務ハナクトモ部下ノ吏員カ執行スル職務ニ付テ之カ監督ヲ欠キ其當否ヲ檢舉セサルカ如キ理由アラシヤ況ンヤ巡閲官ニ於テオヤ

會計上ノ整否ハ第一帳簿ノ整理スルトセサルトニ就テ之ヲ見第二金錢遣ヒ払ヒノ上ニ就テ其正否ヲ知り第三規定以外ニ支出セシモノナキヤ否ヲ檢シ第四會計事務ニ專任スル者ハ誰ナルヤ公務上責任ナキ雇ヲ以テ之レニ當ラシムルコトナキヤ否簿記ノ記載方、物品購入ノ方法、仕払科目ノ錯誤、正當受取証書ノ保存方等を成規ニ照ラシテ檢閲シテ以テ監査ノ實ヲ擧ケ會計上ニ免レサル不都合ヲ豫防スヘシ

違警罪科料金ノ收入保管、人力車馬車營業ノ身元保證（此保證金徴収ハ今ハ大概之ヲ廢シタレトモ）留置人ノ領置金品並遺失物拾得金品ノ保管等ニ付テハ随分是迄不体裁不都合極マル所業ヲ爲シタルモノアリ必竟經理ノ不始末ヨリ生スルコトナレハ平生是レカ取締ヲ嚴ニシ担任者ヲシテ自由勝手ニ出納ヲ爲サシメ若クハ帳簿ノ記載計算等ヲ委任スルカ如キ都テノ掌務ヲ打ち委スコトヲ爲サ、ル様署長ニ於テ監督スルヲ要スルハ勿論ナレトモ會計法施行以前ニ在テハ署長ノ責任充分ナラス表面上ノミ責任ニ當レトモ唯盲印ヲ押捺スルノミニシテ自ラ帳簿ヲ緋キ十露盤ヲ採テ稽算スルカ如キ事ヲ行フタルコトナキニ依リ自然不都合ヲ醸生セシモノナラン今ハ中々是等ノコト嚴重ナル手續ヲ定メアルヲ以テ従前ノ如ク容易ニ不都合モ生スマシクト思ハルレトモ決シテ油断スヘカラサル要件トセサルヘカラス

遺失物拾得金品ノ保管方ハ尤モ順序ヲ能クセサレハ不可ナルコトハ實歷上既ニ知ル所ナリ。其拾得金ハ保管金ノ規則ニ從ヒ一旦国庫ニ保管シ置クコトニ成レルヲ以テ今日ニ於テハ唯手数ノミニテ紛失スルカ如キ不都合ハ生セサルヘキモ物品ニ至テ唯之ヲ領置シ置クマテノ事ユヘ錯乱紛失等随分免レサル所ナルヘシ。宜シク之レカ取扱上ヲ精密ニ監督シ其領置ノ方法ヲ調査シ苟モ不正ノ分子ヲ包含シ居ルコトアラハ容赦ナク之ヲ詰責シテ其非理ヲ匡正シ他日ノ大害ヲ招カサルコトニ注意アリタシ

物品ノ整理モ亦會計事務ノ一ナリ。警察署分署ニ備付ケタル物品ニシテ破損汚穢ノ器具門標々燈窓掛机掛寢台

覺莞座ヲ初メトシ土瓶茶碗等ノ末ニ至ルマテ適宜監査ヲ遂クルヲ要ス又留置場ニ備付ケタル物品ハ殊ニ注意ヲ欠クヘカラサルモノトス

留置場ニ欠クヘカラサル備付物品ハ載セテ監獄則施行細則第四章ニアリ曰

一 單衣 一 衾 一 綿入 一 襦袢 一 蒲団 一 蚊帳 一 筵 一 木枕  
 一 帶(長三尺) 一 禪(長三尺) 一 手巾 一 履物

右ノ物品ニシテ其染色ニ區別アリ然レトモ刑事被告人ヲ長ク留置スルコトハ甚タ稀ナルヲ以テ重モニ無役ノ囚人ニ對スルモノトシテ可ナリ此物品ハ成規ノ物品ナルヲ以テ其整備シタルヤ否濺滌修補ノ届キ居ルヤ否ヲ監査スルハ特ニ必要ナリ然ルニ茲ニ是等ノ事柄ヲ掲出スルヲ以テ見當違ノ論トスル人アリ 事監獄ノ部ニ属スルヲ以テ斯ク云フハ尤モ無理ナラネトモ警察ノ留置場トテ監獄ノ一タルコトハ監獄則第一條ニ明記スル所ナレハ警察ノ留置場ニ附随スル總テノ器具物品即チ監獄費ヲ以テ購入シタルモノト雖苟モ警察ニ於テ管理スル以上ハ之ヲ監査セシテ可ナランヤ故ニ之レカ注意ヲ喚起セン爲メ之ヲ叙述ス

被服ノ給與方ハ明治十年十月内務省乙第九十三号達 警部巡查給與規則第九條乃至第十二條巡查被服器具支給ノ部ニ照ラシ尚ホ府県ニ於テ定メタル手續等ニ準拠シ其順序期限等ニ錯誤ナキヤ否實用ニ適セサル器具ノ給與ヲ爲シタルモノナキヤ否或ハ物品器具ノ給與不足ハナキヤ否等ヲ査閱スルヲ要ス

物品會計規則ニ拠リ巡查ノ被服其他ノ器具ヲ取扱フニ及ハサルハ論ヲ待タスト雖其受授ノ順序手續等ニ關シテハ可成物品會計規則ニ準拠セシムルハ敢テ不都合ト云フヘカラス

#### 十四 警察署分署派出所及留置場ノ構造裝置

警察署分署ノ構造ハ古今其趣ヲ異ニシ大ニ改良シタルモノアリ且此構造方ハ總テ其部長ノ承認ヲ經タルモノナレハ之ヲ實見セストモ其便否ヲ了知シ居ルモノニ付殊ニ構造ヲ査閱スル要ハナカルヘシ且一度之ヲ確定シテ作造セシモノハ數年間變更ヲ生スル筈ナシ然ハ則何ノ爲メ此規則ニ掲ケタルヤ解者案スルニ此規則ニ掲出シタルモノ

ハ其変更ノ有無ヲ檢視スル爲メニアラスシテ其模様ヲ視察スル爲メナラント思考ス。此項ニ掲出シタル数所ノ構造及装置ハ實ニ警務上重要ナル部分ニ属スルモノナレハ巡閲官ニ於テ之レカ視察ヲ欠クハ其職眼ヲ瞎スルト同様ノ状ヲ呈スルナレハ本則ハ欠キ得サルナリ

警察署及分署ノ構造方ニ付テハ多少ノ意見アリ且其筋ニ於テ取調ヘラレタル方法モ伝承シタレトモ爰ニ顯出スヘキ筋ニアラサルヲ以テ省キヌ

警察署分署ノ装置ハ率直ナルヲ要ス之ヲ美麗ニスルモ事務ノ敏達ヲ助クルニアラス粗雜ナレハトテ澁滞スルノ理ナシ派出所ニ於ケルモ亦然リ唯以テ用弁ニ支障ナケレハ足レリトスヘシ署長等ニ於テ華美ノ癖アル人ハ動モスレハ修飾セント欲スルヲ以テ巡閲官ニ於テ着目注意ヲ怠ラス若シ分ニ過クルノ装置ヲ爲スモノアルヲ発見セハ宜シク改修セシムルコトヲ憚ルコトナカルヘシ

#### 十五 火災消防及器具ノ使用

火災消防ノコトハ警務ノ主要ニ属スル一事タリ然レトモ實地消防ニ従事スル者ハ消防夫タラサルヘカラス此項ニ於テ查閲ヲ要スヘキ要領ハ時ニ臨ンテ消防夫等ノ如何ニ働クカヲ見ルニ在リ

消防組編成ノ事ハ地方自治團體即チ市若クハ町村ニ於テ之ヲ掌ルヲ以テ警察職務ニ關シテハ之レニ干與スヘキニアラスト雖既ニ編成シタル消防夫ヲ監督シ及之ヲ指揮スルハ尚ホ警察官ノ職權ニ属セサルヲ得サル事情アリ勿論市長若クハ町村長ト雖之レカ監督指揮ノ權ナキニアラス其市町村ニ長トナリ公共ノ事務ヲ取扱フ以上ハ其部下ノ監督指揮ヲ他人ニ委任スヘキニアラサルヤ明ナレトモ實地火災ノ場ニ臨ンテ紅烟飛散ノ庭ニ入り消防夫ヲ指揮スルカ如キ事務ハ市町村長ニ適セス当然ノ職掌アル警察官ニ委スル方遙ニ得策ナルヘキナリ故ニ巡閲規則ニ於テ之レカ查閲ヲナサシムルナリ

火災消防ニ必要ナル器具ノ備否及其使用法ノ熟否ヲ檢スルモ亦警務上ニ欠クヘカラサル事項トス。一般地方ノ狀況ヲ察スルニ消防器具ノ備ハラサルノ通患アリテ自治團體ノ欠点タルニ心付カサルモノ少ナシトセス器具既ニ

備ハラス如何ゾ使用法ノ熟否ヲ檢スルヲ得ン巡閱官ハ宜シク器具ノ整備ヲ奨励シ其既ニ備ハルモノハ使用法ノ熟否ヲ檢スヘシ

十六 警察上緊要ノ器具

警察上緊要ナル器具トハ如何ナル器具物品ヲ指スカトハ巡閱規則ノ表出シタル當時疑團ヲ抱キタルモノアリ今日ト雖地方ゴトニ区々ノ見解ヲナシ或ハ此項目ヲ甚冷淡ニ看過スルモノナキニアラス然レトモ茲ニ此目ヲ掲ケテ査閲ヲ爲サシムルモノハ決シテ謂ハレナクシテ可ナランヤ蓋緊要ナル器具ト掲ケタルヲ以テ普通必要ナル器具ノ外ニ尚ホ緊要ナル器具トスヘキ器具アリヤヲ疑フモノアリテ種々ノ物品ニ就テ思想ヲ捏造シ斯々ノ物品コソ緊要ノ器具ナランカナドト思案ヲ凝ラスヨリ却テ緊要ノ器具ノ備ハラサルヲ發見シ得ス或ハ又警察ノ事務ヲ執行スル上ニ於テハ一日モ緊要ノ器具ヲ缺キ得ス何ソ故ラニ緊要ノ備否ヲ檢スルヲ要センヤト斷案ヲ下シ敢テ之ニ注意セサル等如何ニモ本旨ヲ失ヘルモノアリ因テ聊カ之ヲ辨セント欲ス

緊要ト云ヘハ實ニ重キ語ナリ故ニ疑團モ生シ又ハ其緊要ト稱スヘキ程ノ器具ナシト考ヘラル、モノアリ動モスレハ此ノ項ノ旨趣ヲ失ハンコトヲ恐ル。畢竟スルニ茲ニ緊要ノ器具ト掲出サレタルハ巡閱官ノ目ヲ充分ニ働カシ注意ノ周到ナランコトヲ期スルニ在ルナリ今試ニ緊要ナル器具トモ稱スヘキモノヲ舉クレハ大略左ノ如キモノナラン

- 一 手錠捕繩ノ類
- 一 非常報知ニ用ユル半鐘板木ノ類
- 一 病人運搬台ノ類
- 一 火災ノ際身体器財ヲ救助運搬スルノ用ニ供スル器械ノ類
- 一 河海ニ沿フタル場所ニ在テハ浮袋ノ類
- 一 非常用提灯旗ノ類



一 事變報知機ノ類

一 電信電話機ノ類

其他警察事務執行上必要ナル器具ノ類

勿論緊要ナル器具ト云フ以上ハ署内ニ於ケル椅子机卓等ノ如キ物品ヲ指シタルニアラサルナリ外部ニ於テ缺クヘカラサル器具ナルコトハ明了ナル事ニシテ何人ト雖那ノ疑アラサルヘシ水上警察署ニ於テ小蒸汽船ボート通船等ヲ備ヘ置クモ亦緊要ナル器具トスヘキナリ

十七 集会ニ關スル取締

集会トハ政談演説会及學術演説会ハ勿論何事ニ寄ラス社交的ノ集会ニアラサル總テノ集会ヲ稱シタルナリ其中ニ就テ政談演説会ノ如キハ特ニ注意シテ之レカ取締ヲナスヘキモノトス。演説会ノ外政社及政黨員ノ集会ノ如キ議員選舉ノ場合ノ如キハ皆集会ノ取締ニ關セサルハナシ

集会取締ノ事ハ高等警察ノ範圍内ニ屬スルモノ多シ而シテ事稍機密ニ涉ルノ嫌アリ故ニ此項ニ於テ之ヲ詳述スルヲ得ス。唯望ラクハ警部長ニ於テ巡閲ニ從事セラル、ノ際各署ニ於テ取扱ヒタル事件並其狀況署長ノ注意ノ粗密取締方ノ寬嚴等ヲ視察シ大約府縣内同一ノ方法ヲ用フルコトニ着眼アランコトヲ

十八 衛生警察殊ニ傳染病撲滅ノ方法及衛生ニ關スル諸般ノ取締

衛生警察ト云フテ特殊ノ警察法アルニアラス多方多種ノ警察事務上事ノ衛生ニ屬スルモノヲ稱シテ衛生警察トハ名ケシナリ。斯ク廣漠ナル名称ニ就テ查閱スルコトハ随分困難ナルヲ以テ殊ニ傳染病撲滅ノ方法トヲ受ケテ廣漠ナル衛生警察ニ就テ悉ク之ヲ查閱スルニアラス衛生警察上殊ニ傳染病撲滅ノ方法ニ就テ查閱スヘキコトヲ示ス。傳染病トハ普通ニ稱道スル所ノ六種傳染病ヲ云フ。近來學者ノ論定スル所ニ依レハ傳染病ノ種類豈六七ノモノニ止ランヤ黴毒癩病肺結核ノ如キハ最著名ナル傳染病ニシテ其他尚數多ノ疾病アレトモ本項ニ掲クルモノハ重モ

二六種傳染病即チ明治十三年七月布告第三十四号傳染病予防規則ニ云フ所ノ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布埒利亞、發疹窒扶私及痘瘡ヲ称スルナリ故ニ巡閱官ニ於テ査閲ヲ遂クル場合ニ於テハ重モニ此ノ六種ノ傳染病ニ就テ査閲スヘキモノトス。而シテ其撲滅ノ方法ハ諸學者ノ説時々ノ發明等アリテ一定不変ノ方法ハ未タ確立セサレトモ先ツ第一ニ傳染病予防規則及明治十八年九月内務省甲第三十一号達ニ拠リ尚實地ノ狀況土地ノ模様等ニ因テ斟酌シ其地方ニ於テ講定セシ方法ヲ總括ス。規則ニ規定スル所ノ撲滅ノ方法ハ一般ニ用ヰ得ヘキ概括ノ方法ニ掲出スル迄ニシテ實地施行ノ場合ニ際シテ往々不行届ノ事アリ又ハ不注意ニ依テ十分ノ消毒法ヲ缺略スル等随分多数ノ欠点アルヲ免レス

凡ソ傳染病ト称スルモノ其種類甚多シト雖流行性傳染病ノ一旦萌芽ヲ發動シテ蔓延ノ勢ヲ助ケ其熾ナルニ迫ンテハ救済治療ノ法モ治ク及ヒ難ク竟ニ猖獗ヲ縱ニシ慘酷ヲ極ムルニ至ル。然ルニ予防法ヲ守ルコト嚴ナレハ其病害ヲ未熾ニ防遏スヘク消毒法ヲ行フコト密ナレハ各種ノ病毒ヲ撲滅消燼スルヲ得ヘシ。消毒法ハ即チ予防法ノ一種ニシテ其効驗殊ニ確實ナルモノナリ其予防ノ方法モ六種傳染病各種ノ病症ニ從ヒ其趣ヲ異ニスト雖病毒ノ萌動及蔓延ノ基因ヲ除却スヘキ清潔法、人体中有スル所ノ感受性ヲ排スヘキ摂生法、病毒伝播ノ媒介ヲ隔離スヘキ隔離法、傳染病毒ヲ消滅スヘキ消毒法ヲ行フヲ以テ傳染病予防病毒撲滅ノ方法トナスヘキナリ。而シテ巡閱官ハ清潔法、摂生法、隔離法、消毒法ノ施行ニ關スル方法及心得等ニ就キ査閲シ兼テ欠点ニ對シテハ相當ノ訓戒ヲ下スヘシ

衛生ニ關スル諸般ノ取締トハ實ニ及ブ所広濶ニシテ一々此ニ揭示スルコト能ハサルナリ。然レトモ其大要ヲ掲クレハ溝渠厠圍ノ浚渫汲採、井戸飲料水ノ選定、店頭販売ノ飲食物、腐敗未熟ノ果實、販売、有毒顔料ノ使用ヲ禁遏スルコト、未痘児ニ種痘ヲ勸諭スルコト、種痘規則ニ依リ出生後滿一年以内ニ種痘シ不善感ノ者ニハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ爲サシメ善感後ト雖五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後尚五年乃至七年ニ三種ヲ爲サシムヘシ

右ノ外清潔法施行、飲料水ノ清淨ヲ保護スルコト、塵芥ノ堆積ヲ除去スルコト等ハ衛生ニ關スル取締ノ要領ナリ。衛生ノ事タル之ヲ注意以外ニ抛擲スレハトテ格別著シキ害毒ナク又小心慎重ニ之ヲ行ヘハトテ特殊ノ効驗アリ。

ルニアラザルヲ以テ往々机上ノ空談トシテ顧ザルモノ多シ然レドモ衛生ナル事項ハ一人一個ノ疾病ヲ治療スルカ如キ局部ノ事ニアラスシテ事皆公衆ノ健康ニ關スルモノナリ。故ニ一人ノ之ヲ欠クアレハ終ニ数人ニ及ホシ延テ公衆ノ健康ヲ害スルニ至ルモノナレハ此取締ヲ緩慢ニ付スルトキハ不測ノ患害ヲ流スコトアリ。彼ノ地方病ナルモノハ風土ノ關係ニ因テ發スル疾病ナレドモ其根本ハ衛生法ノ普及セザルニ依ラスンハアラサルナリ各地方ニ於テハ衛生上ニ屬スル各種ノ規則ヲ設ケテ之ガ取締ヲ忽カセニセスト雖執行官ニ於テ之ヲ緩慢ニ付スルトキハ規則モ死法ニ屬シテ其効ヲ収ムルコト能ハサルナリ巡閲官其レ爰ニ鑑ミテ實地取締ノ狀況ヲ監査セラルヘシ

#### 十九 交通取締即チ道路及舟車ノ狀況等

交通取締ノ警察上忽セニスヘカラサルハ言ヲ待タス警察其レ自身ハ勿論旅客ノ便否ニ關シテ實ニ容易ナラサルモノアリ道路破損シテ往来スルヲ得サルカ警察上緩急アルモノ之ニ應スルコト能ハス其他舟車ノ便ヲ欠クヲ以テ貨物通セス爲メニ日常需用ノ物品ヲ欠乏シ物価ヲ騰貴シ有無相通スルノ途ヲ断ツ道路修築ノコト素ヨリ警察ノ預リ知ル所ニアラサレトモ其破損等ニ於テ之ヲ修築事務担任者ニ通スルハ警察官吏ノ任務ナリトス。又道路ニシテ危険ノ虞ヲ生シタルトキ通行者ニ注意ヲ与ヘ若クハ通行ヲ禁止スルカ如キハ皆警察ノ事務ナリ。此道路中ニハ橋梁ヲモ包含ス元來道路橋梁及舟車トアルヘキヲ單ニ道路トセシハ橋梁モ亦道路ノ部分ナレハ道路トアレハトテ橋梁ヲ除クトノ意ニアラサルコトハ疑モナキ事實ナルヲ以テ橋梁ノ文字ヲ省キシナラン

舟車ノ取締ハ旅客ノ便否及安寧ニ關スル所甚大ナルモノアリ。彼ノ小形汽船取締ノ如キハ内海及九州諸縣ニ於テ最必要アルモノニシテ汽船ノ発着コトニ之ヲ検査スルハ勿論旅客ノ出入制限數ニ超過スル乗客ノ有無物貨積込數量ノ噸數ニ過重スルコトナキヤ等ニ注意シ安全弁ノ封印ヲ檢シ航海中ノ事故有無ヲ尋ネ旅客ノ昇降ニ際シ保護ヲ与フル等ノ事ヲ行ヒ又淀川富士川等ノ如キ川舟通行ノ場所ニ於テハ水流ニ注意シ乗載ノ旅客物貨ノ數量ヲ制限スル等及渡船取締ノ事ニ対スル實際執行ノ狀況ヲ視察スルコト

車、舟車ト連屬シタル語ヲ用キアルヲ以テ此車ハ人力車馬車ヲ指称セシコトハ明ナリ總テ交通上必要ナル物件

ハ荷車ノ如キヲ含蓄セサルナリ。之二反シ馬即チ車ノ通セサル場所ニ於テ旅客ニ供スル馬及駕籠ノ如キモノハ猶此項ニ於テ查閱ヲ遂クルヲ要ス

人力車ノ狀況ハ一般ニ弊風ヲ除却シ得サル所ニシテ旅人ニ対シ最直接ニ最甚シク關係ヲ有スルヲ以テ此取締執行上ニ付テハ實ニ忽諸ニスルヲ得サルナリ。車体検査服装視察ヲ初メ取締規則ニ明文ハアレトモ實地執行ノ場合ニ於テハ往々寛假シ易キ弊アルハ一般ニ免レサル所ナリ故ニ巡閱官ハ巡閱ノ際躬親カラ實踐スル所ノ境遇ニ於テ視察ヲ遂ケ之ヲ執行官ノ執行セル跡ニ比較シ適否ヲ判定シテ查閱ノ標準ヲ採ルニ於テ思半ニ過クルモノアラン

馬車即チ乗合馬車ハ危険多シ其多キ所以ハ馬ノ羸弱車体脆弱ナルト附屬器具ノ鞏固ナラサルニ坐スルヲ以テ之ヲ改メ適當ナルモノヲ用フルトキハ馬車ノ危険ハ消失センコト疑ナキナリ。然レトモ斯ク適當ナル改良ヲ施コスニハ事甚至難ニシテ唯取締規則ニ一任スヘキニアラス。馬ノ事車体ノ構造屬具ノ善否等ヲ鑑別スルノ識アリテ然ル後之カ検査ニ従事スルニアラサレハ到底警察力ヲ以テ矯正スルコトハ難カルヘシ唯巡閱官ハ如何ナル方法ヲ用キテ取締ヲ爲シ居ルカ規則面ト實際トハ如何ナル牴牾アルカ其狀況ヲ視察シ執行官ノ寛假怠慢ノ行爲サヘナケレハ查閱ノ能事ハ足レリトシテ可ナリ

馬駕籠ニ至テハ別ニ取締規則ノ設ケアルモノ少ナシ然レトモ旅客ノ安寧ヲ保護スル点ニ至テハ車ト同一ノ關係ヲ有ス宜シク相當ノ視察ヲ遂ケラレテ可ナルヘシ

## 二十 衛生風俗及公安ニ關スル營業取締殊ニ料理店貸座敷宿屋古物商質屋及危険物売買商等

此項ノ管スル所ハ警察上最大緊要ノ關係ヲ有シ所謂營業警察ナルモノニシテ執行務上殊ニ注意ヲ要スル所ノモノタリ

本項冒頭ニ衛生ノ目アリ前ノ十八項ト同日ナルカ如クニ見ユレトモ彼是自ラ相異ナル所アリ即チ彼ハ衛生警察ニシテ公衆衛生ニ屬スル一般ノ注意ニ關シ是ハ營業上衛生ニ關スルモノ料理店飲食店ノ如キ飲食物ヲ販売スル營業者ノ上ニ付テ注意スルコトヲ主管スルナリ

風俗警察トハ密売淫賭博富籤ノ如キモノヲ取締ルヲ謂フ。其風俗ニ關スル營業トハ貸座敷娼妓芸妓酌婦及密売淫ヲ媒合容止ヲ爲スノ虞アル料理屋飲食店等皆此目ノ包含スル所ナリ

公安ニ關スル營業トハ宿屋古物商質屋危險物売買商ノ如キ此目ニ入ル。元來公安ナル語ハ其範圍甚廣ク警察上ノ取締ニ於テハ公安即チ公衆ノ安寧ヲ保護スルコトハ第一ノ主眼ニシテ苟モ公安保護ノコトヲ怠レハ是レ警察ナキナリ。斯ク其範圍ノ廣フシテ且緊要ナルモノハ單ニ公安ニ關スル營業トノミ掲出スルニ於テハ巡閲官ノ查閲ニ際シ区々ナランコトヲ慮リ特查閱スヘキ日ヲ限り宿屋以下數種トセリ。斯ク數種ニテハ未タ以テ公安ニ關スル營業者ヲ取締ルコトハ十分ナリトハ謂フヘカラサレトモ查閲上紛錯ヲ避クルニハ此重モナルモノヲ掲出サレシハ至當ノコト、謂フヘシ

巡閲官ハ此項ヲ查閲スルニ當テ如何ナル方法ヲ用キ如何ナル事項ニ注目スルヤ思フニ真正ナル查閲ハ最早此項ニ及ハス軽々ニ通過スルコトナキヲ保セス。何トナレハ此種ニ屬スル營業取締ニ付テハ規則ノ細密ナルアリ取締ノ方法モ平常既ニ之ヲ攻究シ復タ遺算ナキ迄ニ能ク整備シアルヲ以テ殊更ニ查閲上之ヲ鄭重ニスル必要モアラサルヘシトノ感想ヨリ自然慎重ヲ欠クニ至レハナリ然レトモ此項ハ本條ノ圧巻ニシテ多クノ警察取締上實ニ一日モ欠クヘカラサルモノニシテ而カモ輕忽ニ流レ易キ事物ナレハ查閲ハ一層慎重ヲ加フルヲ要ス

危險物商トハ重モニ火藥類營業者ニシテ烟火販賣人銃砲營業者之ニ次ク。火藥類營業者取締ハ嚴重ナル規則ハアレトモ往々其正鵠ヲ誤ルモノアリ譬ヘハ官廳ノ名義アルモノハ規則ノ制限ヲ越ユルモ疑フコトナク売渡スカ如キ是レナリ。總テ火藥劇發火藥ハ之ヲ小ニシテ一身ノ危害ヲ招キ之ヲ大ニシテハ國家ノ平和ニ關スルコトアリ故ニ販売ノ手續ハ規則第十條ニ之ヲ明記セシニモ拘ハラズ營業者ニ於テ之ヲ誤ルモノアリ宜シク此ニ注意シテ查閲ノ功ヲ遂ケラル、コトヲ望ム

巡閲ハ規則ノ實施ノ狀況ヲ視察シ其執行ノ狀況ヲ監査シ寬嚴急弛ノ適度ヲ察シ法理ニ偏セス實際ニ傾カス其中ヲ得テ目的ヲ舉クルヲ期スルニ在リ。故ニ皮相的監察ヲ下スコトナク真面目ノ查閲ヲ行フテ以テ警察ノ進歩ヲ謀リ巡閲規則ヲ設ケラレ本條ニ掲出セシ二十項ノ種目ニ就キ完全ナル實効ヲ得ルコトヲ努メ本則制定ノ旨意ニ副ハ

ンコトヲ主眼トセラルヘキナリ

第四條 巡閲官ハ警察官吏ノ風儀動作其他人民ニ対スル關係若クハ過度ナル浪費ヲナスヤヲ視察スルモノトス

此條ハ巡閲官ニ向テ重要ナル任務ヲ負ハセタルモノナリ。警部長ハ警察部長ノ椅子ニ倚リ各警察署長分署長ヲ指揮監督シ日々其机上ニ集リ來ル所ノ報告其他ノ書類ニ依リ部下ノ官吏即チ警部巡查ノ行爲ヲ視察シ尚直接間接ニ吏員ノ風紀ヲ監査スル等ノ事ヲ行フハ勿論ノ職務ナリ。故ニ本條所掲ノ事項ハ巡閲ヲ待タス常ニ視察ヲ遂クルハ言フ迄モナケレトモ此巡閲ノ際ニ於テ此視察ヲ特行シ其結果ヲ収ムルノ任務ヲ盡サシムルノ規定ヲ設ケラレシハ實ニ其當ヲ得タルモノト云フヘキナリ

警察官吏ノ風儀動作、警察官吏ト稱スルトキハ警部巡查ヲ總括スルコトハ喋々ヲ要セス其風儀ト云ヒ動作ト云フ如何ナル点ニ於テ視察スヘキヤ蓋此風儀ナル文字中ニハ一身ノ品行同僚間ノ交際ヨリ家族ノ風紀マテモ包括スルモノタラサルヘカラス故ニ警部巡查其者自身ニ属スル品行即チ醜行乱洒等及其家族ノ不取締ナル行爲アルヤ否交際上德義ニ悖ル等ノ行爲アルヤ否不義理ナル借財アルヤ否物品調度ヲ買ヒ其代価ヲ拂ハサル等ノコトナキヤ否米屋ノ拂家賃ノ拂等ニ停滞ナキヤ否ノ如キ瑣末ノ事柄ニ至ルマテ苟モ其者ノ名譽ニ關スル事ハ風儀ノ善惡ニ依ルモノナレハ爲シ得ヘキ丈ケ微細ニ浸入スルヲ要ス。其動作トハ猶様子ト云フカ如キモノニシテ警察官吏ノ舉動即チ公務上下私事トニ關ハラス全般ノ行爲ニ顯ハル、事態ヲ云フ。此動作ニ因テ其者ノ性行ヲ推知スルヲ得ヘケレハ之ヲ視察スルハ頗ル緊要ナリ

人民ニ対スル關係トハ漠平タル問題ナリ然レトモ爰ニ掲ケラレタルモノハ受持区内ノ人民ト巡查トノ關係即チ間柄ヲ指稱シタルモノナリ尤モ署長又ハ次席警部巡查部長内勤巡查ノ如キ受持区ナキ者ニ対スル關係モ含蓄セルヲ以テ全ク受持巡查ニ限ルニモアラス因テ茲ニハ部下ノ人民ト汎稱スヘシ扱部下ノ人民トノ關係ハ平滑ニシテ好ク調和シ親疎ニ因テ事ヲ左右ニセス相狎昵セス稜角ヲ生シテ相反日スルコトナク威嚴ヲ擅ニシテ人民ヲ蔑視スル

等ノ行爲ナク又ハ往來飲食私事ヲ以テ公事ヲ枉クルカ如キ状態ニ陥キラス郷党閭里ニ於テ公正適理ノ行アリテ愛憎偏頗ノ評ナキ者ハ人民ニ対スル關係ハ善良ナルモノトシテ可ナリ。總テ本文ノ如ク何々ニ対スル關係トアル關係ハ實ニ汎汎ナル意義ヲ含蓄スルヲ以テ上來記述セシ所ノモノハ唯其標準ヲ説キシニ外ナラス

過度ナル浪費トハ重荷ヲ警部巡查ニ負担セシメタルナリ何トナレハ警部巡查ノ如キ少給者ニ於テ過度ナル浪費ト稱スヘキモノナルヲ以テナリ。然レトモ爰ニ示サレタル過度ナル浪費ハ多クアルモノヲ多ク費スノ謂ニアラスシテ其身分ニ相應シタル範圍ニ於ケル過度及浪費ナリ。故ニ十円ヲ得ルニモセヨ二十円ヲ得ルニモセヨ必要ナラサル用途ニ消費シテ囊中常ニ空シキハ所謂過度ノ浪費ト稱スヘキモノニシテ是等ノ徒ハ不時ノ事變ニ際会シテ身ヲ動カスコト能ハス屢時機ニ後ル、等ノ不都合ヲ生スルノ憂アリ是本條ヲ設ケテ巡閲官ニ視察ノ注意ヲ與ヘラレシ所以ナリ

#### 第五條 警察處務ニ關スル便否及ヒ警察官ノ處分ニ關スル意見ヲ巡閲官ニ申告スルモノアルトキハ之ヲ受理

##### 査閲スヘシ

本條ハ人民ニ言路ヲ開通スルノ便ヲ與ヘシモノニシテ警察巡閲規則アリテ始メテ人民ニ向テ警察上ノ意見ヲ吐露シ處務ノ便否ヲ訴フルコトヲ得セシメタルナリ。其警察官ノ處分トハ警部巡查ノ處分ニシテ彼レ官吏ニ於テ不法ノ處分アルカ若クハ冤枉ノ處置ヲ受ケタル者アルトキハ本則ニ定メタル範圍内ニ於テ人民ハ巡閲官ニ申告スルコトヲ得而シテ此申告ハ巡閲官ニ於テ廢棄スルコトヲ得ス必受理シテ其事實ヲ査閲スヘキモノトス。此場合ニ於テハ人民ハ原告ニシテ巡閲官ハ審判官ノ地位ニ立ツト同様ナリ。然リ而シテ四十余ノ府県ニシテ此條ヲ活用スルモノ幾何カアル。余ハ之ヲ詳ニセサレトモ九州ニ於ケル二三縣ノ外他ニ多ク之ヲ活用スルモノナカルヘシ之ヲ活用スル地方ニ於テハ巡閲官ノ發程ニ先立テ知事ヨリ管下ニ告示シ言路開通ノ途ヲ与フルナリ此告示ニ因テ人民ハ警察上意見ヲ開陳スルノ許可ヲ得巡閲官ハ人民ノ意見ヲ聞キ参考ノ利益ヲ得ルノ便アリ。官民相与ニ利益ヲ拱受スルヲ以テ各地方一般ニ言路開通ノ告示ヲ發セラレンコトヲ切望ニ堪ヘス

第六條 巡閲官巡閲ヲ終レハ其狀況ヲ盡シ意見ヲ付シ巡閲中ニ係ル日誌ヲ添ヘ警視總監又ハ知事ニ復命シ警

視總監又ハ知事ハ其概況ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

概況報告ノコトハ内務報告例ニ掲出セラレ巡閲ヲ終リシ日ヨリ三十日間ニ内務省ニ向ケ發送スヘキ規定ナリ故ニ地方ニ於テ特別ノ許可ヲ得ルニアラサレハ此期限ヨリ遅延スルヲ得サルモノトス巡閲ヲ終レハ巡閲中ノ日誌ヲ添ヘテ總監知事ニ復命シ總監知事ハ復命書ニ依リ巡閲官ノ意見及其他ノ事項並日誌中ノ要領ヲ撮摘シ巡閲ノ概況ヲ摘載シテ之ヲ内務大臣ニ報告スルノ規定ナリ。此概況書ニハ意見ヲ附記スルコトヲ得ルナリ。概況書ノ記載方ハ本則第三條ノ各項目ニ從ヒ順次ニ之ヲ掲クルヲ要ス其項目中查閲ニ入ラサルモノアルトキハ其事由ヲ記スルヲ要ス全体ヲ概括シテ報告シ若クハ簡略ナル二三ノ事項ヲ記載スルカ如キハ本條ノ精神ニアラサルヘシ。記者ノ考按ニテハ概況トアレトモ可成詳細ナルヲ可トス然レトモ複雑繁縟ナルハ不可ナリ又實地查閲ノ狀況及查閲ニ依テ發見シタル事項ヲ殊更ニ取捨増減シ紙面ノ体裁ヲ繕ヒ事實ヲ隱蔽シ若クハ捏造假設ノ事ヲ記載スヘカラス縱令不注意不行届ノ非難ヲ受クルモ事實ヲ有リノ儘概括シテ報告スルコソ内務大臣ニ於テ檢閲セラル、ノ旨趣ニ適スヘキナリ

附言 警察巡閲規則ノ註解ハ一昨廿二年十一月本会雜誌第一号ニ起リ月ヲ閱スルコト二十六月号ヲ遂フコト十  
八ニシテ爰ニ終リヲ告クルニ至レリ此長日月間ニ渉ル註解中或ハ粗漏杜選ノ跡ナキニアラス他日仍訂正スルノ時  
ヲ得テ其罪ヲ償ハント欲ス

完



## あとがき

### 「警察巡閲規則」について

#### (1) その背景

明治維新による国内国際関係の諸政策の急激な変革は国民各階層に大きな混乱を齎したことは周知のとおりである。新政府は早急な国内の治安の回復と民生の安定、諸外国との関係改善のため先進諸外国からの学術、文化及び諸制度の導入を図り、矢継ぎ早に新政策を実施したが、新政府への反感、新制度反対のための不平士族や農民による暴挙が各地で発生する等治安情勢は不安定であった（明治四年以降毎年十数件発生<sup>11</sup>太政類典第二編第四百十八卷）。

特に首都東京の治安は、当初藩兵・府兵がその維持に当たったが、統制を欠き十分に機能しなかったため、これを廃止してヨーロッパ方式のポリス制度を採用することとし、明治四年八月十七日鹿児島県に対し「兼テ被仰付置候東京警固卒至急可差出候事・東京警固トシテ卒千人可差出旨二月中達・」旨を達し、東京府典事川路利良が鹿児島に帰り士族を募集（同年九月鹿児島県も至急警固卒千人の募集通達）自ら面接人選し要員を上京させた（警視庁史稿及び内務省史によれば二千人）。太政官は同年十月二十三日東京府に対し、「今般府下取締トシテ邏卒三千人被備置候條……」と達し「諸費は大蔵省へ打ち合わせることを命じた。明治五年六大区に各総長が置かれ（川路は第五大区邏卒総長）・同年八月司法省に警保寮が置かれ邏卒を直轄とした。川路は警保助<sup>12</sup>大警視（明治五・八転属名簿）、同年九月から翌六年九月まで警察制度研究のため欧州に出張。帰国後各国の警察制度を参考とし、司法警察と行政警察の分離・内務省の設置その他十項目に亘る警察制度確立に関する「建議草案」を政府に提出した。

明治六年十一月内務省設置（内務卿大久保利通）・明治七年一月内務省職制及事務章程（仮）（明・八・十一

公布) 警保寮を内務省に移管・警視庁設置。各省庁の職制・事務章程制定(警視庁邏卒二千人を新たに各府県から召募増員・番人任用千人を含め定員六千人とし巡査と呼称)。明治八年三月行政警察規則制定。同年十一月府県職制並事務章程(第四課「警察課、警保課等」)により全国の警察組織体制が略統一化された。

こうした組織作りのなかで「廢刀令」(明九・三)「金録公債証書交付条例」(明九・八)が発布されたこと等により士族の反感も騰まり、また各地での農民暴動(和歌山・茨城・三重伊勢騒動)や事変(佐賀ノ乱・神風連ノ乱・秋月ノ乱・萩ノ乱等)が相次ぎ発生、その対応に警察も軍隊(明治三年常備兵〔藩兵〕四鎮台⇨明治六年徴兵令施行され六鎮台)と共同で鎮圧にあたる等忙殺され、大量募集した邏卒(巡査)に対する教育訓練は古参経験者に依存せざるを得ない状態であり、紀律の面においては、川路による「白守盟約」(白守規約)、「巡査黜陟例」(明治七・一)或は行政警察規則(明治八・三)による職務内容及び遵守事項が明示され、警視庁では「巡査本部」を置き巡視専務の警部による監督を実施し、巡邏査察を強化するほか川路の言行録「警察手眼」が指導教本とされたが、上級幹部に対する組織の管理運用及び執行務に関する具体的指導等も不可能な状態であったと推測される。そこで政府に於いては警察官の資質向上の必要性を痛感し、先ず適格者の採用を前提とし「巡査召募規則」(明治八年十二月内務省達乙一六八号)により一、年齢二十歳〜四十五歳 二、普通読書 三、二カ年以上要勤務 四、疾病無し 五、性質堅忍 六、保証人 七、破廉恥賊罪無し 等を採用基準とすることを全国に通達した。

明治九年初頭に至り鹿児島における私学校党の不穏な動向もあり警戒、十年一月警視庁を内務省に吸収警保局と統合して「警視局」(長は大警視川路利良)としたが、私学校党による火薬庫襲撃事件が発生いわゆる西南戦争の発端となり、新政府発足十年たらずで内戦となった。明治十年二月十五日西郷隆盛を盟主とし銃砲で武装した薩摩軍凡そ一万三千人が鹿児島を出発(途中募兵し約二万人または三万人になったという)、二月二十日頃より鎮台兵の守備する熊本城を中心に激しい攻防戦となった。

政府は有栖川宮熾仁親王を総督とする征討軍を各鎮台兵で旅団編成、警察官も「警視隊」(別働第三旅団・陸

軍少将川路利良)・「新撰旅団」(司令長官東伏見宮親王・臨時増員徴募巡查を陸軍に編入)として編成(総数九千五百人)警視庁史稿。『警視隊戦記』・後藤正義(一万三千人)され、熊本、大分、宮崎、鹿児島各県の山野で薩軍と交戦各地で大きな戦果をあげたが、犠牲者も戦死七百七十四人(警視庁百年の歩み)戦傷病死二百九十二人(後藤戦記)と多大の犠牲者を出している。

同年九月二十四日西郷の自決により西南戦争も終結したが、それより前同年四月征討軍は鹿児島に進駐、城山を包囲するとともに五月新たに警視官二百人を派遣・警視出張所(綿貫少警視・中佐)を設け、七月には近畿各縣より派遣警察官等をふくむ約二千人により市内の治安にあたらせた。(川路は七月一日病気を理由に鹿児島を離れ帰還)、その結果一応平穏を取り戻し各旅団も順次解散、警視隊も夫々東京に帰着した。然しその大部分の隊員は急遽募集された者(最終総人員未確認・参考 四参照)であり、一部には粗暴紀律違反が多く強制排除されたと言われる。勿論、此の戦争に動員された徴募巡查は「地域の安全と住民の保護」という警察官としての本来の任務(川路の云う「人民の保<sup>ホ</sup>傳<sup>デン</sup>」)とはほど遠い「軍隊」として編成され、「抜刀隊」に象徴されるように戦闘集団として利用されたのである。

ちなみに明治十年十二月末警視庁の「巡查」の階級人員は九千四十九人(警視庁史稿)が記録されているが、明治十一年十二月末・五千七十九人(三千九百七十人の減員)となっている

西南戦争終結により一応平穏を見たものの明治十一年五月政府の中心である大久保利通が暗殺され、八月には伊藤博文の暗殺未遂、近衛砲兵隊による竹橋事件の発生、十二月には岩倉具視が襲われる等不平不満分子による事件、その後における自由民権運動の騰まり、各地の農民一揆の多発等への対応のため、軍隊の整備とともに警察の体制強化が緊要となった。

川路大警視は我が国の警察制度の再構築を念願し、明治十二年二月再渡欧したが途中病に倒れ帰国同年十月十三日逝去された。然し川路の志は随員の佐和正・小野田元熙・林誠一等に受け継がれ、警視庁の再設置をはじめ全国警察の組織制度の整備確立に生かされることになる。

然し各地に於ける一揆暴動の頻發、自由民権運動の騰まり等に対応するためには更なる適格者の採用時の嚴選並びに教育訓練の充實が必要となり、警視庁（警視局）では明治十二年七月巡查教習所を設置（十四年一月廃止）また明治十三年一月「巡查採用規則」を定めた。各府県に於いてもこれに刺激され（滋賀・京都・埼玉・福岡・大阪・福島・愛媛・和歌山等）各縣において巡查教習所が開設され新採用者の教育訓練の実施を行なうこととした。

明治十四年一月内務省警視局を警保局に改め、警視庁を再設置（警視總監樺山資紀）。また同年十一月各府県に警部長（警察本署長）を置く（同年十二月各県に警部補）等制度の充實を図った。

明治十六年十二月山縣有朋が内務卿に就任、陸軍大学の幹部教養の経験から同様の幹部養成に着目、明治十七年二月「内治ノ進マンコトヲ望マハ先ツ警察ヲ拳ルニ在リ。」とし「警察官訓練ノ義上申」を提出「ドイツから警官学務を兼ね備えた人を招聘し、警部及び巡查を訓練教習すること」を提議した。

これを受けて警保局長清浦奎吉により幹部研修所の開設準備が進められ、我が国初の警察幹部の教育機関として「警官練習所」（所長松垣直枝）が設立され、ドイツからハインリッヒ・フリードリッヒ・ウイルヘルム・ヘーン警察大尉及びエミール・ロベルト・フィガセウスキー警察曹長の両氏が明治十八年三月六日來日、また国内の著名な法学者を講師に迎え四月十五日各都道府県選抜の警部・巡查百四十七名が人所開講された。

ヘーン大尉は明治二十二年三月練習所閉鎖までの四年間に五百五拾四名の警部（警部補）巡查の教育訓練に携わった（その後明治二十三年四月から帰国までの一年間警視庁顧問）。これら練習所卒業生が各府県に於いて警官の養成に、また幹部として新しい時代の警察の基礎造りに大きく貢献したことは言うまでもない。

またヘーン大尉は、在日中勤務の余暇を利用して全国各府県を巡回視察し、私的旅行をした北海道と沖縄県を除き其の足跡は東北地方から九州各縣に至り、前後六回三十四府県警察「東京は別途」に及び、延べ三百三十七日に亘り、当時鉄道も未開通であり交通手段も極めて悪い山間僻地まで足を運び、直接現地施設や道路事情等を視察、必要書類の閲覧、関係者への質問を行ない實状把握に努めている。（復命書確認の縣のみ計上）。

視察の結果は其の都度短時間のうちに纏め「巡回復命書」として提出しているが、其の内容は各府県の組織体制、夫々の業務執行、警察官の処遇に至るまで広範に且つ細部にわたり国の施策として採り入れ、また改善すべき事項について具体的に指摘している。この復命書の一部については内務省警保局発行の警察研究資料のほか、慶応大学手塚豊名誉教授<sup>註1</sup>、警察大学校田村正博教授（現福岡県警察本部長）<sup>註2</sup>による解説論文その他識者の解説や関係府県警察史に記載され、我が国警察の育ての親として広く尊敬され且つ指導教本として活用されていることは周知のとおりである。

その間内務省においては明治一九年四月「巡查教習規則標準」を定め（明三〇・四改正・巡查教習概則）により新募集巡查の教育訓練を指示、現職巡查に対しては「巡查訓授例」を示して署長・分署長による指導教養を指示し、更に明治二十四年九月「巡查採用規則」（内務省訓令第二十一号）により巡查の試験採用、年齢二十年以上三十年未満その他採用条件について詳細に定めた。

尚巡閲規則が制定された当時は、地租軽減の要求、言論集会の自由等の運動及び不平等条約の改正、憲法草案の起草等をめぐる政治社会問題で揺れ動いていた。（明治二十年十二月に保安条例の公布実施）。

註1 手塚豊教授「ヘーン大尉『長野新潟石川富山福井五縣巡回復命書』警察研究第四七卷五号〜九号」・

『千葉縣巡回復命書』法学研究第四九卷六号

註2 田村正博教授「地域警察研究ノート4〜5」「ヘーン大尉栃木群馬福島三縣復命書」上下・警察学論集第四八卷第一〜二号

## （2）巡閲規則の変遷

○ 本巡閲規則の実施時期（第二条）について、年度初めに県下全署の巡閲は困難のため「四〜五月」を「年一回」に改められた（明治二十六年五月）。

兵庫県においては「警察巡閲手続」を制定し次の区分により実施した。

1 「閲査」警察実務及び公文書類・器具その他、訓授・点検・礼式・演習等の検査

2 「稽査」諸般の事務方法又は取扱い手続等を署長又はその主任者に親問する検査

然し規定どおりに警部長が春季に県下全署巡閲実施が困難のため、警察署分署五十九署のうち二十二署を実施（大正二年度）報告した。これに対し「どのような事情があるうとも少ない、監督上遺憾今一度計画」するよう指摘されたと云う。

このような実情から、規定上（第二条）の期間内に警部長による全署実施の困難性等のことから次の改正が行なわれた。

○ 大正十年九月・巡閲官の代理を警視とすることができ（第二条）。査閲項目二十項目を十四目に整理（第二条）し、一般市民の直接申告の受理（第五条）廃止

○ 昭和十三年八月・戦時対応のため本規則廃止。各府県の実情に応じた監察を実施

（注）現行の「監察に関する規則」（国家公安委員会規則第二号）に実施項目に関する定めは無い。

### 参考

○ 初期に於ける警視庁警察官の増員数等

既に述べたように、明治初期の政情不安定のなかで首都治安対策の第一は邏卒巡査の要員確保であり、組織体制の充実であったが、各地で発生した施策反対のための各種事件暴動が頻発し、対応不十分の儘明治十年西南戦争の発生となった。そこで徴兵令施行後日浅い徴募軍隊と併せ、本来地域住民の保護、安全の確保を責務とする警察官の増員強化により戦闘行為への参加が図られたものと思はれる。かくして警察の各種職務執行及び紀律・服務等厳格に遵守すべきことからはこの次にされ徴募増員により臨戦非常事態の体制で対応してきた。

以下例を明治初期における首都東京（警視庁）の邏卒・巡査の募集及び増員並びに西南戦争における増員等の概況を見ると、当時の関係者が如何に組織体制の維持に困難を極めたかが伺われる。

一 邏卒三千人（明治四年）について

○ 既述のとおり「警視庁史稿」では「強健ニシテ方正ナル丁男二千人許ヲ鹿兒島ニ徵募特ニ典事川路利良ヲ同県ニ差遣シ之ヲ引率帰京セシメ又別ニ健兒一千人許ヲ各府県ニ徵募シ」とし、「警視庁史」（明治編）は「邏卒三千人のうち千人を西郷隆盛が鹿兒島から、千人を川路利良が鹿兒島から徵募、残り千人を他の府県の旧藩士のうちから募集し」としている。

○ 「太政類典」（明治四年八月十七日）は「鹿兒島県へ達・東京警固トシテ卒千人可差出旨二月中達」としている。

○ 鹿兒島県警察史

|| 川路利良は太政官令達に接すると早速邏卒を採用したが、総勢三、〇〇〇人のうち鹿兒島県人が一、〇〇〇人であったという。|| 当時の縣による邏卒希望者募集の通達 ||

一 東京警固卒千人

但二拾歳より四拾歳

右至急上京被仰付士族並諸局附属迄之内より人撰をもって被仰付候間懇望之者は来る十二日限願出候様向々へ可申渡事

但無筆之者は不被仰付候

辛未九月

傳事

○ 野上傳藏著「大警視の生涯」には「〓応募者千五百人に対し川路が明治四年十二月十日から鹿児島県庁で面接術技試験を実施し、十二月十七日千人を汽船三隻に分乗させ東上〓各藩を通じて募集した二千人のら卒試験は翌五年一月東京で行い予定通り三千人のら卒は勢揃い〓」と前後の経緯及び状況を物語り風に記述している。

〈注〉邏卒三千人のうち鹿児島から千人か、或は二千人か諸説あり実数判然せず。

尚この年（明治四年二月）三藩（鹿児島・山口・高知）から出兵し「親兵」を設置することを決定。

西郷は帰藩の上常備兵ノ内四大隊・砲兵四小隊（三、一七四人）を上京させたという（松尾正人『廢藩置県』中公新書）。

二 明治五年四月一日 東京府邏卒一千人増加（警視庁史稿）

同年八月二十三日 警保寮・東京府から司法省に移管

（明治七年一月九日警保寮・内務省に移管）

三 警視庁設置（明治七年一月十五日）邏卒二千人召募（以下警視庁史稿卷二）

明治七年一月十七日 「邏卒二千人ヲ各府県ニ召募シ府下ニ配置ス

山口縣四百人 和歌山縣百人 置賜縣百人 栃木縣百五十人 酒田縣百人 三重縣五十人 新潟縣百五十人

青森縣三十人 若松縣百七十人 長野縣五十人

岐阜縣五十人 茨城縣百人 敦賀縣五十人 白川縣二百人 滋賀縣五十人

三瀨縣五十人 東京府二百五十人

尋テ二月三日太政官其費金三十万七千八百七十八円ヲ下付スト云フ

〔番人〕を廢し巡查とす・巡查定員六千人とする

（注）各縣も邏卒・巡查の増員を実施

四 西南戦争関連の増員（警視庁史稿）



○ 明治十年四月六日

巡查三千人ヲ東北各縣ニ徵募スルヲ太政官ニ稟議取決ス

本局巡查ヲ九州地方ニ発遣スル者頗ル多ク往キ二千二百名ヲ増員シ且茨城等各縣ヨリ臨時二千六百名ヲ徵募セシモ員内又千百名余ヲ発遣セシニ由リ東京ノ巡查四千四百余名ニ過キス平時六千名ヲ以テ定員トスル者日下非常ノ時ニ際シ、平時三分ノ一ヲ減シ加ルニ皇城、太政官代等ヲ守衛スヘキノ命アルヲ以テテ本省ヨリ巡查三千人ヲ東北諸縣ニ徵募センコトヲ太政官ニ稟議シ即日裁可ヲ得タリ

○ 明治十年四月十八日 巡查一千人ヲ徵募スルヲ太政官ニ稟議取決ス

本月六日本省ヨリ太政官ニ稟議シ巡查三千人ヲ徵募ス 然ルモ猶充備セサルヲ以テ再ヒ本省ヨリ更二千名ヲ増募センコトヲ太政官ニ稟議シ裁可ヲ得タリ

○ 明治十年五月新撰旅團編成（司令長官東伏見宮彰仁親王）に際し前記増員巡查の相当数（実数不明）が内務省（警視局）から陸軍省に派遣編入され、陸軍法規（「新撰旅團編入約法」陸軍省）※註、のもと宮崎県、鹿児島県下の各地で戦闘に参加、戦後解散（十月二十日或は三十日と言われる）。然し生存者のうちどれ程の人数が内務省（警視局）に復帰したか詳細不明である。

同史稿及び『警視令鑑』に次の記述あるも爾後の措置等未解明

○ 陸軍省達『新撰旅團ヲシテ解隊帰郷セシム』

「旅団中尚陸軍ニ従事セント欲スル者其士官心得ヲ勤メシ者ハ願書ヲ徵シ他日召集ノ期ヲ待タシメ巡查ハ検査合格ノ後教導團ニ入学セシム」

○ 十月三十日

警視令鑑第二百六十一（警第三百九号）

舊新撰旅團 警部心得 警部補心得 巡查心得

「先般臨時巡查ヲ以テ新選旅團編成陸軍省へ引渡置候処同團解散ニ付本日当局へ請取候條

此旨可相心得候事

以上東京府に於ける邏卒の募集及び西南戦争に伴う警視庁（警視局）に於ける数次に亘る徵募増員が行われたと思われるが概数のみにてその実数については把握できなかつた。また各旅團が解團した後の警視隊員の帰属配置状況（各方面署等に再配置等）、特に新撰旅團の編成状況及び戦後解團・復帰後（皇居前で閱兵後解散と云う）の処遇等については未解明の儘である。

※註「新撰旅團編入法」 陸軍省

第一項 新撰旅團ハ内務省ニ於テ臨時募集シ或ハ出願ヲ許可セシ巡查ノ内ヲ以テ編制シ之ヲ陸軍省ニ属セシメ他ノ軍人同一ノ用ヲ為サシム

第二項 旅團編入ノ者ハ第一軍管内習志野原ニ於テ營所ヲ設ケ之レニ在屯セシメ適宜ノ時日ヲ期シテ實地演習ヲ為サシム可シ

第三項 旅團編入ノ巡查俸給被服其他一切内務省ヨリ支給スト雖モ携帯銃器彈藥等ハ之レヲ陸軍省ヨリ支給ス  
第四項 旅團編入中ハ巡查ノ名稱ヲ存シ總テ陸軍ノ法令ヲ遵守シ各々軍人タルノ志操ヲ辱シメス上長官ノ命令ニ服従スヘシ夫レカ為メ編入ノ節左ノ誓文ヲナサシム

官 姓 名

連 名 官 姓 名

官 姓 名

此度新撰旅團へ編入被命候上ハ身命ヲ抛チ從事スヘキハ勿論陸軍一般ノ御定規ヲ遵行シ假令如何様ノ故障有之候共解散ノ御下命迄ハ決テ離隊等申立間敷候依テ誓文如件

年 月 日

新撰旅團司令長官

官 姓 名 殿

- 第五項 新撰旅團司令長官上長官士官下士ハ陸軍武官ヨリ之レヲ命セラル、ト雖モ既ニ警視ノ部分ニ在テ警部  
以上ノ心得ヲ以テ勤務セル者ハ其才幹ニ從ヒ上下士官ノ心得ヲ以テ應分ノ職務ヲ執ラシム
- 第六項 情願ニ依リ同郷ノ者ヲ以テ編伍セシムヘシト雖モ其大隊或ハ中小隊剰余ノ人員ハ之レヲ各隊ニ混合編  
入スルコトアルヘシ
- 第七項 非常警戒ノ事畢リ解除スルトキハ編入ノ巡查ハ悉ク之レヲ内務省ニ引渡ス可シ
- 第八項 編入中若シ公務ニ因リ死亡又ハ傷痍ヲ受クル者ハ陸軍恩給令ニ照シ扶助ヲ下附スヘシ
- 第九項 編入中罪ヲ犯シタル者ハ總テ軍人ト同シク軍法ニ照シ之レヲ所置スヘシ
- 第十項 臨時召募及ヒ志願ノ巡查旅團へ編入前ト解隊後ニ係ル旅費其他共總テ内務省ニ於テ處分スル者ナレハ  
爰ニ揭示セス

## 参考資料等

- 警察監獄学会雑誌（第一号―第二卷第十二号）。太上類典第二編。東京市稿。警視庁史稿。警視庁史（明治編）。兵庫県警察史。愛知県警察史。福岡県警察史。鹿児島県警察史。高知県警察史。明治警察史研究第一卷（高橋雄豺）。西南戦争警視隊戦記（後藤正義）。大日方純夫「西南戦争における『巡查』の臨時徴募」『日本歴史二六二号』。警視庁文書課及び矯正協会図書館の資料を引用させて頂きました。
- 本規則は当時警察執行務の指針とされた「警務要書」（明治一八・六内務省警保局）及びヘーン大尉の巡回視察復命書（第一回・栃木、福島、群馬〓明治一九・一・五復命）（第二回・静岡、愛知、岐阜、滋賀、三重〓明治一九・九・一五復命）（第三回・大阪、京都、兵庫〓明治二〇・一・二九復命）で指摘した事項も参考にされたのではないかと思われる。解説本文の第三條第三項「執行事務の監督及警邏の監督」の項の他にもヘーンの指摘が引用されている。

調査不足資料未発見のため人員、編成、配置等正確さを欠くものも多く散漫なものとなったが、極力傳聞と思われるものを避け資料として提供した。浅薄粗雑な纏めとなったことをお詫びしご指摘ご指導をお願いする次第である。

編者（T）